

平成 27 年度事業報告書

自 平成 27 年 4 月 1 日

至 平成 28 年 3 月 31 日

公益財団法人浜松地域イノベーション推進機構

平成28年6月

目 次

平成 27 年度事業の主な成果指標	P 1
平成 27 年度事業報告書	P 5
1 【知る】情報発信・分析	
1 広報事業（支援情報発信・企業情報発信）	《市委託》 P 5
2 【解く】相談・コンシェルジュ	
2 相談事業（専門家派遣事業含む）	《市委託》 P 7
3 研究会推進事業	《地域企業から受託》 P 9
4 産学官連携推進事業	《市委託》 P 12
3 【学ぶ】人材育成支援	
5 人材育成事業	
（1）新素材基礎技術講座	《市委託》 P 13
（2）製造中核人材育成事業	《市委託》 P 15
（3）3次元デジタル技術講座	《市委託》 P 20
（4）パワーエレクトロニクス技術講座	《市委託》 P 21
（5）【新規】デザインマネジメント事業	《市委託・財団自主》 P 23
（6）浜松ものづくりマイスター推進事業	《市委託》 P 26
4 【興す】創業・第二創業支援	
6 創業・新事業展開事業	
（1）創業支援事業	《国補助・市委託》 P 29
（2）新事業展開プロデュース事業	《市委託》 P 32
（3）起業支援セミナー	《財団自主》 P 33
7 半田山TBG活用運営事業	《財団自主》 P 34
8 債務保証事業	《財団自主》 P 35
5 【活かす】知財総合支援	
9 知的財産活用推進事業	
（1）知的財産に関する相談事業	《市委託》 P 37
（2）知的財産活用講演会・講習会	《市委託》 P 38
（3）特許等出願支援補助金事業	《市委託》 P 41
（4）「はままつ知財研究会」との連携	《他機関から受託》 P 43
（5）特許流通支援事業	《県委託》 P 44
（6）【新規】規格認証取得等支援事業	《市委託》 P 45

6 【創る】新事業開発支援

1 0	技術開発・新産業創出支援事業	
(1)	〔構造材〕新素材・新成形技術事業化研究会	・ ・ ・ ・ ・ 《市委託》 ・ ・ P 47
	浜松地域CFRP事業化研究会	・ ・ ・ ・ ・ 《市委託》 ・ ・ P 47
	浜松地域チタン事業化研究会	・ ・ ・ ・ ・ 《市委託》 ・ ・ P 49
	浜松地域マグネシウム事業化研究会	・ ・ ・ ・ ・ 《市委託》 ・ ・ P 51
	浜松地域ウルトラハイテン事業化研究会	・ ・ ・ ・ ・ 《市委託》 ・ ・ P 54
	【新規】ファインセラミックス事業化検討会	・ ・ ・ ・ ・ 《市委託》 ・ ・ P 57
(2)	【新規】〔金属機能材〕新素材・新成形技術事業化研究会	・ 《市委託》 ・ ・ P 59
(3)	浜松地域パワーエレクトロニクス事業化研究会	・ ・ ・ ・ ・ 《市委託》 ・ ・ P 60
1 1	新産業創成事業	・ ・ ・ ・ ・ 《市委託》 ・ ・ P 65
(1)	事業化可能性調査費補助金	・ ・ ・ ・ ・ 《市委託》 ・ ・ P 65
(2)	新産業調査	・ ・ ・ ・ ・ 《市委託》 ・ ・ P 69
1 2	地域イノベーション戦略推進事業	・ ・ ・ ・ ・ 《国補助》 ・ ・ P 70
1 3	国等の研究開発事業化支援事業	・ ・ ・ ・ ・ 《国補助・財団自主》 ・ ・ P 77
1 4	【新規】競争的資金等獲得支援事業	・ ・ ・ ・ ・ 《市委託》 ・ ・ P 78
1 5	はままつ次世代光・健康医療産業創出事業	・ ・ ・ ・ ・ 《財団自主》 ・ ・ P 80
1 6	次世代技術調査事業	・ ・ ・ ・ ・ 《財団自主》 ・ ・ P 80
1 7	地域産業活性化事業	・ ・ ・ ・ ・ 《財団自主》 ・ ・ P 81

7 【拓く】販路開拓支援

1 8	ものづくり販路開拓支援事業	・ ・ ・ ・ ・ 《市委託》 ・ ・ P 86
1 9	浜松地域販路開拓・マッチング支援事業	・ ・ ・ ・ ・ 《財団自主》 ・ ・ P 89
2 0	【新規】海外ビジネス展開支援事業	・ ・ ・ ・ ・ 《市委託》 ・ ・ P 90
2 1	地場産業振興事業	・ ・ ・ ・ ・ 《財団自主》 ・ ・ P 91

参考資料

財団の運営

1	基本財産及び基金	・ ・ ・ ・ ・ P 1
2	役員及び委員	・ ・ ・ ・ ・ P 2
3	会議	・ ・ ・ ・ ・ P 4
4	賛助会員	・ ・ ・ ・ ・ P 7
5	事務局体制	・ ・ ・ ・ ・ P 8

平成27年度事業の主な成果指標

1 広報事業

項目	実績		目標
	平成26年度※1	平成27年度※2	平成27年度
①ホームページアクセス件数	52,787件	45,836件	55,000件
②メールマガジン配信登録件数	1,718件	2,018件	1,800件

※1：平成27年3月末日時点、※2：平成28年3月末日時点（以下、同じ）

2 相談事業

項目		H26 (件) ※1	対前年比 (H27/H26)	H27 (件) ※2
技術相談	技術開発	42	45.2%	19
	人材	1	300.0%	3
	その他	46	169.5%	78
	小計	89	112.3%	100
経営相談	資金	40	32.5%	13
	創業※3	190	18.9%	36
	販路開拓	198	90.9%	180
	新事業展開	194	32.4%	63
	海外進出・海外事業展開	74	121.6%	90
	補助金・競争的資金	111	71.1%	79
	広報・宣伝	11	81.8%	9
	法令・専門家派遣等	256	57.4%	147
	事業計画・計画改善	7	85.7%	6
	その他	294	33.6%	99
小計	1,375	52.5%	722	
知財相談	技術移転	10	50.0%	5
	特許	411	92.2%	379
	実用新案	14	150.0%	21
	意匠	69	72.4%	50
	商標	154	144.1%	222
	ノウハウ	13	53.8%	7
	社内体制	2	150.0%	3
	その他	59	77.9%	46
小計	732	100.1%	733	
相談総件数		2,196	70.8%	1,555

※3：はままつ起業家カフェ開所前及び経営コーディネーター持込関連の相談件数

※平成27年度は前年度に対して経営コーディネーター1名減

3 人材育成事業

項目	実績		目標
	平成26年度 ^{※1}	平成27年度 ^{※2}	平成27年度
①新素材技術講座受講者数	平均 25 名	平均 16 名	平均 25 名
②新素材技術講座受講者満足度	99%	80 %	90%以上
③製造中核人材講座受講者数	26 名	26 名	25 名以上
④製造中核人材講座受講者満足度	100%	100 %	80%以上
⑤パワーエレクトロニクス 技術講座受講者数	15 名	12 名	15 名
⑥パワーエレクトロニクス 技術講座受講者満足度	92 %	93 %	93%以上
⑦デザインマネジメント啓発 イベント参加企業満足度	—	100%	90%以上
⑧浜松ものづくりマイスター インターンシップ参加者数	72 名	12 名	15 名
⑨浜松ものづくりマイスター インターンシップ参加者満足度	90%	100 %	90%以上

4 創業・新事業展開事業（新事業展開プロデュース事業）

項目	実績		目標
	平成26年度 ^{※1}	平成27年度 ^{※2}	平成27年度
①新規事業サポート企業数	9 社	5 社 (+継続 5 社)	8 社以上 ^{※3}
②創業者への支援数	—	0 者	2 者以上

※3：平成26年度からの継続案件5社を含む

5 知的財産活用推進事業

項目	実績		目標	
	平成26年度 ^{※1}	平成27年度 ^{※2}	平成27年度	
①相談対応件数	683 件	711 件	650 件	
②出願支援件数	特許	13 件	28 件	計 40 件
	実用新案	0 件	2 件	
	意匠	5 件	3 件	
	商標	19 件	42 件	
③出願支援件数 (特許等出願 支援補助金案 件)	特許	9 件	16 件	計 16 件
	実用新案	0 件	0 件	
	意匠	1 件	1 件	
	商標	2 件	2 件	

※①は静岡県発明協会の知財総合支援窓口担当による相談件数を含む

6 技術開発・新産業創出支援事業

項目	実績		目標
	平成 26 年度 *1	平成 27 年度 *2	平成 27 年度
プロジェクト、部会、WG、分科会			
①浜松地域 CFRP 事業化研究会	8 回	12 回	2 回以上
②浜松地域チタン事業化研究会	2 回	2 回	2 回以上
③浜松地域マグネシウム事業化研究会	6 回	5 回	3 回以上
④浜松地域ウルトラハイテン事業化研究会	12 回	6 回	1 回以上
特許、意匠登録			
①浜松地域チタン事業化研究会	0 件	0 件	3 件 (H26～28)
②浜松地域マグネシウム事業化研究会	0 件	0 件	3 件 (H26～28)
③浜松地域ウルトラハイテン事業化研究会	0 件	0 件	3 件 (H26～28)
売上げ			
①浜松地域チタン事業化研究会	6,000 千円	1,000 千円	30,000 千円 (H26～28)
②浜松地域マグネシウム事業化研究会	13,625 千円	36,000 千円	30,000 千円 (H26～28)
③浜松地域ウルトラハイテン事業化研究会	0 千円	0 千円	30,000 千円 (H26～28)
新規事業化研究会、新規プロジェクト立ち上げ			
①浜松地域パワーエレクトロニクス事業化研究会 新規プロジェクト立ち上げ	—	0 件	1 件

7 新産業創成事業（事業化可能性調査費補助金）

項目	実績		目標
	平成 26 年度 *1	平成 27 年度 *2	平成 27 年度
①提案採択件数	5 件	6 件	6 件

8 地域イノベーション戦略推進事業（浜松・東三河ライフフォトニクスイノベーション）

項目	実績		目標
	平成 26 年度 *1	平成 27 年度 *2	平成 27 年度
①特許等出願数	121 件	228 件	172 件
②事業化数	57 件	150 件	50 件

9 国等の研究開発事業化支援事業（「戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン事業）」）

項目	実績		目標
	平成 26 年度 *1	平成 27 年度 *2	平成 27 年度
①サポイン提案支援件数	3 件	1 件	3 件
②サポイン提案採択件数	3 件	1 件	1 件

1 0 競争的資金等獲得支援事業

項目	実績		目標
	平成 26 年度 ※1	平成 27 年度 ※2	平成 27 年度
①補助金採択支援企業数	— 件	4 件	5 件

1 1 ものづくり販路開拓支援事業

地域	項目	実績		目標
		平成 26 年度 ※1	平成 27 年度 ※2	平成 27 年度
国内	①出展社数 ※報告書受領分	28 社	32 社	31 社
	②ブース来場者数	285 名	292 名	170 名
	③名刺交換数	61 名	82 名	70 名
	④商談件数	7 件	10 件	10 件
	⑤商談成立件数	25 件	37 件	10 件
海外	①出展社数 ※報告書受領分	3 社	2 社	3 社
	②ブース来場者数	453 名	290 名	300 名
	③名刺交換数	56 名	95 名	100 名
	④商談件数	6 件	17 件	10 件
	⑤商談成立件数	4 件	1 件	3 件

※②～④の実績数字は 1 社平均の数字

1 2 浜松地域販路開拓・マッチング支援事業

項目	実績		目標
	平成 26 年度 ※1	平成 27 年度 ※2	平成 27 年度
①出展社数	48 社	— 件	50 社
②商談件数 (取引成立)	5 件	— 件	5 件

1 3 海外ビジネス展開支援事業 (海外展開事業化可能性調査費補助金)

項目	実績		目標
	平成 26 年度 ※1	平成 27 年度 ※2	平成 27 年度
①海外展開事業化可能性調査費補助金提案採択件数	3 件 (市直営)	6 件	6 件

1 4 その他 財団業務全般を通じた成果

項目	実績		目標
	平成 26 年度 ※1	平成 27 年度 ※2	平成 27 年度
①製品化・事業化につながった相談件数	23 件 ※3	31 件 ※3	30 件
②マッチングにつながった相談件数	53 件	78 件	60 件
③新規顧客の相談件数 (新規顧客相談/全相談)	152 件 (7.7%)	180 件 (15.79%)	120 件
④新規案件の相談件数 (新規案件相談/全相談)	243 件 (12.4%)	214 件 (18.77%)	240 件

※3：サポイン案件を含まず

※①②の実績数値は独自の製品化・マッチング件数調査による

※③④の実績数値はコーディネーター日報から件数を抽出

平成27年度事業報告書

※金額はH27年度決算額、()内はH27年度最終予算、<>内は財源

1【知る】情報発信・分析

1 広報事業

決算額 836,025 円（予算額 1,200 千円）<浜松市>

【目的】

地域企業、大学・研究機関等の最新の活動内容や国・県・市の補助金等の支援情報などをホームページやメールマガジン等を通じて発信し、地域企業に対して、研究開発や事業化に有益な支援情報を提供する。また、地域企業の情報や経済・産業動向を収集及び把握し、ニーズに合った支援策の検討に取り組む。

【実施内容】

(1) ホームページ、メールマガジン等による情報発信

ホームページについては、当財団の支援制度や発行物、他地域支援機関の情報を随時発信すると共に、国・県等の補助金制度情報の閲覧ページを随時更新し、地域企業に有効な支援情報の集約と選別、発信に努めた。また、3分の事業紹介動画を掲載し、財団事業の周知を図ると共に、在籍コーディネーターの紹介ページの新設を通じて、相談業務の強化に努めた。

更に、メールマガジンを通じて、当財団をはじめとする公的機関、各種支援機関からの講演会、講習会、補助金などの産業支援情報やお役立ち情報を毎月2回（第1・第3水曜日）配信すると共に、ソーシャルネットワークであるツイッターとフェイスブックを用いてホームページの新着情報を中心とした広報展開を試行した。

その他、財団の事業紹介パンフレットの改訂や財団の支援実績及び特徴的企業情報の蓄積を目的とした新聞や雑誌等の関連記事の収集などに取り組んだ。

(2) 浜松地域産業支援ネットワーク会議

地域の7つの産業支援機関からなる「浜松地域産業支援ネットワーク会議」の事務局を担い、毎月定例のワーキング会議において中小企業支援等の情報共有や事業連携を推し進めた（計9回開催）。第2四半期には各機関の代表で構成する委員会を開催した。

[参加団体] 浜松市、浜松商工会議所、(株)浜名湖国際頭脳センター、静岡県中小企業団体中央会西部事務所、静岡大学イノベーション社会連携推進機構、静岡県工業技術研究所浜松工業技術支援センター、(公財)浜松地域イノベーション推進機構

[オブザーバー] (独)中小企業基盤整備機構関東本部浜松イノベーションキューブ、日本貿易振興機構浜松貿易情報センター

(3) 調査・分析

企業概要データ（帝国データバンク提供約2,400企業+財団独自取得1300企業）と当財団コーディネーターによる支援の履歴情報を一元化管理するデータベース（DB）システムを運用し、地域企業の支援ニーズの把握や新規支援先企業の情報管理に活用した。

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 26 年度 ※1	平成 27 年度 ※2	平成 27 年度
①ホームページアクセス件数	52,787 件	45,836 件	55,000 件
②メールマガジン配信登録件数	1,718 件	2,018 件	1,800 件

※1：平成 27 年 3 月末日時点

※2：平成 28 年 3 月末日時点

【総括】

情報発信について、ホームページの国・県等の補助金制度情報の閲覧ページは、平成 26 年度の掲載情報数年間 91 件に対して、平成 27 年度は 98 件（補助金情報 48 件、その他支援 50 件）に達している。また、情報表示を目的・用途別に改め、閲覧者の視点で見やすく使いやすいページづくりに取り組んだ。

しかしながら、アクセス件数は目標達成には至らず、その要因としては、人材育成事業の事業精査（組替、廃止等）に伴う事業の減少と人材育成事業が啓発セミナー（多数）から専門性の高いセミナー型（少数）へ一部移行したことが大きな要因と考察する。今後も引き続き、地域の産業支援機関との連携を強め、地域企業にとって質・量共に充実した情報を発信すると共に、支援施策ガイドの発行などホームページへ誘導するためのツールを作成して、財団ホームページの認知度を上げる。

調査・分析について、平成 28 年度の事業立案や新規顧客の獲得を目的として、セミナー参加情報等のデータを整理したほか、特徴的で優秀な地域企業をまとめた一覧表について、公的表彰の受賞歴を基に更新し、DB システムに登録し、情報の一元化を進めると共に、DB システムの利便性向上に向けた課題を整理して改修の仕様をまとめ、着手した。これにより、支援企業の数値情報を「相談対応」「セミナー参加」「補助金交付」等の項目別で集計できるようになり、成果報告に要する集計・検算事務の大幅な軽減を実現した。今後も引き続き財団成果の見える化を念頭に置いてシステムを運用していく。

平成 26 年度から広報事業の充実に努めてきたが、「財団に対する認知度・信頼度」をより高めていくためには、「支援情報の量・質」を更に向上する必要がある。そこで、制作を進めた平成 28 年度支援施策ガイドブックを新たな財団 PR ツールとして、地域企業に対する支援の幅を広げていく。

2【解く】相談・コンシェルジュ

2 相談事業

決算額 3,198,289 円（予算額 4,300 千円）〈浜松市〉

【目的】

経営革新や新事業展開を図ろうとする中小企業等が抱える様々な問題に対して、財団コーディネーターが適切な助言を行うことにより、中小企業等の順調な発展及び成長を促進する。より専門的なアドバイスや指導が必要となる相談に対しては、財団が設ける専門家派遣制度の登録専門家を派遣し、財団のコーディネーターと連携を図りながら課題の解決に取り組む。

【実施内容】

(1) 各種相談

中小企業者や個人事業者等が抱える経営、技術、人材、特許等の種々の課題に対し、経営・技術・知財のコーディネーターが積極的に相談に応じ、企業の目線に立って必要な助言を行った。相談内訳は以下表のとおり。

項目		H26 (件) ※1	対前年比 (H27/H26)	H27 (件) ※2
技術相談	技術開発	42	45.2%	19
	人材	1	300.0%	3
	その他	46	169.5%	78
	小計	89	112.3%	100
経営相談	資金	40	32.5%	13
	創業 ※3	190	18.9%	36
	販路開拓	198	90.9%	180
	新事業展開	194	32.4%	63
	海外進出・海外事業展開	74	121.6%	90
	補助金・競争的資金	111	71.1%	79
	広報・宣伝	11	81.8%	9
	法令・専門家派遣等	256	57.4%	147
	事業計画・計画改善	7	85.7%	6
	その他	294	33.6%	99
小計	1,375	52.5%	722	
知財相談	技術移転	10	50.0%	5
	特許	411	92.2%	379
	実用新案	14	150.0%	21
	意匠	69	72.4%	50
	商標	154	144.1%	222
	ノウハウ	13	53.8%	7
	社内体制	2	150.0%	3
	その他	59	77.9%	46
小計	732	100.1%	733	
相談総件数		2,196	70.8%	1,555

※1：平成 27 年 3 月末日時点、※2：平成 28 年 3 月末日時点

※3：はままつ起業家カフェ開所前及び経営コーディネーター持込関連の相談件数

※平成 27 年度は前年度に対して経営コーディネーター1 名減

(2) 専門家派遣事業

専門性を有する相談に対し、内容に応じて経営・技術・知財の分野区分で登録されている民間の専門家を派遣した。平成 27 年度の派遣実績は以下表のとおり。

分野	平成 26 年度 ※1		平成 27 年度 ※2	
	対象企業数	派遣回数	対象企業数	派遣回数
経営	29 社	136 回	19 社	88 回
技術	2 社	6 回	3 社	15 回
知財	0 社	0 回	0 社	0 回
合計	31 社	142 回	22 社 (70.9%)	103 回 (72.5%)

※1：平成 28 年 3 月末日時点、

※2：平成 28 年 3 月末日時点（ ）内は、対前年比（H26/H27）

【成果指標】

項目（5 段階）	実績（平均値）		目標
	平成 26 年度 ※1	平成 27 年度 ※2	平成 27 年度
企業数	31 社	22 社	28 社
①専門家の助言内容	2.8	4.5	4.0
②専門家の姿勢	2.8	4.8	4.0
③専門家とのマッチング	2.7	4.5	4.0
④専門家の助言のわかりやすさ	2.7	4.5	4.0
⑤専門家の助言の進め方	2.7	4.5	4.0
⑥専門家の総合評価	4.3	4.6	4.5

※1：平成 27 年 3 月末日時点、※2：平成 28 年 3 月末日時点

※①～⑥は企業からのアンケート評価。平成 26 年度は①～⑤が 3 段階評価（最高点 3）、⑥が 5 段階評価（最高点 5）。平成 27 年度は①～⑥全てが 5 段階評価（最高点 5）

【総括】

相談事業によって中小企業等が抱える課題や地域の市場動向等を常に最新の状態で把握することができ、それらの情報を活かしながら、地域企業の課題解決のために財団のコーディネーターが日々活動している。平成 27 年度の相談内容は、経営相談では「販路開拓」「海外進出・海外事業展開」「法令・専門家派遣等」、知財相談では「特許」「商標」が多く、平成 26 年度と同じ傾向が見受けられた。これらの状況を踏まえ、財団登録専門家については、特に販路開拓や海外展開等に精通し、様々な業種に対応できる専門家登録の整備が必要であると考えます。

また、平成 27 年度の相談件数に関しては、平成 27 年 7 月に開設した起業家カフェに創業相談を一元化したことによる減少や経営 CD の退職による 1 名減によって、経営相談全般が減少したと考察する。

平成 28 年度は、企業訪問事業と相談業務の中核を担う専門家派遣事業を連動し、財団のコーディネーターが専門家派遣の必要性を見極めながら有効活用し、地域の中小企業の経営改善から新事業の構築、販路開拓支援による出口戦略までを見据えた総合的な支援を心がけていく。

3 研究会推進事業

決算額 一 円（予算額 一 千円）＜地域企業受託事業＞
※研究会費の2割を受けて事務局運営を担う

【目的】

各種研究会の事務局として、総会や幹事会、セミナー、講座等の運営に係る側面支援を行うことにより、企業間の連携・交流を促進する。

【実施内容】

各種研究会において年度総会を開催し、平成26年度事業報告及び平成27年度事業計画の決定を行った。引き続き、企業のニーズに合った講演会の企画や事業運営のサポートを実施した。

(1) 異業種交流グループ

① TM プラザはままつ

正会員数：33社

総 会：平成27年4月14日（火）

講演会 1：平成27年4月14日（火）

「トヨタ生産方式の導入による業務効率化の実現～（非製造業）
ネット買取・販売における事例紹介」

視察会 1：平成27年9月8日（火）

（株）イノベタス（富士市）・葦山反射炉

講演会 2：平成27年11月12日（木）

「改正労働安全衛生法と改正労働者派遣法」

講演会 3：平成28年2月9日（火）

「電力小売自由化について」

視察会 2：平成28年3月8日（火）

中部電力へきなんたんトピア（愛知県 碧南市）

② 浜松技術交流プラザ 82

正会員数：17社

総 会：平成27年4月21日（火）

講演会 1：平成27年4月21日（火）

「企業業績を上げるためのワークバランスの取り組み」

視察会 1：平成27年11月10日（火）

安田工業（株）（岡山県浅口郡里庄町）

講演会 2：平成27年12月15日（火）

「グローバル競争を勝ち抜く経営戦略セミナー」

講演会 3：平成28年1月27日（水）

「人工知能(AI)がもたらす新しい世界」

（共催：都田アソシエイツ、ソフトウェア産業振興研究委員会）

視察会 2：平成28年3月10日（木）

セーレン（株）（福井県福井市）

（共催：都田アソシエイツ、ソフトウェア産業振興研究委員会）

③ 都田アソシエイツ

正会員数：56社

総 会：平成27年7月9日（木）

講演会 1：平成27年7月9日（木）

「今年度の景気動向について」

- 視察会 1：平成 27 年 10 月 15 日（木）
ヤマハ発動機(株)（浜松市北区）
- 視察会 2：平成 27 年 12 月 10 日（木）
オムロンフィールドエンジニアリング(株)（浜松市北区）
- 講演会 2：平成 28 年 1 月 27 日（水）
「人工知能(AI)がもたらす新しい世界」
(共催：ソフトウェア産業振興研究委員会、浜松技術交流プラザ 82)
- 視察会 3：平成 28 年 2 月 25 日（木）
アマノ(株)（浜松市北区）
- 視察会 4：平成 28 年 3 月 10 日（木）
セーレン(株)（福井県福井市）
(共催：ソフトウェア産業振興研究委員会、浜松技術交流プラザ 82)

(2) 成長分野研究会

① VB・VC 研究委員会

- 正会員数：17 社
- 視察会 1：平成 27 年 5 月 22 日（金）
遠州紙工業(株)（浜松市南区）
- 総 会：平成 27 年 6 月 22 日（月）
- 講演会 1：平成 27 年 6 月 22 日（月）
「シリコンバレーと東京の起業家活動最前線」
- 視察会 2：平成 27 年 10 月 27 日（火）
(株)サムライインキュベート（東京都品川区）
- 講演会 2：平成 28 年 1 月 29 日（金）
「2016 年の経済と東アジア新通商秩序の出現」

② ソフトウェア産業振興研究委員会

- 正会員数：30 社
- 総 会：平成 27 年 5 月 19 日（火）
- 講演会 1：平成 27 年 5 月 19 日（火）
「企業におけるコンフリクトマネジメント～9.11 アメリカ同時多
発テロから学ぶ危機管理と建設的問題解決のヒント～」
- 視察会 1：平成 27 年 7 月 16 日（木）
(株)オークマ（浜松市東区）
- 講演会 2：平成 27 年 9 月 18 日（金）
「金属 3D プリンティングの最新事例と将来展望」
- 講演会 3：平成 27 年 9 月 29 日（火）
「視点を変える！！実践型マイナンバー “活用” セミナー～マイ
ナンバーを業績向上に結び付けるには～」
(共催：先端精密技術研究会)
- 視察会 2：平成 27 年 10 月 22 日（木）～10 月 25 日（日）
国立台北科技大学、Delta（台湾）
- 講演会 4：平成 28 年 1 月 27 日（水）
「人工知能(AI)がもたらす新しい世界」
(共催：都田アソシエイツ、浜松技術交流プラザ 82)
- 視察会 3：平成 28 年 3 月 10 日（木）
(株)セーレン（福井県福井市）

(共催：都田アソシエイツ、浜松技術交流プラザ 82)

講演会 5：平成 28 年 3 月 25 日 (金)

「3D プリンティング最先端技術 (台湾)」

③先端精密技術研究会

正会員数：法人 43 社、個人 20 名

総 会：平成 27 年 5 月 26 日 (火)

講演会 1：平成 27 年 5 月 26 日 (火)

「自動車用 CVT 金属ベルトと先端技術」

視察会 1：平成 27 年 7 月 31 日 (金)

(株)アイエイアイ (静岡市清水区)

視察会 2：平成 27 年 9 月 16 日 (水)

碌々産業(株) (焼津市)

講演会 2：平成 27 年 9 月 29 日 (火)

「視点を変える！！実践型マイナンバー “活用” セミナー～マイ
ナンバーを業績向上に結び付けるには～」

(共催：ソフトウェア産業振興研究委員会)

視察会 3：平成 27 年 11 月 18 日 (水)

(株)東洋機械製作所 (静岡市清水区)

視察会 4：平成 28 年 2 月 17 日 (水)

(株)ブローチ研削工業所 (浜松市北区)

講演会 3：平成 28 年 3 月 15 日 (火)

「ねじ締結の基礎」

「締付け技術の実務と最近の設計法」

④次世代設計・製造構造研究会

正会員数：22 社・3 校

総 会：平成 27 年 5 月 11 日 (月)

講演会 1：平成 27 年 5 月 11 日 (月)

「宇宙輸送系の現状と将来展望」

講演会 2：平成 27 年 8 月 24 日 (月)

「レーザーの材料加工応用の現状と将来展望」

講演会 3：平成 27 年 11 月 16 日 (月)

「静岡理工科大学の学生フォーミュラへの取り組み」

講演会 4：平成 28 年 2 月 1 日 (月)

「永続的に成長する企業経営の在り方」

【総括】

平成 27 年度は、地域産業を支える中小企業の経営基盤強化、開発力向上、会員相互の親睦を図るため、セミナー、講習会、企業視察会等を開催すると共に、各研究会の総会にて承認された交流事業を実施した。また、各研究会を連動させた共催事業を 3 回実施した。

平成 28 年度についても、研究会の活動の充実と円滑な運営を図るため、事務局として講演会の開催や視察会等の各種活動をサポートしていく。

4 産学官連携推進事業

決算額 496,960 円（予算額 500 千円）＜浜松市＞

【目的】

地域大学が開催する産学官連携フォーラムに対して財源と広報に関する支援を行い、研究成果や研究シーズ、先進地域の情報等の発表を通じた地域における産学官連携の充実と市民・産業界への情報発信を図る。

【実施内容】

静岡理工科大学、浜松医科大学において、産学官連携を目的としたフォーラムを下記のとおり開催した。当財団は財団の広報ツールやネットワークを積極的に活用し、幅広い周知と集客に努めたほか、当日運営や財源の一部に関して支援を実施した。

(1) 静岡理工科大学 地域創成フォーラムの開催

開催日：平成 27 年 11 月 24 日（火）

会場：ホテルクラウンパレス浜松

内容：特別講演「建設業の未来構想とその実現に向けた活動」

清水建設(株) 技術戦略室 主査 金森洋史 氏

静岡理工科大学近況報告、研究活動紹介、パネル展示、懇談交流会

参加者：108 名（大学関係者除く）

主催：静岡理工科大学、公益財団法人浜松地域イノベーション推進機構

(2) メディカルイノベーションフォーラム 2015 プラスの開催

開催日：平成 27 年 12 月 3 日（木）

会場：静岡新聞社・静岡放送 21 世紀倶楽部

プレスタワー17 階 静岡新聞ホール

内容：第 1 回齋藤メモリアルフォーラム「医工連携の功労者である「故齋藤博永島医科器械(株)技術本部長」を偲んで」

基調講演「ものづくり中小企業がチャレンジするこれからの医工連携」

(株)クロスエフェクト（京都市伏見） 代表取締役 竹田正俊 氏

パネルディスカッション、情報交換会

参加者：100 名（大学関係者除く）

主催：浜松医科大学

【総括】

年度当初に静岡理工科大学、浜松医科大学、静岡大学の 3 大学に対して、フォーラム開催の意向を確認し、静岡理工科大学、浜松医科大学の 2 大学において開催することを把握した。静岡大学についてはフォーラムに代わる企画を検討していたが、産学官連携に有効な具体的な企画が固まらないことから、今年度の開催は取り止めることとなった。

地域大学における産学官連携フォーラムに対しては、地域における次世代産業の創出に向けて、数年来継続的に支援を実施しているが、財源による支援は平成 27 年度をもって終了し、平成 28 年度以降は財団の既存広報ツールの活用や運営体制への協力などにより支援を進めていく。

3【学ぶ】人材育成支援

5 人材育成事業

決算額 9,885,558 円 (予算額 10,250 千円) <浜松市>

決算額 280,881 円 (予算額 300 千円) <自主財源>

(1) 新素材基礎技術講座

決算額 697,346 円 (予算額 700 千円) <浜松市>

【目的】

次世代自動車 (EV、HV) の普及が加速する中、燃費向上、環境負荷軽減のため、車体の軽量化が強く求められており、超高張力鋼板 (ウルトラハイテン) をはじめ、炭素繊維強化樹脂 (CFRP) やマグネシウム、チタン等の新素材の活用が必須となっている。これら新素材の材料特性、加工方法、用途展開などの基本を習得し、経営資源を強化して新しい事業拡大に結び付ける。

【実施内容】

・新素材基礎技術講座

開催日：平成 27 年 10 月 28 日 (水) ～ 11 月 26 日(木) 全 4 講座

会 場：浜松テクノカレッジ (浜松市東区)、(株)榛葉鉄工所 (掛川市)、浜松商工会議所会館 8 階 セミナー室

参加者：①マグネシウム：12 社 14 名 ※募集定員は 20 名

[市内] 企業 7 社 6 名 [市外] 企業 5 社 8 名

②CFRP：17 社 21 名 ※募集定員は 20 名

[市内] 企業 8 社 8 名 [市外] 企業 9 社 13 名

③ウルトラハイテン：7 社 8 名 ※募集定員は 20 名

[市内] 企業 2 社 2 名 [市外] 企業 5 社 6 名

④チタン：(カリキュラム 1)：17 社 21 名 ※募集定員は 20 名

[市内] 企業 9 社 9 名 [市外] 企業 8 社 12 名、
行政・産業支援機関 1 機関 1 名

(カリキュラム 2) 11 社 14 名

[市内] 企業 4 社 7 名 [市外] 企業 7 社 7 名

【講座内容】

開催日	内 容	講 師
①マグネシウム		
11 月 5 日 (木) 10:00～17:00	マグネシウム鋳造法の特徴と自動車分野への適用	(株)アーレスティ (浜松市浜北区) 技術部 シニアアドバイザー 武田 秀 氏
	マグネシウム合金圧延板材と適用事例	日本金属(株) (東京都港区) 技術部門 技術研究所 研究第一グループ 主査 佐藤 雅彦 氏
	マグネシウムの最新技術・新製品動向	森村商事(株) (東京都港区) 金属事業部 テクニカルマネージャー 虫明 守行 氏

②CFRP		
11月19日(木) 10:00~17:00	CFRPの材料特性と成形技術	東レ(株) (東京都中央区) アドバンスドコンポジットセンター 第1開発室 室長 西村 透 氏
	航空機におけるCFRPの現状と動向	大同大学 工学部総合機械工学科 機械システム専攻 教授 (元川崎重工業(株)) 平 博仁 氏
	CFRPの自動車への適用	金沢工業大学 大学院工学研究科 高信頼性ものづくり専攻 教授 (元トヨタ自動車(株)) 影山 裕史 氏
③ウルトラハイテン		
11月26日(木) 10:00~17:00	自動車用ハイテンの冶金的意味と製造技術	新日鐵住金(株) (東京都千代田区) 技術開発本部 フェロー 高橋 学 氏
	ウルトラハイテンの板材成形技術	JFE スチール(株) (東京都千代田区) スチール研究所 薄板加工技術研究部 主任研究員 (部長) 山崎 雄司 氏
	部品高強度化のためのホットスタンプ技術	新日鐵住金(株) (東京都千代田区) 技術開発本部 鉄鋼研究所 利用技術研究部 主幹研究員 鈴木 利哉 氏
④チタン		
10月28日(水) ~30日(金) 10:00~17:00	チタンの基礎技術 チタンの切削加工	一般社団法人日本チタン協会 コンサルタント 伊藤 均 氏 コンサルタント 上瀧 洋明 氏 企画部長 木下 和宏 氏
	切削加工の可視化	浜松工業技術支援センター 材料科研究員 是永 宗佑 氏
	実習と最適切削条件探索、安全	浜松工業技術支援センター 材料科研究員 是永 宗佑 氏 一般社団法人日本チタン協会 コンサルタント 上瀧 洋明 氏
	【現場見学会】 (株)榛葉鉄工所 (掛川市)	一般社団法人日本チタン協会 コンサルタント 上瀧 洋明 氏 (公財) 浜松地域イノベーション推進機構 技術コーディネーター 山田 徹

※全講座の最後に、講師を交えて総合討議を実施。

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 26 年度 ※1	平成 27 年度 ※2	平成 27 年度
①受講者数	平均 25 名	平均 16 名	平均 20 名
②受講者の満足度	99%	80%	90%以上

※1：平成 27 年 3 月末日時点、※2：平成 28 年 3 月末日時点

【総括】

平成 27 年度は、受講者募集の方法を一部見直し、ゆとりのある告知期間の設定や他機関との連携に努めた。また、一部の講座については実習及び現場見学会を加えて実践的な内容に充実させた。

今回は座学に加えて浜松テクノカレッジでの実習や現場見学会を盛り込み、より実践的な企画とした。講座の案内チラシの作成にあたっては、講師プロフィールに具体的な業務内容の記載を加え、受講者がより講座の内容を把握しやすいように工夫した。

受講者数が目標に達することができなかったのは、マグネシウムとハイテン講座の受講者数が少なく、それぞれマグネシウムは加工性と安全性の問題、ハイテンは素材の入手難の問題があるため、素材の事業化までの道のりが遠いと判断された事が要因であると考察する。しかしながら、平成 25 年度の約 1.6 倍という状況であった。CFRP 講座は、ボーイング 787 への大量採用などから社会的な関心が高く、チタン講座は実習と現場見学会のセットであったことが好評な要因であると考えられる。また、参加人数が少なかったハイテンとマグネシウムについては、マグネシウムの加工性と安全性の問題、ハイテンは素材の入手難の問題があるため、素材の事業化までの道のりが遠いと判断された事が要因であると考えられる。であると考えられる。しかし、アンケート結果からは、参加人数が少ない講座においても「講義内容のバランスが良く、高いレベルを判りやすく講義していただき業務に役立つ」との意見が 90%以上を占めた。また、総合討議も活発な質問が多く、終了後も講師へ個別に質問する積極的な姿が見受けられた。

平成 28 年度は、単独実施していた「3 次元デジタル技術講座」、「パワーエレクトロニクス技術講座」を組み入れて、技術的な総合講座「新素材・新技術講座」としてリニューアルする。カリキュラムは好評であった実習を取り込んだ講義内容や工場見学を盛り込むなど、実践的な講座にすることを検討していく。

(2) 製造中核人材育成事業

決算額 4,961,085 円（予算額 5,000 千円）＜浜松市＞

【目的】

浜松地域の基幹産業である輸送用機器製造業を支える人材を継続して育てていくため、基盤製造技術（成形、加工、塗装、仕上げ、組立て等）を体系的に理解し、各々が担当する前後の一連の工程を把握した上で、広い視野でスキルアップができる人材を育成する。そのために、製造中核人材育成講座や更に高度な内容のフォローアップ講座などを開催する。

【実施内容】

現場経験が豊富な講師陣によるものづくりの基盤技術に関する講義（約 100 時間）と多彩な工場見学等を通じて、様々な製造工程や工場運営を学び、将来の工場長を育成する「製造中核人材育成講座」を開催した。

①製造中核人材育成講座

開催日：平成 27 年 5 月 27 日（水）～ 11 月 19 日（木） 全 24 回実施

会 場：スズキ(株)歴史館（浜松市南区）、新日鐵住金(株)名古屋製鉄所（愛知県東海市）、ヤマハ発動機(株)（磐田市）、(株)木村鋳造所（御前崎市）、イオインダストリー(株)（湖西市）、(株)クリアテック（磐田市）、浜松工業技術支援センター（浜松市北区）、スズキ(株)湖西工場（湖西市）、ポリテクカレッジ浜松（浜松市南区）、西誠(株)（浜松市西区）、浜松熱処理工業(株)（浜松市南区）、(株)豊田自動織機（愛知県刈谷市）、(株)オーミ（磐田市）、神谷理研(株)西テクノ工場（浜松市西区）、(株)協栄工業（浜松市東区）、岡本プレス工業(株)（浜松市中区）、浜松テクノカレッジ（浜松市東区）、(株)UACJ（名古屋市）など

参加者：20 社 26 名 ※募集定員は 25 名

〔市内〕企業 13 社 16 名 〔市外〕企業 7 社 10 名

修了人数：18 社 23 名

〔市内〕企業 12 社 14 名 〔市外〕企業 6 社 9 名

【講座内容】

開催日	内 容	講 師
5 月 27 日（水）	開講式	
	講演①「スズキのものづくりと海外進出」	スズキ(株) 生産技術本部 副本部長 羽田 芳智 氏
	講演②「ヤマハ発動機のものづくり 魅力品質創出と現場標準装備のコラボレーション」	ヤマハ発動機(株) 生産技術部長 木村 嘉浩 氏
	講演③「中小企業の進むべき道」	静岡大学 特任教授 中村 保 氏
	懇親会（受講生＋上司の方）	
6 月 3 日（水）	輸送機器ものづくり概論	スズキ(株) 技術支援部
	スズキ歴史館見学	技術教育課長 宮井 研二 氏
6 月 11 日（木）	【新設】金属・材料概論	新日鐵住金(株) 技術開発本部
	製鉄現場見学	名古屋技術研究部長 樋渡 俊二 氏
6 月 16 日（火）	鋳造概論	ヤマハ発動機(株)エンジンユニット
	組立工場見学	コンポーネント統括部
	鋳造現場見学	ユニット技術部長 橋内 透 氏
6 月 23 日（火）	(株)木村鋳造所のものづくり	(株)木村鋳造所
	(株)木村鋳造所 御前崎工場見学	相談役 川井 国光 氏
7 月 2 日（木）	樹脂成形概論	イオインダストリー(株)
	樹脂成形工場見学	技術営業部 次長 緑川 広貴 氏
7 月 7 日（火）	冷間鍛造概論	(株)クリアテック
	冷間鍛造現場見学	代表取締役 石田 均 氏
7 月 14 日（火）	鍛造概論	浜松工業技術支援センター 光科 上席研究員 鷺坂 芳弘 氏
	素材特性概論	
	浜松工業技術支援センター施設 見学	浜松工業技術支援センター 材料科 科長 伊藤 芳典 氏

7月21日(火)	板材成形概論	スズキ(株) プレス課 係長 鈴木 俊通 氏
	輸送用機器完成車工程 工場見学	
	受講生交流会	
7月29日(水)	【フライス盤実習】【旋盤実習】 2グループに分かれて実施	ポリテクカレッジ浜松
8月4日(火)	【フライス盤実習】【旋盤実習】 2グループに分かれて実施	ポリテクカレッジ浜松
8月20日(木)	切削概論	ヤマハ発動機(株) 生産技術部 機械加工技術グループ グループリーダー 酒井 健司 氏
	切削現場見学 (西誠(株))	西誠(株) 専務取締役 宮澤 健 氏
8月27日(木)	工場長の心得①「講義」	関ものづくり研究所(浜松市北区) 代表 関 伸一 氏
	【新設】工場長の心得①「ディスカッション」	
9月3日(木)	【新設】工場長の心得②現場改善・人材育成現場見学 (株)豊田自動織機 高浜工場	(株)豊田自動織機 高浜工場
9月8日(火)	【新設】熱処理概論	浜松熱処理工業(株) 技術グループ リーダー 渡辺 浩太郎 氏
	【新設】熱処理現場見学 (浜松熱処理工業(株) 浜松西工場)	
9月15日(火)	金型概論	(株)オーミ 製造部長 大平 晃裕 氏
	現場見学	
9月29日(火)	めっき・表面処理概論	神谷理研(株) 代表取締役専務 神谷 武彦 氏
	めっき・表面処理 現場視察	
10月6日(火)	塗装概論	ヤマハ発動機(株) 生産技術部 塗装技術グループ グループリーダー 濱田 忍 氏
	塗装現場見学	(株)協栄工業 取締役業務部長 荒川 廣志 氏
10月15日(木)	溶接現場実習	岡本プレス工業(株) 技術部 部長 安間 久雄 氏
10月21日(水)	溶接概論 (講義) +溶接実習 (テクノカレッジ浜松)	(有)岩倉溶接工業所 (島田市) 代表取締役 岩倉 正雄 氏
10月28日(水)	3次元CAD 概論 設計ツールとしての3次元活用法	ポリテクカレッジ浜松
11月4日(水)	CAEを活用した設計検討と検証 3D プリンターの現状とこれから	ポリテクカレッジ浜松
11月10日(火)	【新設】素材概論 (アルミ)	(株)UACJ 名古屋製鉄所
	【新設】アルミ製造現場見学	
11月19日(木)	修了式 ※公開講演会	

	講演①「自動車産業の構造変革に対して部品メーカーが選択すべき戦略は何か？」	(一社) 日本自動車部品工業会 技術担当顧問 松島 正秀 氏
	講演②「(有)スワニーの取組み～5年間で顧客数を2社から300社に～」	(有)スワニー (長野県伊那市) 代表取締役社長 橋爪 良博 氏

修了式基調講演会 (公開講演会)

「中小ものづくり部品メーカーの成長戦略を考える」

開催日：平成 27 年 11 月 19 日 (木)

会 場：ホテルクラウンパレス浜松

参加者：81 社 120 名 ※募集定員は 100 名

[市内] 企業 56 社 69 名、行政・産業支援機関 2 機関 5 名

[市外] 企業 25 社 51 名、行政・産業支援機関 3 機関 3 名

※併せて講師の松島氏による個別相談会を開催。4 社の相談を実施。

受講者の満足度：96%、相談企業の満足度：100%

②フォローアップ講座

<講座>

「経営に繋がる効果的な改善の進め方と実践」

開催日：平成 27 年 5 月 20 日 (水)

会 場：グランドホテル浜松

講 師：(株)プリアクタ (岐阜県岐阜市) 森部一彦氏

参加者：39 社 49 名 ※募集定員は 100 名

[市内] 企業 22 社 25 名、行政・産業支援機関 2 機関 6 名

[市外] 企業 17 社 24 名

受講者の満足度：100%

「トヨタ生産物流セミナー」

開催日：平成 27 年 7 月 17 日 (金)

会 場：グランドホテル浜松

講 師：(株)豊田自動織機 (愛知県刈谷市) 安藤 俊裕 氏

参加者：100 社 192 名 ※募集定員は 200 名

[市内] 企業 72 社 134 名、行政・産業支援機関 1 機関 1 名

[市外] 企業 28 社 58 名、行政・産業支援機関 4 機関 4 名

受講者の満足度：97%

「現場を強くする事業継続計画 (BCP) 講座」 (全 3 回)

講 師：静岡事業継続マネジメント協同組合 代表理事 木村 俊彦 氏

開催日：1 回目 平成 27 年 7 月 1 日 (水)

2 回目 平成 27 年 7 月 8 日 (水)

3 回目 平成 27 年 7 月 15 日 (水)

会 場：呉竹社、浜松商工会議所会館

参加者：1 回目 21 社 23 名 ※募集定員は 50 名

[市内] 企業 12 社 14 名 [市外] 企業 9 社 9 名

2 回目 9 社 9 名 ※募集定員は 20 名

[市内] 企業 4社4名 [市外] 企業 5社5名
 3回目 9社9名 ※募集定員は20名
 [市内] 企業 3社3名 [市外] 企業 6社6名
 参加者の満足度：1回目 77%、2回目 100%、3回目 100%

「コストダウン・利益創出ポイントと設計における原価企画の進め方実践講座」

開催日：平成27年11月6日（金）
 会場：浜松商工会議所会館
 講師：株式会社デンソーウェーブ（愛知県知多郡阿久比町）
 経営企画部 業務改革室 室長 内田 仁一 氏
 参加者：27社35名 ※募集定員は20名
 [市内] 企業 19社22名
 [市外] 企業 8社13名
 参加者の満足度：97%

<視察会>

「東明工業(株)視察会」(愛知県知多市)

開催日：平成27年7月10日（金）
 参加者：14社16名 ※募集定員は25名
 [市内] 企業 12社13名、行政・産業支援機関 2機関2名
 [市外] 企業 2社3名、行政・産業支援機関 1機関2名
 参加者の満足度：100%

「(株)デンソー西尾製作所視察会」(愛知県刈谷市)

開催日：平成28年1月20日（水）
 参加者：16社23名 ※募集定員は35名
 [市内] 企業 11社15名 [市外] 企業 5社8名
 参加者の満足度：100%

③受講生企業現場見学会

開催日	見学先
10月19日（月）	(株)中遠熱処理技研（掛川市）
10月19日（月）	(株)榛葉鉄工所 本社工場・掛川工場（掛川市）
10月26日（月）	橋本エンジニアリング(株) 本社工場・組立工場（浜松市浜北区）

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成26年度※1	平成27年度※2	平成27年度
①受講者数	26名	26名	25名以上
②受講者の満足度	100%	100%	80%以上

※1：平成27年3月末日時点、※2：平成28年3月末日時点

【総括】

本講座の開催期間が長いなどの理由で受講を見送っている中小企業や過年度受講企業へのフォローアップ支援として、追加のセミナーを開催した。フォローアップ講座と受講生の更なる知識向上、受講企業間の受発注促進を目的に「受講生企業現場見学会」を3回開催した。

平成 27 年度の反省と平成 28 年度の方向性について確認するため、受講企業へのヒアリングの実施と地域を代表する方々による運営委員会を開催した。

平成 27 年度は、前年度の受講満足度 100%を維持するため、運営委員や受講企業の意見を反映させながら、カリキュラムの改善に努めた。鍛造に関する講義内容を整理・削減し、素材（鉄・アルミニウム）についての基礎、工場長としての心構えに関するディスカッション、現場改善等のメニューを新しく加えた。

受講者の満足度は、平成 26 年度に引き続き、2 年連続 100%と高評価をいただいた。その中でも、「工場長の心得」をテーマに新設した講義と現場見学の満足度が高く、カリキュラムの変更により講座の改善が図られたものと捉えている。

また、今年度も交流会の積極的な開催により、受講生間のコミュニケーションを促進したことで、14 件のマッチングが成立した。

修了式では、「中小ものづくり企業の成長戦略を考える」をテーマにした基調講演を公開講座として実施すると共に、講師の松島氏による個別相談会も開催した。個別相談会では、部品メーカーへの提案力のアップに関して 4 社の相談に対応した。

平成 28 年度は、受講企業へのヒアリング結果と運営委員会での意見を参考に、「5S 概論講義」「3D プリンター概論・現場見学」「電装品製造現場の見学」など地域ニーズと時代に沿ったカリキュラムを追加していく。

フォローアップ講座の「経営に繋がる効果的な改善の進め方と実践」は、より実践的な内容に絞って講座を行ったため、大変好評であった。

また、(株)デンソー西尾製作所視察会も参加者の高い満足を得た。

平成 28 年度は、フォローアップ講座で実施していた現場力強化のための講座を人材育成講座として独立させ「現場力向上人材育成講座」として新しく事業を立上げ、現場でマネジメントを担える中核人材を育成していく。

(3)3 次元デジタル技術講座

決算額 991,362 円（予算額 1,000 千円）＜浜松市＞

【目的】

3 次元データを取り扱うデジタルものづくりの流れが本格化しており、設計から製造・検査までのトータルでのスピードアップ、顧客提案力の向上及びコストダウンのために、3 次元デジタル技術の積極的な活用と高度に活用できる人材育成が急務となっている。地域中小企業の IT 利活用による情報技術者育成のため、最新の 3 次元デジタル技術を活用できる高度技術者育成の講座を行う。

【実施内容】

コンピュータ支援製造 (CAM) を学習し、3 次元技術を総合的に学んでもらうため、3D プリンターの組立講座と 3 次元デジタル技術の実践講座を下記のとおり実施した。

＜講座＞

①「3D プリンター組立てワークショップ」

開催日：平成 27 年 8 月 1 日（土）

会 場：浜松商工会議所会館 8 階 セミナー室

講 師：(株)カエラムテクニカル（浜松市中区） 代表取締役 武田 克也 氏

(有)刑部製作所（浜松市西区） 代表取締役 刑部 友通 氏

(株)リバーランズ・コンサルティング（三島市） 代表取締役 坂井 正徳氏

参加者：7 社 7 名 ※募集定員は 6 名

[市内] 企業 5 社 5 名

[市外] 企業 2社2名、行政・産業支援機関 1機関1名
 ※8月29日(土)に上記講座のフォローアップを行った。

②「3DCADを使いこなそう！ スキルアップ講座 (SolidWorks 編)」

開催日：平成27年10月20日(火)

平成27年10月27日(火)

会場：浜松商工会議所会館8階 セミナー室

講師：榎飯沼ゲージ製作所(長野県茅野市)

営業技術本部 技術部部长 土橋美博氏

参加者：6社7名 ※募集定員は5名

[市内] 企業 4社4名 [市外] 企業 2社3名

※本講座の特長

- ・実践経験豊富な技術者が講師を務める。
- ・SolidWorksを使いこなすことにより設計時間の短縮が期待できる。
- ・技術の「見える化」として、認定資格であるCSWP(Certified SolidWorks Professional)を目指せる。

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成26年度※1	平成27年度※2	平成27年度
①受講者満足度	—%	100%	80%以上

※1：平成27年3月末日時点、※2：平成28年3月末日時点

【総括】

平成27年度は、企業へのヒアリングを基に講座内容を再検討し、対象を設計技術者に特化した3次元デジタル技術講座を開催した。

体感できる講座として3Dプリンター組立講座を企画し、3Dプリンターの構造を理解してもらおうと共に、今後の新しい用途開発について検討する機会を受講者に提供した。また、時間内に組み立てられなかった方に対し、フォローアップも実施した。

更に、3次元デジタル技術に関する講座として、ハイレベルな「スキルアップ講座」を実施した。当講座は平成26年度に続き、平成27年度も定員以上の応募があり、3次元デジタル技術に関するニーズの高さが伺えた。

平成28年度は、新素材・新技術講座の中の一講座として事業を組み替えて実施していく。また、本講座を通じて、設計技術の高度化を目指す地域企業にとって不可欠な認定資格(SolidWorksではCSWPと呼ぶ)の取得を後押しする講座内容としていく。

(4)パワーエレクトロニクス技術講座

決算額589,006円(予算額600千円) <浜松市>

【目的】

次世代輸送用機器産業など、新産業分野への参入を図る場合に必要な技術としてパワーエレクトロニクス(以下、パワエレ)がある。本基礎講座によりパワエレ分野の技術者育成を行う。

【実施内容】

平成26年度と同様に、次世代自動車やサービスロボットなどパワエレ関連製品の事業化を目指す企業の中堅技術者を対象にした基礎講座を実施した。なお、実習につ

いては、一部内容が高度であったとのアンケート結果もあり、基礎的な内容の説明時間を増やすなど、講座内容を見直して実施した。

開催日：平成 27 年 11 月 6 日（金）～平成 27 年 12 月 8 日（火）（6 日間）

会 場：浜松商工会議所会館、ポリテクカレッジ浜松

参加者：10 社 12 名（募集人員 15 名）

[市内] 企業 5 社 6 名 [市外] 企業 5 社 6 名

【講座内容】

開催日	内 容	講 師
11 月 6 日（金）	パワーエレクトロニクス概要	静岡大学 教授 野口 季彦 氏
	パワーエレクトロニクスのための電気工学の基礎	
11 月 13 日（金）	パワーデバイスと電力変換回路	静岡大学 教授 野口 季彦 氏
	パワーエレクトロニクスのための電子回路	
11 月 20 日（金）	各種モータと駆動方法Ⅰ - モータの種類と特徴 -	静岡理工科大学 講師 服部 知美 氏
	各種モータと駆動方法Ⅱ - モータドライブ制御 -	
12 月 1 日（火）	電気・電子計測と（DC モータ）の制御 講義と実習	(株)プリンシパルテクノロジー （磐田市） 大羽 規夫 氏
12 月 2 日（水）	制御用センサの原理とフィードバック制御の基礎	東京都市大学 教授 百目鬼 英雄 氏
	パワーエレクトロニクスのための熱設計	Future Facilities(株) （東京都新宿区） 多賀谷 洋介 氏
12 月 8 日（火）	PM モータの制御 講義と実習	(株)プリンシパルテクノロジー 大羽 規夫 氏
	Closing Remarks （本講座を通しての技術パネルディスカッション）	静岡大学 教授 野口 季彦 氏 (株)プリンシパルテクノロジー 大羽 規夫 氏

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 26 年度 ※1	平成 27 年度 ※2	平成 27 年度
①受講者数	15 名	12 名	15 名
②受講者満足度	92%	93%	93%以上

※1：平成 27 年 3 月末日時点、※2：平成 28 年 3 月末日時点

【総括】

平成 27 年度は、平成 26 年度に実施した一貫性のある講義内容を踏襲し、特に実習については更なる改善を図り実施した。ポイントをより絞った専門性の高い講義などを開催したことにより、平成 26 年度以上の受講者満足度を得ることができたが、受講者数は若干減少した。

受講者が減少した理由としては、通常より若干告知期間が短くなったことが要因の一つと考える。

平成28年度は、3次元デジタル技術講座同様に、新素材・新技術講座の中の一講座として事業を組み替えて実施していく。

(5) 【新規】 デザインマネジメント事業

決算額 1,424,415 円 (予算額 1,450 千円) <浜松市>

決算額 280,881 円 (予算額 300 千円) <自主財源>

【目的】

浜松地域のものづくり中小企業の多くは、高い技術力を持つものの下請け依存度が高く、大手企業（発注企業）の景況に左右される環境に置かれている。こうした状況から脱却するためには新しいビジネスや製品の開発力を高め、付加価値の高い技術や自社製品を創出することが重要である。

そうしたことから、新しいビジネスモデルを構築し、イノベーションを生み出すための手法である「デザインマネジメント」に焦点を当て、セミナーやワークショップ等を通じて「デザインマネジメント」を理解し実践できる人材を育成する。

【実施内容】

<セミナー>

① 「企画から販売まで一気通貫のものづくり！」

開催日：平成27年5月14日（木）

会 場：呉竹荘

内 容：講演1「企画から販売までをデザインする

～マイクロモノづくりでワクワクする自社商品開発を！～

(株)enmono（東京都渋谷区） 代表取締役 三木 康司 氏

講演2「クラウドファンディングを活用したピロースピーカーの製品化」

ライトイア合同会社（浜松市中区） 代表社員 大和 誠 氏

講演3「いま目の前にある技術を応用した発展的なものづくりの切り

口。～伝統品技術の挑戦と事例～

(株)高田製作所（富山県高岡市） 常務取締役 高田 晃一 氏

参加者：59社72名（募集定員50名、申込数72社95名）

[市内] 企業 39社48名、行政・産業支援機関 1機関7名

[市外] 企業 20社24名

受講満足度：大変参考になった53%、参考になった43%、無回答4%

② 「デザインマネジメントの実践」

開催日：平成27年8月31日（月）

会 場：静岡文化芸術大学

内 容：第一部「デザインマネジメントの実践」

(株)エムテド（東京都世田谷区） 代表取締役 田子 學 氏

第二部「経営視点のデザインマネジメント」

(株)ユーフォリア（東京都墨田区） 代表取締役 橋口 寛 氏

第三部「総合討議」

(株)エムテド 代表取締役 田子 學 氏

(株)ユーフォリア 代表取締役 橋口 寛 氏

ファシリテーター

静岡文化芸術大学 デザイン学部 生産造形学科

教授 谷川 憲司 氏

参加者：72社100名（募集定員100名、申込数85社118名）

〔市内〕企業 59社84名、行政・産業支援機関 2機関2名

〔市外〕企業 13社16名、行政・産業支援機関 1機関1名

受講満足度：大変参考になった75%、参考になった24%、無回答1%

③「自社商品開発講座（セミナー）」

開催日：平成28年2月3日（月）

会 場：グランドホテル浜松

内 容：第一部「ワクワクするアイデアと『100年後もバネを作る』の
想いから生まれた自社商品「SpLink」の開発」

五光発條(株)（神奈川県横浜市） 代表取締役 村井 秀敏 氏

第二部「慶応SDM式 商品コンセプトのつくりかた」

慶応技術大学大学院 SDM 研究科

特任講師 富田 欣和 氏

参加者：62社99名（募集定員50名、申込数74社115名）

〔市内〕企業 47社76名、行政・産業支援機関 3機関4名

〔市外〕企業 15社23名

受講満足度：大変参考になった62%、参考になった36%、無回答2%

<ワークショップ>

①「デザインマネジメント実践ワークショップ」

開催日：第1回 平成27年9月30日（水）

第2回 平成27年10月7日（水）

会 場：浜松商工会議所会館

講 師：(株)エムテド 代表取締役 田子 學 氏

(株)ユーフォリア 代表取締役 橋口 寛 氏

内 容：第1回

オープニング、エスノグラフィ体験、チームビルディング、ワーク
ショップテーマ①、デザインマネジメントツール活用（ブレインス
トリーミング、バリューグラフ、顧客価値連鎖分析）、ワークショッ
プテーマ②、プレゼンテーション、第2回に向けた宿題

第2回

宿題のプレゼンテーション、ワークショップテーマ②（問題定義、
顧客価値、プロトタイピング、プレゼンテーション）、クロージング

参加者：18社23名（募集定員20名、申込数24社28名）

〔市内〕企業 15社20名 〔市外〕企業 3社3名

受講満足度：大変参考になった88%、参考になった12%

※ワークショップ後、参加者の中から自主的に立ち上がった勉強会の活動支援
を行った。

※勉強会開催日：第1回 平成27年11月18日（水）

第2回 平成27年12月16日（水）

第3回 平成28年1月20日（水）

第4回 平成28年2月10日（水）

第5回 平成28年3月1日（火）

②「自社商品開発講座（ワークショップ）」

開催日：第1回 平成28年2月24日（水）

第2回 平成28年3月2日（水）

会場：浜松商工会議所会館

講師：慶応技術大学大学院 SDM 研究科

特任講師 富田 欣和 氏

内容：第1回

イノベーション概論、テーマに対するグループワーク（問題定義、バリューグラフ、ブレインストーミング、親和図法）

第2回

テーマに対するグループワーク（強制連想法、P.C.E、CVCA、プロトタイピング）、成果発表

参加者：21社25名（募集定員25名、申込数24社28名）

〔市内〕企業 15社18名 〔市外〕企業 6社7名

受講満足度：大変参考になった96%、参考になった4%

③個別の製品開発支援

【平成26年度よりの継続支援案件】

ア 「金属プレス技術を転用した国産木材で作るデザインハンガー開発支援」

（㈱KPI（浜松市浜北区）、㈱フォレストフィーリング（東京都江東区））

・「新事業展開プロデュース事業」の申請支援

イ 「植物観賞用メッキプロダクト開発支援」（㈱ビッソーバ（浜松市南区））

・マッチング支援

・「ものづくり販路開拓支援事業」の申請支援

ウ 「簡易オーダーメイド家具の販路開拓支援」（創生商事㈱（浜松市中区）、

㈱山一木研（浜松市中区）、YU MATSUDA DESIGN（浜松市中区））

・「ものづくり販路開拓支援事業」の申請支援

・記者クラブへの報道発表支援（中日新聞、静岡新聞、中部経済新聞掲載）

【平成27年度新規支援案件】

エ 「自社技術を転用した商品開発支援」（遠州工業㈱（浜松市中区））

・マッチング支援

オ 「簡易3Dモデリングソフト開発支援」（㈱プレミアムグラフィクス

（浜松市中区）、㈱フォレストフィーリング（東京都江東区））

・企画、マーケティングに対する専門家派遣事業の活用

カ 書絵堂㈱（浜松市中区）の自社商品開発支援

・SuRueDesign（浜松市東区）を専門家として派遣

キ 「婚礼用フラワーシャワー事業化支援」（㈱KPI（浜松市浜北区）、SuRueDesign（浜松市東区））

・マッチング支援

・記者クラブへの報道発表支援（読売新聞・中日新聞・静岡新聞・中部経済新聞掲載、SBSテレビ、NHK静岡にてTV放映）

・販路開拓支援（ホテルマネージメントインターナショナル㈱（兵庫県神戸市）への仲介）

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 26 年度 ※1	平成 27 年度 ※2	平成 27 年度
①啓発イベント参加企業満足度	— %	100%	90%以上
②新規商品開発プロジェクト立ち上げ	— 件	4 件	2 件以上

※1：平成 27 年 3 月末日時点、※2：平成 28 年 3 月末日時点

【総括】

平成 27 年度からの新規事業のため、セミナー参加企業等へのヒアリングを定期的に行い、PDCA サイクルを回しながら事業を進めた。特に中小製造業における製品開発の課題を「企画構想ができる人材の不足」「資金的リスクを抑えた製品開発のノウハウ」の 2 点に絞り、啓発事業と個別支援を実施した。

新しいビジネスモデルを構築し、イノベーションを生み出すための手法である「デザインマネジメント」の仕組みを学ぶ啓発セミナーを開催し、資金的リスクを抑えた製品開発手法、自社技術 PR ができるような製品開発の仕組み理解、意匠性だけではなく製品開発全体に「デザインの視点」を取り入れることの重要性を啓発する取り組みを実施した。また、セミナー講師が主催する製品開発のビジネススクールに 2 社が参加し、現在試作開発を行っている。

続いてセミナーで学んだことを活かした実践的なワークショップを開催し、イノベーションを現場で実践している講師による、革新的な製品開発プロセスについて体験型の講座で啓発を行った。製品開発における「コンセプト」の重要性をセミナーで啓発すると共に、実際に「優れたコンセプトの生み出す手法」についてワークショップ形式で学ぶ機会を受講者に総合的に提供した。

個別の製品開発支援については、本事業が契機となり 4 件の製品開発プロジェクトが立ち上がり支援を行った。その中でも、(株)KPI 社においては、デザインマネジメント実践ワークショップに参加することで、開発中であった商品のコンセプトが固まり「婚礼用フラワーシャワー」を製品開発し、12 月より販売開始することができた。

また、セミナーへの参加者が予想以上に多く、ワークショップ受講者の満足度が高いことから、本地域において自社製品開発ニーズが高いことが確認できた。平成 28 年度に向けて、より実践的なカリキュラムへ改善していく。

(6) 浜松ものづくりマイスター推進事業

決算額 1,222,344 円（予算額 1,500 千円）〈浜松市〉

【目的】

浜松市から認定を受けた「浜松ものづくりマイスター」の活用を通じて、技能・技術の維持継承と、次世代のものづくり産業を担う人材の育成・確保を図る。

【実施内容】

地域の卓越した技術・技能を継承するため、浜松市から認定された「浜松ものづくりマイスター」を活用し、中小企業の技術者向けのインターンシップ等を行った。平成 27 年度も長期的視点に立った次世代産業人材育成を目指し、マイスターの活動現場の見学会等を開催した。

①企業研究セミナー「夢の実現 世界に通用する【ものづくり】を目指して」

※ビジネスマッチングフェア 2015 内

開催日：平成 27 年 7 月 22 日（水）

会 場：アクトシティコンgresセンター
講 師：(株)ピアックス（浜松市中区） 代表取締役 小原 敏夫 氏
参加者：高校生 87 名
内 容：高校生へ向けた講演

②工業技術研究所フェア「マイスター体験教室・講演」

開催日：平成 27 年 7 月 31 日（金）
会 場：浜松工業技術支援センター
講 師：(株)ピアックス（浜松市中区） 代表取締役 小原 敏夫 氏
(株)ポリシス（浜松市浜北区） 代表取締役 毛利 俊甫 氏
(株)タケモト（浜松市中区） 専務取締役 竹本 京司 氏
(有)豊岡クラフト（浜松市北区） 取締役会長 山崎 肇 氏
(株)三創楽器製作所（浜松市東区） 取締役工房長 岩上 勝 氏
古橋織布(有) 代表取締役（浜松市西区） 古橋 敏明 氏
参加者：一般及び小中学生 321 名

③インターンシップ「計測トレーサビリティ講座」

開催日：平成 27 年 9 月 2 日（水）
会 場：(株)浅沼技研（浜松市西区）
講 師：(株)浅沼技研 代表取締役社長 浅沼 進 氏
参加者：2 社 2 名 [市内] 1 社 1 名 [市外] 1 社 1 名

④インターンシップ「表面処理実習」

開催日：平成 28 年 2 月 16 日（火）
会 場：神谷理研(株) 西テクノ工場（浜松市西区）
講 師：神谷理研(株) 代表取締役専務 神谷 武彦 氏
参加者：6 社 7 名 [市内] 6 社 7 名 [市外] 一社一名

⑤技能祭「マイスター体験教室」

開催日：平成 28 年 3 月 6 日（日）
会 場：浜松技術専門校
講 師：(株)ポリシス（浜松市浜北区） 代表取締役 毛利 俊甫 氏
(株)タケモト（浜松市中区） 専務取締役 竹本 京司 氏
来場者：一般及び小中学生 220 名（主催者発表）

⑥インターンシップ「ジグボーラー実習」

開催日：平成 28 年 3 月 17 日（木）
会 場：(株)鈴三鉄工所（浜松市西区）
講 師：スズキ(株) 試作課 神谷 重久 氏
参加者：2 社 3 名 [市内] 1 社 1 名 [市外] 1 社 2 名

⑦「浜名湖花フェスタ」へのものづくりマイスター在籍企業の PR ブース出展

開催日：平成 27 年 5 月 17 日（日）
会 場：はままつフラワーパーク（浜松市西区）
出展企業：(株)ピアックス、(有)豊岡クラフト、古橋織布(有)、(株)三創楽器製作所
来場者：4,241 名

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 26 年度 ※1	平成 27 年度 ※2	平成 27 年度
①インターンシップ参加者数	72 名	12 名	15 名以上
②インターンシップ参加者満足度	90%	100 %	90%以上

※1：平成 27 年 3 月末日時点、※2：平成 28 年 3 月末日時点

【総括】

平成 27 年度は、平成 26 年度同様に産業人材向けのインターンシップや認定マイスターによる意見交換会などを開催し、次世代のものづくり産業を担う人材育成プログラムを行った。

インターンシップについては、募集 5 名に対して 2 名の参加であったが、参加者から高い満足度を得ることができた。また、次回以降のインターンシップの応募者数を増やすために、浜松技術専門校「技能祭」へ体験ブースの出展を行った。

また、インターンシップを 2 回開催したが、目標の 15 名には到達できなかった。これは講師の都合により開催が見送られた講座があったことが起因している。しかしながら、内容的にはより実践的な実習と技能継承などが、受講者から 100%という高い満足度を得ている。

また、現場実習型のインターンシップについては、平成 28 年度以降も継続すると共に、マイスターの広報強化も併せて実行したい。

4【興す】創業・第二創業支援

6 創業・新事業展開事業

決算額 ー 円（予算額 ー 千円）＜国補助＞
決算額 2,123,442 円（予算額 2,550 千円）＜浜松市＞

【目的】

浜松市が国の採択を受けた「創業支援事業計画」に基づいて、地域の創業を促進し、地域経済の活性化を図るため、産学官金の連携により、創業・第二創業の一層の支援を行う。

ものづくり産業のみならず、商業・サービス業を含む多様な産業分野における創業や新規事業展開を促進し、本地域の産業構造を厚みのあるバランスの良い「八ヶ岳構造」へと転換する。このことにより、地域産業の持続的な発展を促進すると共に、若者や優秀な産業人材の雇用の場を創出する。

(1) 創業支援事業

決算額 ー 円（予算額 ー 千円）＜国補助＞
決算額 ー 円（予算額 ー 千円）＜浜松市＞

【実施内容】

多種多様な産業分野における起業や新事業展開を促進するため、地域の産学官金の機関が連携し、起業や新事業展開を促進する環境（体制・事業）を構築する。

平成 27 年 7 月から浜松地域における創業支援の拠点となるワンストップ窓口（創業・新事業展開支援総合窓口）を商工会議所会館 1 階に移設し、「はままつ起業家カフェ」を総合窓口として新たに整備した。窓口へは、起業・販路開拓・資金調達の知識に長けている創業支援の専門スタッフを配置した。

また、創業・新事業展開を目指す事業者・個人に対して、各種相談に応じると共に、地域支援機関（行政・地域金融機関・商工会等）の支援メニューを連動させ、地域一丸となり、起業家のためのセミナーやサロン等を開催し、起業家の発掘から起業を促進するためのサポートを実施した。

- ・創業支援総合窓口「はままつ起業家カフェ」の設置
平成 27 年 4 月 1 日（水）：専任コーディネーター採用
平成 27 年 4 月～6 月：窓口準備・事業ツール制作・セミナー等の事業内容整備
平成 27 年 7 月 6 日（月）：窓口開設

・実施事業

①創業・新事業展開セミナー

開催日：平成 27 年 6 月 27 日（土）

会 場：ホテルクラウンパレス浜松

講 師：(株)エムスクエア・ラボ（菊川市）

代表取締役 加藤 百合子 氏

合同会社 simple A（浜松市天竜区）

戦略室室長 富士川 凜太郎 氏

日本茶カフェ「お茶の間のおと」（浜松市東区）

店主 宮崎 洋子 氏

創作陶芸工房「アートファーム」（周智郡森町）

主宰者 仲田 康生 氏

内 容：講演会「地域の特性を活かした起業」

参加者：58名

②創業・新事業展開セミナー

開催日：平成27年11月28日（土）

会場：グランドホテル浜松

講師：第一伊藤建設(株)（浜松市中区） 代表取締役 伊藤 卓見 氏

Healinegroom a'nu（浜松市南区） 代表 築山 由美子 氏

内容：講演会「逆境を乗り越え成功へ」

参加者：37名

③創業・新事業展開セミナー

開催日：平成28年2月20日（土）

会場：グランドホテル浜松

講師：(有)ファッションしらいし（東京都） 代表取締役 白石 正裕 氏

榊須部商店（浜松市北区） 代表取締役 須部 治 氏

内容：講演会「自社ブランドでの成功」

参加者：36名

④創業・新事業展開サロン（起業実践サロン）

期間：平成27年5月28日（木）～平成27年7月9日（木）

平成27年10月15日（木）～平成27年11月26日（木）

時間：18：30～20：30

会場：はままつ起業家カフェ

内容：ビジネスコンサルタントや先輩起業家等、各分野で活躍されている方々を講師に招き、少人数制の講座でビジネスプランを具体的に作り上げながら、創業への準備をサポートする。

回数：全5回講座×2回

定員：5名～10名

回	開催日	テーマ	講師	参加者
1-1	5月28日	ビジネスプランの基礎	大沢 政久 氏	10名
1-2	6月4日	ビジネスプランの作り方	大沢 政久 氏	10名
1-3	6月11日	プレゼンテーションの基礎	増田 靖 氏	9名
1-4	6月25日	ビジネスプランの ブラッシュアップ	大沢 政久 氏	10名
1-5	7月9日	プレゼンテーション発表会	大沢 政久 氏 増田 靖 氏	10名
2-1	10月15日	ビジネスプランの基礎	大沢 政久 氏	9名
2-2	10月22日	ビジネスプランの作り方	大沢 政久 氏	6名
2-3	10月29日	プレゼンテーションの基礎	増田 靖 氏	9名
2-4	11月12日	ビジネスプランの ブラッシュアップ	大沢 政久 氏	7名
2-5	11月26日	プレゼンテーション発表会	大沢 政久 氏 増田 靖 氏	7名

⑤創業・新事業展開サロン（起業サロン）

期間：平成27年5月21日（木）～平成27年3月17日（木）

時間：18：30～20：30

会 場：はままつ起業家カフェ セミナー室
 内 容：地域の先輩起業家を招き、起業ストーリーを聞きながら自身の起業への夢を膨らませてもらい、創業者の発掘を目指す。
 創業に役立つ情報講座も同時開催。（日本政策金融公庫ほか）

回 数：全6回

定 員：20名

回	開催日	先輩起業家	情報講座	参加者
1	5月21日	(有)協和整美（浜松市東区） 八幡 一久 氏	㈱浜名湖国際頭脳センター （浜松市西区） 本庄 昌実 氏	11名
2	7月16日	鳥居食品㈱（浜松市中区） 鳥居 大資 氏	社会保険労務士（浜松市中区） 伊藤 弘人 氏	15名
3	9月17日	創業支援コーディネーター 辻村 泰宏 氏	—	25名
4	11月19日	㈱アセットクローバー （浜松市中区） 竹村 謙一 氏	合同会社 HAPPITOUS （浜松市中区） 山口 一馬 氏	14名
5	1月21日	Mother Healing （浜松市東区） 小池 かおる 氏	税理士法人坂本&パートナー（浜松市中区） 山尾 秀則 氏	23名
6	3月17日	サイクルショップやまもと （浜松市北区） 山本 哲宏 氏	日本政策金融公庫 石垣 恵市 氏	17名

⑥その他

起業実践特別講座、ベンチャーミーティング等を実施

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成26年度※1	平成27年度※2	平成27年度
①新規創業件数（相談者のうち）	6件	47件	—件
②相談件数	140件	588件	—件

※1：平成27年3月末日時点（平成26年9月から平成27年3月の数値）

※2：平成28年3月末日時点

※成果指標数は、創業支援総合窓口対応実績分

【総括】

平成27年度は、平成26年度の事業推進の中で培った経験をもとに、創業支援に関する企画をブラッシュアップし、事業展開を行ってきた。また、平成27年7月6日に創業支援総合窓口を浜松商工会議所1階に移設し、浜松市・浜松商工会議所・財団の3機関協同で「はままつ起業家カフェ」として新たな総合窓口を設けスタートさせた。起業家カフェには、専用のセミナー室やより気軽に立ち寄れる交流スペースを設けることで、情報収集や創業希望者同士の交流の場として積極的に活用している。

平成28年度においても、事業を推進するだけでなく、3機関及びはままつスタートアップ支援機関（金融機関・商工会など）と引き続き連携することで、浜松地域にとって創業しやすい環境づくりも併せて行っていく。

(2) 新事業展開プロデュース事業

決算額 2,123,442 円（予算額 2,550 千円）＜浜松市＞

【実施内容】

浜松地域で新しく起業しようとする創業者や第二創業をはじめ、新規事業展開を図る中小企業者等において、事業化の可能性が高く、将来に広がりを持ち、かつ地域経済への波及効果が期待できる新事業展開が見込まれる事業を支援することで、浜松地域経済の活性化に結び付けていく。

支援企業に対しては、事業計画に対する資金調達、研究開発、販路開拓等の各フェーズにおける課題・問題点などに対し、財団の経営コーディネーターや専門家（中小企業診断士、経営コンサルタント等）を配置し、事業化までハンズオン支援を行うと共に、新たなビジネスモデルの構築を支援した。

①一次公募

公募期間：平成 27 年 5 月 1 日（金）～5 月 29 日（金）

申請件数：2 件

採択件数：1 件 ※左記のほか平成 26 年度からの継続案件 5 件

事業期間：平成 27 年 7 月 1 日（水）～平成 28 年 3 月 31 日（木）

②二次公募

公募期間：平成 27 年 6 月 22 日（月）～7 月 17 日（金）

申請件数：6 件

採択件数：4 件

事業期間：平成 27 年 9 月 1 日（火）～平成 28 年 3 月 31 日（木）

No	企業名	新規事業内容
1	(株)サインクリエイト（浜松市南区） ※平成 26 年度から継続	「日本初」太陽光発電による独立電源スーパー防犯・防災灯の販路開拓事業
2	(株)玉澤（浜松市南区） ※平成 26 年度から継続	「まんさく工房」食肉工場直送小売店の出店
3	(株)オサカベ（浜松市西区） ※平成 26 年度から継続	ハウスクリーニング（住宅外装洗浄）＋ハウスコーティング（光触媒）
4	千年杉建築事務所（浜松市西区） ※平成 26 年度から継続	津波避難発明装置「浮力エレベーター」の提携企業営業
5	(有)竹村園芸（浜松市西区） ※平成 26 年度から継続	造園業、木質チップ発酵装置の実用化
6	(株)KPI（浜松市浜北区） ※一次公募採択	金属プレス加工品の製造販売、間伐材利用製品の製造販売
7	(株)ブルーニングハーツ（浜松市浜北区） ※二次公募採択	BH インターナショナルジャパンルアー製造共同体の運営
8	(株)Oneproduction（浜松市南区） ※二次公募採択	フィンユールホテルイン白馬 北欧家具のショールーム併設ホテル運営
9	(株)須部商店（浜松市北区） ※二次公募採択	機能性食品の開発及び販売プロジェクト
10	(有)プロテック（浜松市南区） ※二次公募採択	ヨーロッパスタイルのアンティークシェード開発・販売

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 26 年度 ※1	平成 27 年度 ※2	平成 27 年度
①新規事業サポート企業数	9 社	5 社 (+継続 5 社)	8 社以上
②創業者への支援数	— 者	0 者	2 者以上

※1：平成 27 年 3 月末日時点、※2：平成 28 年 3 月末日時点
 ※①の平成 27 年度目標は平成 26 年度からの継続案件 5 社を含む

【総括】

浜松地域から新たな新規事業展開を促進し、地域経済の発展につながるよう個人・中小企業者等への創業及び新規事業に対する支援事業として展開している。支援策として、まずは新規事業展開に沿った専門家を派遣し、専門的な見地から事業のブラッシュアップを行っていく。事業の進捗状況により、財団コーディネーターのハンズオンサポートによる各種支援制度の活用等を行いながら、支援企業の新規事業展開の事業化に繋げていく。

平成 27 年度は、採択企業全 5 社のニーズに応じたサポートを実施した。採択企業には経営コーディネーターを担当に付け、コーディネーターが選定した専門家による新規事業展開に関する支援を行った。平成 26 年度からの継続案件の 5 社は、平成 27 年 7 月 31 日をもって全て完了し、(株)玉澤では工場直送小売店事業を新規事業として取り組み、約 1 年間の支援による成果として、当初の販売目標を大きく上回る 140 万円/日の売上を確保することができた。また、平成 27 年度の成果としては、①自社技術を活かした新規事業に伴う新商品開発を行い、量産可能な仕組みづくりまでを事業化(株)KPI)、②新商品(機能性食品)の開発から市場拡大による業績向上(株)須部商店)、③新事業展開としてホテル開業に向けた事業化(株)Oneproduction)などである。

平成 28 年度については、浜松地域における創業支援の拠点として、平成 27 年 7 月に開設された「はままつ起業家カフェ(創業・新事業展開支援総合窓口)」において、起業から第二創業、新事業展開までを一連で支援する体制が整ったことから、新事業展開プロデュース事業は平成 27 年度末をもって終了する。なお、過去の支援企業等に対するフォローアップをはじめ、経営、販路開拓、資金調達等に関連する相談については、財団経営コーディネーターが「はままつ起業家カフェ」の創業支援コーディネーターとの連携により対応を継続していく。

(3) 起業支援セミナー

決算額 — 円(予算額 — 千円) <自主財源>

【実施内容】

①起業に伴う個別相談・販路開拓支援

浜松市立城北図書館にて起業支援のための定例相談会を実施した。

起業や既存企業の経営改善・販路開拓等の経営課題に関する相談に対し、経営コーディネーターが課題解決に向けたアドバイスをを行った。

開催回数：9 回(毎月 1 回程度、第 3 水曜日)

場 所：浜松市立城北図書館

②城北図書館起業家交流サロン事業

浜松市立城北図書館との共催により、新規創業者及び創業予定者を対象に、創業支援・啓発セミナーを開催。年間 3 回を目安として、自ら起業した経営者の経験談を中心とした「起業支援セミナー」を実施した。

開催回数：3回

場 所：浜松市立城北図書館

【講座内容】

回	開催日	内 容	講 師
1	7月25日(土)	「起業の魅力」退社から、そして現在の状況とその時々 の想い。	アラキエンジニアリング(株) (浜松市中区) 荒木 弥 氏
2	9月26日(土)	起業、そして現在の状況と その時々 の想い。	(株)ショービ (浜松市東区) 二村 眞行 氏
3	12月19日(土)	起業、そして現在の状況と その時々 の想い。	ニュークリアス (浜松市中区) 富田 妙子 氏

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成26年度※1	平成27年度※2	平成27年度
①相談案件総数	27件	9件	24件
②上記のうち起業相談	15件	7件	15件
③上記のうち起業した数	1件	1件	1件

※1：平成27年3月末日時点、※2：平成28年3月末日時点

【総括】

平成27年度も前年度に引き続き、経営に関する相談会を毎月1回、起業に向けたセミナーを年3回の計画で事業をスタートさせた。しかし、相談会においては相談の申し込みがほとんどなく、相談者数が大幅に減っている。要因としては、創業支援事業が平成26年度からスタートし、創業希望者に向けた窓口を新しく開設したことが考えられる。それらを踏まえ、相談会の形態を再考し、相談会の日程を起業セミナーとの同時開催に変更して実施した。

平成28年度以降については、はままつ起業家カフェ・浜松市立城北図書館・当財団の3機関で、次年度以降の取り組みについて協議を行い、浜松地域における創業・新事業展開総合窓口である「はままつ起業家カフェ」が中心となり、創業支援事業計画における城北図書館の位置付けと役割を明確にし、互いの事業を連携した形で相談会やセミナー内容のブラッシュアップを行いながら事業展開していく。

7 半田山TBG活用運営事業

決算額 1,274,863 円（予算額 3,682 千円）＜自主財源＞

【目的】

新事業創出や産学官連携を目指す企業の活動の場として活用していた「半田山TBG（テクノビジネスゲート）」について、入居企業の減少や有効な活用方法が見いだせないこと、更には建物の維持管理費や改修費用がかさむことから、施設処分の手続きを進める。

【実施内容】

インキュベート施設として利用していた半田山TBG施設は、有効活用の手立てがなく、隣接する常葉大学と「解体」の方向で調整をし、両方で解体に向けた協定を締結した。

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 26 年度 ※1	平成 27 年度 ※2	平成 27 年度
①解体時期・方法等の決定	「解体」 判断	両者 機関決定	年度内 機関決定

※1：平成 27 年 3 月末日時点、※2：平成 28 年 3 月末日時点

【総括】

TBG に隣接する常葉大学の臨床心理教育実施センター棟については、平成 27 年 5 月開催の同学理事会において、「平成 28 年 4 月以降に解体する」ことが機関決定された。

当財団も平成 27 年 10 月開催の理事会及び 11 月開催の評議員会において、TBG 棟の処分（多額の財産の処分）について決議を受けた。これを受けて、常葉大学と「解体」に関して具体的に協議をし、解体時期、費用の負担割合、業者選定等を定めた「協定書」を締結した。

今後の課題としては、補助金返還を含む国県との調整や浜松市への敷地の引渡しに関する調整、解体に伴う備品の整理、保管書類の代替置き場の確保、引越し作業等があり、平成 28 年度中の解体処分に向けて、各種手続きを着実に進めていく。

8 債務保証事業

決算額 1,825,854 円（予算額 9,390 千円）＜自主財源＞

【目的】

地域中小企業が行う技術、商品の研究開発に係る資金調達の円滑化を図り、研究開発型企業の育成を促進する。

【実施内容】

新技術・新製品の開発に際し、中小企業が融資銀行から借り入れた研究開発資金に対して、債務保証（債務保証期間 8 年以内、保証債務残高 最大 3 千万円、無担保）を行うものである。

(1) 債務保証制度内容

- ア 保証限度額：一企業 30,000 千円以内
- イ 利率：年 1.5%（静岡県制度融資適用の場合）
- ウ 保証期間：8 年以内
- エ 保証料率：0.9%保証限度額

(2) 新規債務保証

平成 27 年度 新規債務保証 0 件

(3) 債務保証対象企業の調査及び指導

借入先企業（関係会社を含む）の経営・財務状況資料を徴収し、その内容について融資元金融機関に対し確認を行った。

(4) 債務保証残高

平成 27 年度末の債務保証残高 0 件／0 千円（前年比 ー%）

(5) 求償権先に対する状況確認及び督促

平成 28 年度も引き続き、求償権先の連帯保証人に対し弁護士を通じ請求を行うと共に、連帯保証人へのアプローチを実施する。

【成果指標】

(単位:千円)

項目	実績		目標
	平成 26 年度 ※1	平成 27 年度 ※2	平成 27 年度
①債務保証残高	11,902 千円	— 千円	— 千円
②求償権残高 (貸倒引当前)	3,139 千円	3,139 千円	2,639 千円

※1：平成 27 年 3 月末日時点、※2：平成 28 年 3 月末日時点

【総括】

債務保証先の 1 社については、平成 27 年 1 月に保証期限の 1 年間の延長を行い、月々の返済は滞りなく実行された。また、金融機関と債務保証先との調整の結果、金融機関から新しく支援を得ることとなり、債務保証中の借入については平成 28 年 1 月に一括返済 (9,373 千円) が行われ、当財団の債務保証残高は完済となった。

5【活かす】知財総合支援

9 知的財産活用推進事業

決算額 4,679,445 円（予算額 7,000 千円）＜浜松市＞

決算額 200,000 円（予算額 200 千円）＜静岡県＞

(1) 知的財産に関する相談事業

決算額 494,978 円（予算額 1,000 千円）＜浜松市＞

【目的】

特許・商標等の調査、出願などの知財に関する各種相談への対応を通じて、中小企業や個人が抱える知財に関する様々な課題、悩みを解決すべく支援すると共に、企業経営における知的財産活用の有効性や必要性を広く地域中小企業へ啓発し、知財の効果的活用を促進する。

【実施内容】

当財団の知財コーディネーターと知財総合窓口支援担当(特許庁事業)が連携して、中小企業や個人からの相談に応じた。

・平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月までの相談対応件数は 711 件。

(内 企業訪問：100 件〔内 知財総合窓口支援専門家派遣利用：70 件〕)

・平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月までの相談対応を通じた出願件数は、特許 28 件、実用新案 2 件、意匠 3 件、商標 42 件。

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 26 年度 ※1	平成 27 年度 ※2	平成 27 年度
①相談対応件数	683 件	711 件	650 件
②企業訪問件数	98 件	100 件	100 件
③専門家派遣件数	36 件	70 件	60 件
④出願支援件数	特許	13 件	計 40 件
	実用新案	0 件	
	意匠	5 件	
	商標	19 件	

※1：平成 27 年 3 月末日時点、※2：平成 28 年 3 月末日時点

※①～③は静岡県発明協会の知財総合窓口支援担当による相談件数を含む。

目標件数は特許庁が設定した知財総合窓口支援事業の目標件数。

【総括】

相談対応件数実績 711 件は、平成 27 年度目標件数 650 件に対して 109%の達成率であり、平成 26 年度の実績件数 683 件に対しても 104%と増加している。これは、商工会議所、商工会、金融機関からの支援要請や紹介が増えていることが一因となっている（他機関との連携効果が出ている）。また、新規企業、個人事業主からの相談件数が全体の 20%を占めるなど、企業の知財意識、関心が広がっているものと思われる。

相談の内容としては、特許権、商標権等の侵害判断が絡む他社権利対策や権利化可能性判断を含む特許、商標等の出願などの微妙で難解な案件が増えつつあるため、特許庁知財総合窓口支援事業の専門家派遣制度を活用し、弁理士と連携・協力して支援している。また、著作権問題や各種契約問題に関する相談もあり、相談内容の幅が広

がってきている。これらの相談対応においては、知財に起因する事業上のリスク低減と知財価値の最大化の両面から適切な支援を行うように取り組んでいる。

更に、企業の抱える課題解決に向けて知財面での支援に留まらず、デザインマネジメント、ブランド構築及び販路開拓などの面からも支援すべく、特許庁事業のデザイン・ブランド専門家派遣制度を活用して専門家と共に支援する取り組みも進めている（同専門家派遣件数は5件）。

なお、相談対応案件について、その後のフォローアップ支援も行いたいところであるが、時間的余裕がないことから対応ができていない点が課題である。

(2) 知的財産活用講演会・講習会

※決算額・予算額は(1)相談事業に含む

【目的】

知財に関する法制度の理解、知財実務の知識習得・スキルアップ及び企業活動における知財活用の啓発を図る。

【実施内容】

①講演会

地域企業の方々に新商品開発のための有効かつ有益な考え方を学んでもらうと共に、新商品を含めた事業を成功させるための知財活用の必要性を理解してもらうために、以下の講演会を開催した。

開催日：平成27年6月9日（火）

会場：アクトシティ浜松 研修交流センター

講師：飯田教育総合研究所(神奈川県横浜市)所長 工学博士 飯田 清人氏

内容：知的財産と新ビジネス開拓～新市場を勝ち取る、我が社の潜在能力発揮法～ ※はままつ知財研究会との共催

参加者：42社51名（募集定員50名）

[市内]企業 25社30名、行政・産業支援機関 6機関7名

[市外]企業 17社21名、行政・産業支援機関 2機関2名

開催日：平成27年8月31日（火）

会場：静岡文化芸術大学

講師：㈱エムテド代表取締役（東京都世田谷区） 田子 學氏

㈱ユーフォリア代表取締役（東京都墨田区） 橋口 寛氏

内容：デザインマネジメントの実践～新たな時代の「経営」「発想」「商品開発」のヒントがここに～ ※デザインマネジメント事業との共催

参加者：72社100名（募集定員100名）

[市内]企業 59社84名、行政・産業支援機関 2機関2名

[市外]企業 13社16名

また、浜松市と連携して特許庁に「平成27年度戦略的知財マネジメント促進事業・知的財産セミナー」を浜松市内で開催することを要請し、以下のセミナー3回を開催した。※開催者は特許庁、関東経済産業局、浜松市、（公財）浜松地域イノベーション推進機構であり、開催実施機関は一般社団法人発明推進協会である。

開催日：平成27年10月28日（火）

会場：アクトシティ浜松 研修交流センター

講師：一燈国際特許事務所（東京都千代田区）所長 弁理士 橋 和之氏

内 容：特許明細書の読み方・書き方
参加者：41社43名（募集定員40名）

開催日：平成27年12月17日（木）

会 場：サーラシティ浜松

講 師：(株)エンジニア（大阪府東成区）代表取締役社長 高崎 充弘氏

内 容：モノづくり企業を活性化する4つの秘訣～ネジザウルス GT の開発から得られた「MPDP」～

参加者：38社41名（募集定員40名）

開催日：平成28年2月25日（木）

会 場：アクトシティ浜松 研修交流センター

講 師：東京理科大学専門職大学院 教授 越生 由美氏

内 容：浜松の地域資源を活かした知財戦略～企業ブランドと地域ブランド～

参加者：14社23名（募集定員40名）

更に、文化庁と浜松市との共催による「平成27年度著作権セミナー」開催を支援した。※講師謝金の一部を（公財）浜松地域イノベーション推進機構が負担。

開催日：平成27年11月20日（金）

会 場：サーラシティ浜松

講 師：TMI 総合法律事務所（東京都港区） 弁護士 小坂 準記氏

内 容：著作権との“上手な”付き合い方～実際のトラブル事例と活用を踏まえて～

参加者：37社49名（募集定員70名）

②講習会

中小・中堅企業等における知財に関わる人材の育成を目的に、平成27年度初心者向け「知財基礎講習会」（はままつ知財研究会との共催）を7月から開催した。

講座の内容は、“知的財産権制度、特許法のポイント等の基礎的法律知識、特許等の知財情報検索の実習、発明のまとめ方、権利解釈の仕方などの企業の知財活動における実務知識、スキル等についての講義、演習、グループディスカッション”で、企業の新任知財担当者や技術者等を対象としている。

会 場：浜松商工会議所会館 ほか

講 師：知財コーディネーター 石井 勉

グループディスカッション アドバイザー はままつ知財研究会幹事

内 容：全6回コース（平成27年7月～平成28年1月）

参加者：13社17名（募集定員20名）

[市内]企業 10社14名、大学・産業支援機関 1機関1名

[市外]企業 3社3名、大学・産業支援機関 1機関1名

回	開催日	内容
第1回	7月31日（金）	・知的財産権制度の概要 ・特許制度と特許法の概要 ・グループ討議（「企業」と「知財」について）

第2回	8月28日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・特許出願～権利化の流れ ・グループ討議（「発明の進歩性」について） ・特許権の事例紹介
第3回	9月25日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・特許権の権利範囲と権利解釈 ・グループ討議（「権利解釈」について） ・特許権の利用関係
第4回	10月30日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・意匠制度、商標制度の概要 ・特許情報調査と特許情報の活用 ・特許庁「特許情報プラットフォーム」を使用した特許、意匠、商標の検索調査実習
第5回	11月27日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・企業活動と知的財産権 研究開発成果の特許出願 ・グループ討議（「発明の本質把握、整理」について） 他社権利対策、自社権利行使
第6回	1月27日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・第5回の宿題に対する解説 ・知財関連契約 ・知財活動と知財（特許）戦略 ・グループ討議（「企業の知財活動に関する課題、悩みなど」について） ・まとめ

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成26年度※1	平成27年度※2	平成27年度
①講演会・講習会開催回数	11回	12回	9回以上
②参加者満足度	92%	94%	90%以上

※1：平成27年3月末日時点、※2：平成28年3月末日時点

【総括】

平成27年度上半期の知財講演会は、視点を変え、知財固有の専門的テーマではなく、“新事業・新商品・新技術の創出と知財活動”というテーマにて2回の講演会を開催した。内容は新事業、新商品、新技術創出の必要性、そのためのアイデア・発明の発想法、取り組み方、そして、アイデア、発明を知的財産権として保護、活用するというもので、知財関係者はもとより様々な業界から多数の参加があった。企業が“事業・研究開発・知財”の三位一体の活動を行う上で大変有益なものであったと考える。

また、平成27年度下半期の「平成27年度戦略的知財マネジメント促進事業・知的財産セミナー」（計3回）は、浜松市と連携して関東経済産業局に要請し、浜松市内での開催を実現させたもので、テーマ、内容、講師は当方主導で決定したにも関わらず、講師謝金、会場費等の費用負担が不要であった。このような特許庁や関東経済産業局による知財関係のセミナーを当地域で開催することは、費用面、講師面などで多大のメリットがあり、今後も要望していく。

一方、知財基礎講習会は3年目を迎え、受講者数は年々増加し、企業の新任知財担当者、技術者、個人事業主、大学の知財関係者等と多岐にわたる。特に、本講習会は座学だけではなく、毎回、グループディスカッションも行うようにしているため、知財に関する知識やスキルの向上と共に、普段経験できない社外の人々との

イスカッションできることが有益となっている。

上記の各種講演会、セミナー、講習会の参加者のアンケート結果から、「大変満足」、「概ね満足」の意見が多く、参加者満足度は全体平均で 94%に達した。平成 28 年度以降も多くの参加者にとって有益で、満足度の高い講演会、講習会を企画開催していく。

(3) 特許等出願支援補助金事業

決算額 3,610,893 円（予算額 4,000 千円）＜浜松市＞

【目的】

中小企業の特許等の知的財産権制度の利用を促進し、知的財産権を活用した事業展開を支援する。

【実施内容】

①特許等出願支援補助金

公募期間：1次 平成 27 年 6 月 8 日（月）～7 月 31 日（金）

2次 平成 27 年 9 月 24 日（木）～10 月 30 日（金）

※海外は随時募集として 9 月 24 日（木）～12 月 11 日（金）で実施

概要：補助率 1/2、上限 15 万円（国内）・50 万円（海外）

補助対象経費（出願手数料、弁理士経費など）

内容：ア．国内出願補助金 浜松市内に本社機能を有する中小企業者、個人事業者の国内特許出願、実用新案出願、意匠出願に対する出願費用の補助を行う（予算 1,500 千円）。

1 社 150 千円上限、補助対象経費の 1/2 以内

イ．海外出願補助金 浜松市内に本社機能を有する中小企業者、個人事業者で、国内で既に特許等の出願（PCT 国際出願を含む）を行っているものを対象として、外国特許庁への出願手数料、現地代理人費用、翻訳費用、先行技術調査費用等に対して補助を行う（予算 2,500 千円）。

1 社 500 千円上限、補助対象経費の 1/2 以内

申請件数：1次募集 [国内] 12 件 [海外] 5 件

2次募集 [国内] 5 件 [海外] 2 件

随時募集 [海外] 1 件

採択件数：1次募集 [国内] 8 件 [海外] 3 件

2次募集 [国内] 5 件 [海外] 2 件

随時募集 [海外] 1 件

事業期間：平成 27 年 4 月 1 日（水）～平成 28 年 2 月 29 日（月）

交付確定額：1,695,390 円[国内]

1,875,527 円[海外]

【国内出願補助金】

（単位：円）

	No	採択企業名	種別	申請内容	交付確定額
1次募集	1	(株)R y u (浜松市天竜区)	特許	「携帯用石窯」	150,000
	2	(有)勝美 (浜松市北区)	特許	「ウナギ臭を抑制したパウダーの製造」	150,000
	3	(株)ケイテック (浜松市南区)	特許	「ハンガー・ストッカー」	150,000

1 次 募 集	4	㈱イハラ製作所 (浜松市北区)	特許	「オイルポンプ」	150,000
	5	ナノ・ミール㈱ (浜松市北区)	特許	「有機化合物の微粒子製造法」	119,000
	6	エムズジャパン㈱ (浜松市中区)	特許	「車椅子型人工肛門便処理用 便器」	139,500
	7	(有)YK テクノリサー チ (浜松市中区)	特許	「甲殻類ソフトシェルの自動 化量産方法」	150,000
	8	㈱アールテック (浜松市北区)	特許	「3D モデリング技術にもとづ く生体レプリカの製作サービ ス事業」	101,840
2 次 募 集	9	(有)フジタックス (浜松市東区)	特許	「液面センサ」	150,000
	10	須山建設㈱ (浜松市中区)	特許	「生産性向上に貢献するコン クリート余剰水除去ロボットの 開発」	64,750
	11	鈴木電機工業㈱ (浜松市北区)	特許	「円筒樹脂を同時加工可能な レーザーヘッド機構」	82,800
	12	㈱森島農園 (浜松市東区)	特許	「即席ごはんに関する特許出 願」	150,000
	13	(有)パパラボ (浜松市中区)	特許	「2次元色彩計関連 色・質感 定量化方式」	137,750
計					1,695,390

【海外出願補助金】

(単位：円)

	No	採択企業名	種別	申請内容	交付確定額
1 次 募 集	1	㈱ブングボックス (浜松市中区)	商標	「BUNGUBOX」	178,201
	2	(有)パパラボ (浜松市中区)	特許	「着色検査装置及び着色検査 方法」	498,988
	3	(有)豊岡クラフト (浜松市北区)	商標	「木製品小物製造「Toyooka Craft」」	213,703
2 次 募 集	4	ショーダテクトロン ㈱ (浜松市西区)	特許	「基板切断装置及び基板切断 方法」	277,380
	5	(有)SGG 研究所 (浜松市北区)	特許	「緩み止めナットセットとそ の生産方法・Bestlox」	453,035
随 時	6	(有)永田ビル (浜松市中区)	意匠	「手裏剣玩具」	254,220
計					1,875,527

②補助金獲得入門セミナー・相談会の開催

期 日：平成 27 年 6 月 23 日 (火)

会 場：グランドホテル浜松

参加者：42 社 47 名

[市内]企業 40 社 45 名、行政・産業支援機関 6 機関 19 名

【成果指標】

項目		実績		目標	
		平成 26 年度 ※1	平成 27 年度 ※2	平成 27 年度	
①	国内特許等出願	申請件数	18 件	17 件	20 件
②	支援補助金事業	採択件数	6 件	13 件	10 件
③	海外特許等出願	申請件数	12 件	8 件	12 件
④	支援補助金事業	採択件数	6 件	6 件	6 件

※1：平成 27 年 3 月末日時点、※2：平成 28 年 3 月末日時点

【総括】

平成 27 年度の国内特許等出願補助金については、補助金総額を平成 26 年度に対して 50 万円増額し、採択枠を拡大したものの、1 次募集においては申請件数が前年度を下回った。その要因として、補助金対象者を「市内に住所又は主たる事業所を有する（平成 26 年度）」から「市内に本社機能を有する（平成 27 年度）」に限定したことが影響しているものと考えられる。

また、海外についても申請件数が少なく、海外特許出願の場合は、出願時はもとより出願後の権利化費用も高額になるため、費用対効果の観点から海外出願自体を躊躇することが要因の一つとして考えられる。

なお、国内、海外とも一次募集では予算枠に達しなかったため、二次募集（海外は随時募集として取り扱い）を行い、国内については二次募集申請・審査の結果、採択基準をクリアしている案件が多く、残り予算枠を超えたため、市と協議の上、超過分については海外特許等出願補助金からの予算流用で対応した。

平成 28 年度については、二次募集の結果を踏まえ、国内と海外の補助事業枠を柔軟に執行できるような制度設計への見直しを検討していく。

(4) 「はままつ知財研究会」との連携（同研究会の事務局事業）

【目的】

「はままつ知財研究会」が開催する知財に関する研究部会活動等の各種事業を事務局として支援すると共に、同研究会との連携により、地域企業の知財活動の向上と知的財産関係の人材育成に取り組む。

【実施内容】

①総会の開催

開催日：平成 27 年 6 月 9 日（火）

会 場：アクトシティ浜松 研修交流センター

内 容：平成 26 年度事業報告及び収支決算、役員を選任、平成 27 年度事業計画及び収支予算案について審議。全議題について承認を得た。

②知財問題研究部会（IP 部会）

開催回	開催日	内 容
第 52 回	5 月 8 日（金）	商標権とブランド戦略～企業価値を高める商標の活用～ 講師：アリスト特許事務所所長 弁理士 橋本政美氏
第 53 回	7 月 3 日（金）	高い価値を有する特許権の創出方法～特許価値を高める技術について～

		講師：プレシオ国際特許事務所代表 弁理士 速水進治氏
第54回	9月4日(金)	近年の米国特許実務～最高裁・CAFC判決を踏まえての特許実務のポイント～ 講師：快友国際特許事務所パートナー 弁理士 椿 和秀氏
第55回	11月6日(金)	事業のビジネスモデルによる特許クレーム記載及び明細書の違いを考える 講師：響国際特許事務所中部ランチ 弁理士 西川 隆記氏
第56回	1月8日(金)	e文書法の最新動向と契約管理業務 ICT活用で変える知財管理の在り方 講師：弁護士 大西祐生氏 富士通(株) 武田 悟史氏他
第57回	3月4日(金)	プロダクトバイプロセスクレーム最高裁判決と実務への影響～事例分析を中心に～ 講師：修明国際特許事務所 弁理士 一色昭則氏

会 場：アクトシティ浜松 研修交流センター

参加者：165名（研究会会員企業・弁理士等）

③工場等見学会の開催

開催日：平成27年8月26日(水)

会 場：静岡県工業技術研究所 浜松工業技術支援センター

内 容：同センター研究施設見学、質疑応答・意見交換会

参加者：16名

④講演会の開催

参加者：19社22名（研究会会員企業・弁理士等）

開催日	内 容	講 師
10月22日(木)	米国特許法改正に伴う特許付与後手続き制度～当事者系レビュー(IPR)を中心に特許付与後手続について学ぶ～	米国特許弁護士 マット・カトラー氏

【総括】

会員企業の知財責任者、担当者等が幹事、委員として各事業を自ら企画、運営していることにより、会員にとって有益な活動ができていると考察する。

(5) 特許流通支援事業

決算額 200,000 円（予算額 200 千円）＜静岡県＞

【目的】

中小企業等の経営資源としての保有特許の活用（ライセンス、アライアンス形成等）及び研究開発における外部資源の活用（特許技術導入等）について、静岡県特許流通アドバイザー等と連携して特許流通に関する支援を行う。

【実施内容】

当財団の知財コーディネーター、知財総合窓口支援担当及び静岡県特許流通アドバイザーが連携し、中小企業等からの保有特許の活用や外部資源としての他社特許活用

などの相談に対応した。

また、特許流通事業に関連して「海外特許情報等検索講習会」を下記のとおり開催した。

開催日：平成 27 年 11 月 24 日（火）

会 場：浜松職業能力開発短期大学校（ポリテクカレッジ浜松）

講 師：元 国立大学法人静岡大学 イノベーション社会連携推進機構
産学連携推進部門 コーディネーター 吉田 典江氏

参加者：12 社 12 名

[市内] 企業 11 社 11 名、行政・産業支援機関 2 機関 3 名

[市外] 企業 1 社 1 名

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 26 年度 ※1	平成 27 年度 ※2	平成 27 年度
①特許流通支援件数	12 件	6 件	10 件

※1：平成 27 年 3 月末日時点、※2：平成 28 年 3 月末日時点

【総括】

中小企業の特許権、ノウハウを他社にライセンスする案件について、ライセンスに関する対象権利の整理、相手方への提示の仕方、秘密保持契約、実施許諾契約の契約書内容も含めて経営・事業的な観点から有益な支援となるよう取り組んでいる。

平成 27 年度に入ってから個人発明家からの特許ライセンス、権利譲渡に関する相談がなかったため、件数が減少した。今後、仮に個人相談として、ライセンス先が全く未定の相談があった場合には、この分野の知識・経験が豊富な静岡県特許流通アドバイザー等と連携して対応していく予定である。

また、大企業、大学等の休眠特許の活用が話題になっているが、これについては国、（公財）静岡県産業振興財団、金融機関等の動きを見つつ、それら機関と連携して対応していく。

(6) 【新規】規格認証取得等支援事業

決算額 573,574 円（予算額 2,000 千円）〈浜松市〉

【目的】

成長 6 分野（次世代輸送用機器、健康・医療、新農業、光・電子、環境・エネルギー、デジタルネットワーク・コンテンツ）における中小企業の国際規格の認証取得を支援することにより、新分野進出や販路拡大を図る。

【実施内容】

中小企業が新分野進出や販路拡大、経営基盤強化等のために実施する国際規格「ISO9001」の新規取得へ向けた取り組みに対して補助金を交付した。

また、6 月 23 日開催の「補助金獲得入門セミナー」にて当補助事業の紹介をすると共に、国際標準化に向けた取り組みを支援するための啓発セミナーを実施した。

① 国際標準化セミナー

開催日：平成 28 年 2 月 24 日（水）

会 場：グランドホテル浜松

講 師：（一財）日本規格協会標準化アドバイザー 岩永明男氏

内 容：「新市場創造標準化制度」及び「標準化パートナーシップ制度」など

参加者：42 社 45 名

[市内] 企業 31 社 33 名、行政・産業支援機関 4 機関 12 名
 [市外] 企業 11 社 12 名

② 国際規格認証取得支援補助金

公募期間：1 次募集 平成 27 年 6 月 29 日（月）～7 月 31 日（金）

随時募集 平成 27 年 8 月 24 日（月）～12 月 28 日（月）

概要：ISO9001 の新規取得にかかる経費の一部を助成する。

補助率 1/2 以内、上限 1 社 500 万円、補助対象経費は、審査機関への申請・登録に要する費用及びコンサルタント委託料

申請件数：1 次募集 0 件、随時募集 1 件

採択件数：1 次募集 0 件、随時募集 1 件

No.	企業名	事業名	交付確定額
1	株式会社南部製作所	ISO9001 認証取得事業	437,000 円

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 26 年度 ※1	平成 27 年度 ※2	平成 27 年度
①採択件数	— 件	1 件	3 件

※1：平成 27 年 3 月末日時点、※2：平成 28 年 3 月末日時点

【総括】

新規事業であるため、市内の中小企業にとってどのような補助制度が効果的かを検討した中で補助事業の制度設計を行い、制度活用の促進に向け、情報発信や企業訪問を実施した。

地域のものづくり企業 5 社からは、具体的な取得計画を基に相談を受け、うち 2 社は専門家派遣制度により対応したが、結果として補助申請は 1 件に留まった。随時募集を行う中でも補助申請を検討していた企業に訪問するなどして企業ニーズの把握に努めたが、他機関の補助制度や専門家派遣制度で代替可能であることを確認できたため、平成 27 年度をもって当事業を廃止する。

ただし、次年度以降も地域のパートナー機関として、経済産業省の「標準化活用支援パートナーシップ制度」を活用する中で、情報発信や個別相談など可能な範囲の支援を継続していく。

6【創る】新事業開発支援

10 技術開発・新産業創出支援事業

決算額 4,872,650 円（予算額 5,000 千円）＜浜松市＞

(1) [構造材] 新素材・新成形技術事業化研究会

・浜松地域 CFRP 事業化研究会（参加企業 55 社）

【目的】

次世代環境車をはじめとして将来輸送機器全般に必要とされる軽量化・高強度化・高性能化に対応するため、特に炭素繊維強化プラスチック（CFRP）材料に関する技術動向・技術情報の提供を行うと共に、浜松地域企業における CFRP の活用について調査研究及び技術の確立を支援する。

【実施内容】

平成 25 年度に製作した多品種少量生産に有用な UD テープ（一方向の炭素繊維に樹脂を含浸させたもの）の製造装置を用いて UD テープを製造し、会員企業での製品開発を行った。

研究会は、当初の勉強会から試作、製品開発へと事業化に向けた新たなフェーズへと段階を進めている。なお、会員企業がものづくり・商業・サービス革新補助金に申請し採択されたことから、超音波装置を利用した UD テープ製造装置の改良に向け、共同して取り組んでいる。

また、最新の技術情報の提供と会員間のマッチングを図ったほか、ソーシャルネットワークのサイボウズを利用して会員へ最新情報を配信した。

なお、第 1・2 四半期には各々 3 社が新規加入し、参加企業数が 49 から 55 に増加した。

①研究会・講演会

《第 11 回研究会》

開催日：平成 27 年 4 月 17 日（金）

会 場：浜松工業技術支援センター

内 容：ア 講演 1「事業化に向けた研究会の今後の活動について」

浜松地域 CFRP 事業化研究会会長 室井 國昌 氏

イ 講演 2「超音波による開繊・含浸技術について」

㈱アドウエルズ（福岡県筑紫郡那珂川町）

代表取締役 中居 誠也 氏

ウ 意見交換会「CFRP の事業化の方向性について」

司会 静岡大学工学部機械工学科 教授 早川 邦夫 氏

エ 見学会「UD テープ製造装置見学」

参加者：19 社 21 名

[市内] 企業 11 社 11 名、行政・産業支援機関 3 機関 8 名

[市外] 企業 8 社 10 名

《第 12 回研究会》

開催日：平成 27 年 7 月 15 日（水）

会 場：静岡大学 佐鳴会館

内 容：ア 講演 1「JEC Europe 2015 トピックス ～熱可塑性コンポジットを主体に～」

福井大学 特命准教授 山根 正睦 氏

イ 講演 2 「複合材料の適用技術について

～産学官連携の欧州動向や北陸中部エリアの取り組み～

金沢工業大学 教授 鶴澤 潔 氏

ウ 会員企業紹介

アイシン精機(株) (愛知県刈谷市)、丸紅(株)浜松支店 (浜松市中区)

参加者：24 社 28 名

[市内] 企業 10 社 11 名、行政・産業支援機関 2 機関 3 名

[市外] 企業 14 社 17 名

《第 13 回研究会》

開催日：平成 27 年 10 月 22 日 (木)

会 場：呉竹荘

内 容：ア 講演 1 「自動車用 CFRP 部品の開発とその成形技術」

金沢工業大学 大学院工学研究科 教授 影山 裕史 氏

イ 講演 2 「Microwave Moulding

～3D プリンターによるゴム型を用いた熱可塑性樹脂の成形～」

(株)ディーメック (茨城県つくば市) 光成形統括 栗原文夫 氏

ウ 会員企業紹介

日鉄住金物産(株) (東京都)、(株)オーミ (磐田市)

参加者：14 社 16 名

[市内] 企業 7 社 8 名、行政・産業支援機関 1 機関 1 名

[市外] 企業 7 社 8 名、行政・産業支援機関 1 機関 1 名

《第 14 回研究会》

開催日：平成 28 年 1 月 26 日 (火)

会 場：呉竹荘

内 容：ア 講演 1 「浜松工業技術支援センターにおける複合材料の取り組み」

浜松工業技術支援センター 繊維高分子材料科

科長 鈴木一之氏、 研究員 山崎利樹氏

イ 講演 2 「高繊維含有率(高力学特性・高耐熱性)を実現できる連続繊維強化 FRP の溶液プリプレグ成形法の開発」

信州大学 繊維学部 教授 鮎力民氏

ウ 講演 3 「大型製品に於ける FRP 成形のバリエーション」

ヤマハ発動機(株) マリン事業本部

主査・蒲郡事業所長 北川欽哉氏

参加者：24 社 25 名

[市内] 企業 13 社 14 名、行政・産業支援機関 1 機関 1 名

[市外] 企業 11 社 11 名

②UD プロジェクト

開催回数：10 回 (+UD テープ試作テスト、成形テストを 10 数回実施)

開催日：平成 27 年 6 月 26 日 (金)、7 月 24 日 (金)、7 月 31 日 (金)、
8 月 11 日 (火)、9 月 17 日 (木)、10 月 9 日 (金)、10 月 23 日 (金)、
11 月 13 日 (金)、11 月 20 日 (金)、11 月 26 日 (木)

会 場：浜松地域イノベーション推進機構 ほか

内 容：ものづくり補助金によるプロジェクトの進め方についての議論

参加者：各回 5～6 社 (名) 程度

③用途開発分科会

開催回数：2回

開催日：平成27年9月18日（金）、11月2日（月）

会場：浜松地域イノベーション推進機構 ほか

内容：クラウドファンディングの説明及び今後の開発の方向性に関する議論、アイデアソン形式でアイデアを出し合い、UDテープで何を作るかを絞り込んだ。

参加者：12社13名

[市内] 企業 8社9名、行政・産業支援機関 1機関1名

[市外] 企業 3社3名

④展示・講演

イベント名：JCCM-7（第7回日本複合材料会議）

開催日：平成28年3月16日（水）～18日（金）

会場：京都府民総合交流プラザ

内容：UDテープ及びUDランダムチョップのコンプレッション成形品を展示し、研究会の活動を学会参加者に広報した。

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成26年度※1	平成27年度※2	平成27年度
①総会・講演会の開催	3回	4回	2回
②プロジェクト、部会、WG、分科会	8回以上	12回	2回以上

※1：平成27年3月末日時点、※2：平成28年3月末日時点

【総括】

本研究会は、輸送機器の軽量化の主要技術の一つであるCFRPにターゲットを絞り、中小企業が製品化・事業化を目指す上で最適なUDテープの技術確立に向けて取り組んできた。平成27年度は、培ってきた技術の更なる高度化を図ると共に、事業化に向けた製品開発への応用を模索するため、ものづくり・商業・サービス革新補助金を活用して、UDテープを安価に製造する装置の開発、改良に努めた。また加えて、それによって製造されたUDテープを展示会に出品するなどして、UDテープの特性を活かした活用方法を模索した。来年度も引き続きUDテープを活用した新製品開発に向けて取り組んでいく。

・浜松地域チタン事業化研究会（参加企業：27社、1団体）

【目的】

次世代環境車をはじめとして将来輸送機器全般に必要とされる軽量化・高強度化・高性能化に対応するため、特にチタン材料に関する技術動向・技術情報の提供を行うと共に、浜松地域企業におけるチタンの活用について調査研究及び技術の確立を支援する。

【実施内容】

技術習得、人材育成及び技術シーズ探索を中心とした段階から、本格的な事業化・製品化を視野に入れた段階へと移行し、個別企業支援を中心に取り組んだ。

<部会・プロジェクト活動>

① ラドルプロジェクト

アルミニウム溶湯を給湯するチタン製ラドル製作の事業化をプロジェクトとして支援した。橋本エンジニアリング(株)は、チタンの表面処理方法を系統的に試験研究するため、静岡理工科大学の吉田准教授に研究を依頼した。まずは、伸光金属工業(株) (神奈川県横浜市) で純チタン板にアルミナイズド処理を行い、静岡理工科大学にて、種々の熱処理条件で拡散浸透試験を行った。表層に $TiAl_3$ が生成したことが確認できたが、熱衝撃強度に有害な鉄化合物も散見されたため、伸光金属工業(株)と改めて協議したところ、現状の処理方法では改善できないことが判明した。そこで、静岡理工科大学で、純アルミニウムにて試験し、チタン表面にアルミナイズド層がうまく被覆されたので、浸透拡散処理を行って確認した。その結果、熔融温度以上まで昇温させて、ポーラス皮膜を生成しないと、溶湯の酸化皮膜の剥離性が劣ることも判明した。これらの実験結果をまとめ、今後の開発に供することとした。

②講演会「自動車における究極の軽量化 マルチマテリアル車体の最新動向」

開催日：平成 27 年 10 月 1 日 (木)

会 場：ホテルクラウンパレス浜松

内 容：ア「マルチマテリアル車体の動向と接合技術について」

日産自動車(株) (神奈川県横浜市)

車体技術開発部シニアエンジニア 千葉 晃司 氏

イ「アルミニウム合金の自動車部品への採用の現状と将来の展望」

(株)神戸鉄鋼所 (兵庫県神戸市)

アルミ・銅事業部門 アルミ板自動車材営業部

市場開発室 次長 櫻井 健夫 氏

ウ「自動車用高強度鋼版の開発動向」

新日鐵住金(株) (千葉県富津市)

鉄鋼研究所 薄板研究部 部長 吉永 直樹 氏

エ「CFRP の自動車への適用動向」

東レ(株) (東京都中央区) ACM 技術部主任部員 山口 晃司 氏

オ「『新型レジェンド』における新構造ドア製法 3D ロックシーム技術の開発」

ホンダエンジニアリング(株) (栃木県芳賀郡) 生産技術部

車体生産技術ブロック 生技 6 グループ 専任技員 熊谷 祐二氏

カ パネルディスカッション 「マルチマテリアル車体の課題」

モデレーター 静岡大学 特任教授 中村 保 氏

キ 名刺交換会

参加者：40 社 76 名 ※募集定員 70 名

[市内] 企業 15 社 49 名、行政・産業支援機関 1 機関 1 名

[市外] 企業 25 社 27 名、行政・産業支援機関 2 機関 3 名

※車体の軽量化においては、最適な素材を組み合わせる必要があることから、新素材 4 研究会合同で開催した。

③工場見学会

浜松地域 CFRP 事業化研究会と共催で下記見学会を開催した。

「三菱重工業(株)名古屋誘導推進システム製作所見学会」

開催日：平成 28 年 3 月 8 日 (火)

会 場：三菱重工業株式会社 名古屋誘導推進システム製作所 (愛知県)

内 容：新素材の宇宙分野における活用の可能性を探るための見学会。事業概

要の説明の後、名誘ギャラリー、源誠館（技能研修センター）、液体ロケットエンジン組立て工場と宇宙ステーション補給機（HTV）組立て工場の見学を行った。

参加者：19社23名（募集定員30名）

〔市内〕企業 16社20名 〔市外〕企業 3社3名

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成26年度※1	平成27年度※2	平成27年度
①総会・講演会の開催	1回	1回	1回
②プロジェクト、部会、WG、分科会	2回以上	2回	2回以上
③特許、意匠登録	0件	－件	3件 (H26～28)
④売上げ	6,000千円	1,000千円	30,000千円 (H26～28)
⑤その他（補助金獲得、新聞発表）	0件	－件	3件 (H26～28)

※1：平成27年3月末日時点、※2：平成28年3月末日時点

【総括】

平成27年度は、平成26年度と同様に、会員向け講演会の開催とプロジェクト支援を行っていく方向で活動した。

ラドルプロジェクトの事業化に向けてチタン製ラドルの製造方法の再検討を行った。具体的には、当初大まかな形状をスピニング加工で製作し、細部をホットプレスで最終形状を形成する方法を採用していたが、これをコスト上の理由からホットプレスのみで行う方法への転換を図った。小容量のラドルの製作には成功したが、大容量の製作は困難のため、今後の課題とした。表面処理に関しては、フラックス処理なしで純アルミニウムを被覆が可能なこと、拡散条件が概略判明したこと、熔融温度域まで昇温させる必要があることなどが静岡理工科大学の研究報告から判明した。これらと併行して(株)榛葉鉄工所（掛川市）において、チタン製ラドルの製造技術の確立を進め、来年度のダイキャスト展示会に出展し、販売開始を目指していく。

・浜松地域マグネシウム事業化研究会（参加企業：14社）

【目的】

次世代環境車をはじめとして将来輸送機器全般に必要とされる、軽量化・高強度化・高性能化に対応するため、特にマグネシウム材料に関する技術動向・技術情報の提供を行うと共に、浜松地域企業におけるマグネシウムの活用とその成形技術に関する研究開発及び知識・技術の習得を促進し、参画企業の製品化・事業化を図る。

【実施内容】

平成27年度は、超軽量車椅子について量産（40台）・販売の支援を行うために、「MC-X量産化プロジェクト」を平成27年5月25日に立ち上げた。民間試験研究機関である一般社団法人日本福祉用具評価センター（以下、JASPEC）に車両としての評価を委託したほか、材質をより高強度・高耐食なAZ61に切り替え、溶接や表面処理などの品質保証などの検討についてコーディネートした。平成27年10月の国際福祉機器展に出展した橋本エンジニアリング(株)（浜松市浜北区）のサポートを行った。

また、技術の水平展開であるパワーアシスト用部品の試作については、(株)榛葉鉄工

所（掛川市）、㈱キャップ（周知郡森町）の技術支援を続行している。

<講演会>

①「マグネシウム新時代を拓く材料・加工・表面処理」

開催日：平成 27 年 7 月 16 日（木）

会 場：グランドホテル浜松

内 容：ア「Mg 及び Mg-Li 合金板材の温間プレス成形加工と新表面処理による PC 筐体の開発」

㈱カサタニ（大阪市）

開発技術統括部 研究開発担当 小原 美良 氏

イ「マグネシウム合金製車椅子に展開されたホットスタンピング技術」

㈱キャップ（周知郡森町） 代表取締役 高井 三男 氏

ウ 特別報告「自動車マグネシウム適用拡大検討委員会」活動報告

（一社）日本マグネシウム協会

副会長（㈱東海理化 専務取締役）中村 弘之 氏

エ「耐熱性 Mg-Al-Zn-Ca-Sr 系合金及び化学的な金属樹脂接合技術」

㈱新技術研究所（御殿場市） 代表取締役社長 平井 勤二 氏

オ「モーターサイクル用大型マグネ真空ダイカスト部品の開発」

ヤマハ発動機㈱（磐田市） 技術本部 材料技術開発グループ

主事 鈴木 貴晴 氏

参加者：28 社 45 名（募集定員 50 名、申し込み数 31 社 50 名）

[市内] 企業 8 社 20 名、産業支援機関 2 社 2 名

[市外] 企業 20 社 25 名

協 賛：一般社団法人 日本マグネシウム協会

<工場見学会>

「㈱新技術研究所見学会」

開催日：平成 27 年 6 月 23 日（火）

会 場：㈱新技術研究所（御殿場市）

内 容：マグネシウム用に開発した新化成皮膜、金属と樹脂の接合技術の講義と会社見学。

参加者：6 社 7 名（募集定員 15 名）

[市内] 企業 1 社 1 名、行政・産業支援機関 2 機関 3 名

[市外] 企業 5 社 6 名

<安全講習会>

開催日：平成 27 年 7 月 30 日（木）、31 日（金）

会 場：平成 27 年 7 月 30 日（木）橋本エンジニアリング㈱（浜松市浜北区）
平成 27 年 7 月 31 日（金）㈱榛葉鉄工所（掛川市）

講 師：伊藤技術士事務所（栃木県栃木市） 伊藤 茂（つとむ）氏

内 容：本格的なマグネシウムの加工に対応できる内容の安全講習会を、企業の現場にて指導を受ける形で開催した。

参加者：6 社 7 名

[市内] 企業 4 社 4 名

[市外] 企業 2 社 3 名

<MC-X 量産化プロジェクト>

平成 26 年度に試作品として開発した「超軽量車椅子 MC-X」を、平成 27 年度の量産化に向けた取り組みをプロジェクトとして立ち上げ、量産化に適した材料選定（AZ31→AZ61 プレス用）・加工方法（ホットプレス・溶接）・表面処理方法を検討し、量産用の技術及び試作支援を行った。

また、販路開拓支援として、橋本エンジニアリング(株)（浜松市浜北区）が出展した「国際福祉機器展」にて試乗会開催を支援したことにより、新聞・テレビなどの報道機関 6 社により取り上げられ、大きな反響を得ることができた。

課題である量産化については、第三者評価試験の結果を受け、量産化に向けた課題（技術・品質保証）の検討及び、販売促進（協業企業の協力体制の確認・販売後メンテナンス・営業圏内の確定・代理店契約等）について協業企業と課題解決に向け活動を継続している。

第 1 回 プロジェクト会議

開催日：平成 27 年 5 月 25 日（月）

会 場：橋本エンジニアリング(株)

第 2 回 プロジェクト会議

開催日：平成 27 年 7 月 15 日（水）

会 場：(株)榛葉鉄工所（掛川市）

第 3 回 プロジェクト会議

開催日：平成 27 年 8 月 18 日（火）

会 場：浜松地域イノベーション推進機構

第 4 回 プロジェクト会議

開催日：平成 27 年 9 月 28 日（月）

会 場：橋本エンジニアリング(株)

第 5 回プロジェクト会議

開催日：平成 28 年 3 月 3 日（木）

会 場：（公財）浜松地域イノベーション推進機構

<技術の水平展開 ～パワーアシストスーツ用部品への展開>

以前から技術照会を受けていた(株)アクティブリンク（奈良県奈良市）より、パワーアシストスーツ用フレームをマグネシウムで試作したいとの引き合いがあり、(株)榛葉鉄工所（掛川市）にて試作を行った。評価段階で生じた破損などに対し、高強度材や構造の設計変更にて対応し、平成 27 年 9 月 18 日に正式発注が決定した。部材の納入に問題があることから、平成 28 年 3 月までは少量生産で対応する。

第 3 四半期は、生産対応のための仕組み構築を支援し、材料の見直し、プレス成形性の確保、材料供給などについてフォローを実施した。なお、プレスについては、(株)榛葉鉄工所にて MC-X のプレス部品、パワーアシスト部品の生産が可能となるよう、(株)キャップ（静岡県森町）の金型温調システムに関する有償技術供与契約の締結をサポートし、平成 28 年 4 月より生産が可能となった。

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 26 年度 *1	平成 27 年度 *2	平成 27 年度
①総会・講演会の開催	3 回	3 回	2 回
②プロジェクト、部会、WG、分科会	6 回	5 回	3 回以上
③特許、意匠登録	0 件	— 件	3 件

			(H26~28)
④売上げ	13,625 千円	36,000 千円	30,000 千円 (H26~28)
⑤工場見学会開催	0 回 ※H27 に延期	1 回	2 回
⑥その他 (補助金獲得、新聞発表)	補助金申請 1 件	補助金 2 件 報道発表 2 件	3 件 (H26~28)

※1：平成 27 年 3 月末日時点、※2：平成 28 年 3 月末日時点

【総括】

平成 27 年度は、平成 26 年度に試作品を完成させた超軽量車椅子の試作プロジェクトを発展させ、量産製品開発のためのプロジェクトを立ち上げた。プロジェクトでは材質変更、ホットスタンピング、溶接条件、表面処理に関する品質管理条件などの量産化の条件を明確化すると共に、仕様検討・技術的改良により、車椅子 MC-X が販売可能レベルに至った。平成 28 年度は 100 台の販売を目指す。

また、パワーアシストスーツ用マグネシウム製フレームは、(株)アクティブリンク (奈良県奈良市) から、試作の引き合いがあるなど、平成 28 年 3 月までに 25 台、平成 28 年 4 月以降は、100 台/月の販売予定である。

一方、プロジェクトから出たの課題をフィードバックして一般化したセミナーなどを実施し、地域企業の技術力の向上に努めた。

・浜松地域ウルトラハイテン事業化研究会 (参加企業：15 社)

【目的】

次世代環境車をはじめとして将来輸送機器全般に必要とされる、軽量化・強度化・高性能化に対応するため、特にウルトラハイテン材に関する技術動向・技術情報の提供を行うと共に、浜松地域企業におけるウルトラハイテンの活用について調査研究及び技術の確立を支援する。

【実施内容】

要望の高い最新技術動向について専門的なセミナーを開催した。高い関心が寄せられ、専門性が高いセミナーにもかかわらず 68 名の参加を得た。また、成形部会の参加メンバーから、1.2GPa 超ハイテンの基礎試験や新たな部品での成形試験を行いたいとの強い要望があり、公的補助金の獲得を目指し、浜松市新産業創出事業費補助金への出願を支援し、採択に導くことができた。

<講演会>

①「ハイテン材の最新動向とそれを取り巻く型技術」

開催日：平成 27 年 4 月 20 日 (月)

会 場：オークラ アクトシティホテル浜松

内 容：講演 1「ウルトラハイテンの曲げ及びその解析」

浜松工業技術支援センター 材料科 上席研究員 長津 義之 氏

講演 2「YU モデルの開発経緯と今後の課題」

岡山大学 工学部 准教授 上森 武 氏

講演 3「自動車軽量化と衝突安全性を両立させる超ハイテンの開発動向」

新日鐵住金(株) (愛知県東海市)

技術開発本部 主幹研究員 東 昌史 氏

パネルディスカッション

テーマ「浜松地域企業の技術へ活かせ！ウルトラハイテンの可能性」

モデレーター：静岡大学 工学部 教授 早川 邦夫 氏

参加者：27社 54名

[市内] 企業 10社 22名、行政・産業支援機関 4機関 12名

[市外] 企業 17社 32名、行政・産業支援機関 2機関 2名

②「第2回技術セミナー 超ハイテンのプレス成形における難題解決法を探る」

開催日：平成27年11月27日（金）

会場：ホテルクラウンパレス浜松

内容：講演1「超ハイテン材のプレス成形における課題と対策」

JFE スチール(株) (広島県福山市) 鉄鋼研究所

薄板加工技術部 主任研究員(部長) 山崎雄司 氏

講演2「超ハイテンの溶接における問題とその対策」

新日鐵住金(株) (千葉県富津市) 技術開発本部

鉄鋼研究所接合技術部 上席主幹研究員 宮崎康信 氏

講演3「ハイテン用プレス金型の課題と長寿命化対策～素材と表面処理～」

大同特殊鋼(株) (東京都港区) 工具鋼部 工具鋼ソリューション部

副主任部員 増田哲也 氏

パネルディスカッション

テーマ「超ハイテンの難題解決法を探る」

モデレーター：静岡大学 工学部 教授 早川 邦夫 氏

参加者：24社 62名 ※募集人員 70名

[市内] 企業 8社 35名

[市外] 企業 16社 27名

<成形部会>

新日鐵住金(株) (愛知県東海市) を訪問し、成形部会共通でトライできるアイテムの模索などを行った結果、同社の車載用トラックの道板を選択して取り組むこととなった。また、ユーアイ精機(株) (愛知県尾張旭市) とも連携し、1.2GPaのCAE成形トライを行った。

同社と詳細を打ち合わせ、6種類(270、440、590、780、980、1,180MPa)の鋼板にてバッテリーケースの成形トライを実施した。この結果は、浜松工業技術センターがまとめ、部会で報告した。

第1回 成形部会

開催日：平成27年8月3日（月）

会場：浜松地域イノベーション推進機構

第2回成形部会

開催日：平成28年3月25日（金）

会場：浜松地域イノベーション推進機構

<株)浜名ワークス(浜松市浜北区)向け道板プロジェクト>

株)キャムテック(浜松市北区)が浜松市新産業創出事業費補助金を獲得したことにより、4社にてプロジェクトを発足した。現物確認、3D図面入手、要求機能、軽量化案などを検討し、本格的に活動を開始した。

目標として「従来製品に比べて3割の軽量化や運搬車両が通過する際の道板の歪60mm以下」を設定し、構造設計シミュレーションと構造設計、型製作に着手した。

角管の製作は電縫管の入手が困難なため、高技工業㈱（愛知県豊橋市）のブレーキプレスにてコの字型に成形してレーザー溶接で製作することとし、溶接の予備試験を行い目処がついた。残る課題は希望するサイズの1.2GPaハイテン板材の入手であり、従来から協力いただいている新日鐵住金㈱（愛知県東海市）と折衝を開始した。

道板用及び基礎試験に用いるハイテン素材の供給を、新日鐵住金㈱と交渉し、980、1,180MPaを入手することになった。しかし生産の都合から、入手が平成28年3月初旬にずれ込み、道板の試作に支障があった。新産業創出事業費補助金の報告会においては、当初の設計とは違う形になったが、試作品を発表するができた。

参加企業：㈱キャムテック（浜松市北区）、協和工業㈱（静岡県湖西市）、
 ㈱サンヨーエンジニアリング（浜松市西区）、有見野金型製作所（浜松市中区）

プロジェクト会議：

- 第1回 開催日：平成27年8月3日（月）
会 場：㈱浜名ワークス（浜松市浜北区）
- 第2回 開催日：平成27年8月26日（水）
会 場：㈱浜名ワークス（浜松市浜北区）
- 第3回 開催日：平成27年9月16日（水）
会 場：（公財）浜松地域イノベーション推進機構
- 第4回 開催日：平成27年10月8日（月）
会 場：サンヨーエンジニアリング㈱（浜松市西区）
- 第5回 開催日：平成27年10月13日（火）
会 場：高技工業㈱（愛知県豊橋市）
- 第6回 開催日：平成27年11月2日（月）
会 場：（公財）浜松地域イノベーション推進機構

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成26年度※1	平成27年度※2	平成27年度
①総会・講演会の開催	3回	2回	2回
②プロジェクト、部会、WG、分科会	12回	6回	1回以上
③特許、意匠登録	0件	－件	3件 (H26～28)
④売上げ	0千円	－千円	30,000千円 (H26～28)
⑤工場見学会開催	2回	1回	2回/年
⑥その他（補助金獲得、新聞発表）	2件	1件	3件 (H26～28)

※1：平成27年3月末日時点、※2：平成28年3月末日時点

【総括】

平成27年度は、平成26年度と同様に最新技術動向の提供と成形部会における1.2GPaのCAE解析と成形トライを行うと共に、新しい製品開発に繋げるための成形部会の活動を実施した。

㈱キャムテック（浜松市北区）が1.2GPaの超ハイテンを用いて、㈱浜名ワークス（浜松市浜北区）向け道板を30%軽量化する事業において、浜松市新産業創出事業費

補助金を獲得した。これを機に、1.2GPa の成形性を具体的な試作品で確認することとし、成形部会ではバッテリーケースでのトライ結果の測定及び分析を行った。

成形部会の活動から道板プロジェクトの活動に大きくシフトし、道板に関する構造、材料、加工方法を具体的に検討すると共に、試作に向けての支援を行った。また、平行して 1.2GPa の超ハイテンを含むハイテンの成形性を CAE で正確に予測できるための基礎試験法を検討し、静岡大学早川教授による指導のもと、浜松工業技術支援センターを中心に試験データを採取し、活用可能なデータにまとめることができた。

材料入手と試作を完了したが、今後評価基準をクリアすべく再試作を行う必要がある。

平成 28 年度は、浜松工業技術支援センターが事務局となり、ウルトラハイテン事業化研究会が自立化し、課題解決に向け引き続き活動していく。

・【新規】ファインセラミックス事業化検討会

【目的】

軽量化に適した構造材としてファインセラミックスがある。ファインセラミックスに関する最新の情報提供を行い、様々な面からの検討を行うことで当地域の企業における事業化を推進する。平成 27 年度は、参加企業を募集し勉強会を通じた事業化の検討を進めていく。

【実施内容】

ファインセラミックスの事業化に向け、ファインセラミックス関連の製造企業 7 社を訪問し、各企業の業務内容や事業化研究会に対する期待等をヒアリング調査した。

静岡大学の鈴木久男教授と脇谷尚樹教授、浜松工業技術支援センターの杉山治センター長の協力を得て、勉強会を立ち上げ、平成 27 年度は勉強会を 3 回開催した。

①勉強会立ち上げ会

開催日：平成 27 年 7 月 27 日（月）

会 場：静岡大学創造科学技術大学院棟

内 容：勉強会の設立

参加者：5 社 6 名

[市内] 企業 1 社 1 名、行政・産業支援機関 1 機関 3 名

[市外] 企業 4 社 5 名

②第 1 回勉強会

開催日：平成 27 年 9 月 25 日（金）

会 場：呉竹荘

内 容：講演 1 「セラミックスの成形・焼結プロセスの基礎と最近の動向」

国立研究開発法人産業技術総合研究所（名古屋市）中部センター

構造材料研究部門総括研究主幹 平尾 喜代司 氏

講演 2 「液相からのセラミックス粉体の合成とその特徴」

静岡大学電子工学研究所教授 鈴木 久男 氏

企業紹介 1

新東 V セラックス(株)（愛知県豊川市）代表取締役社長 高山 敬 氏

企業紹介 2

明電セラミックス(株)（沼津市） 代表取締役社長 飯田 憲 氏

参加者：10 社 14 名 ※募集人員 50 名

[市内] 企業 5 社 6 名、行政・産業支援機関 2 機関 3 名

[市外] 企業 5 社 8 名

③第2回勉強会

開催日：平成27年12月9日（水）

会場：呉竹荘

内容：講演1「航空機エンジン用耐熱部材の耐環境／遮熱コーティング」
 一般財団法人 ファインセラミックスセンター（JFCC）（名古屋市）
 所長補佐 兼 高信頼性材料グループ長 主席研究員 北岡 諭 氏
 講演2「気相法によるセラミックス薄膜の作成について」
 静岡大学 電子工学研究所 教授 脇谷 尚樹 氏
 企業紹介①
 浜松ヒートテック㈱（浜松市東区）代表取締役 綿貫 正敏 氏
 企業紹介②

日本軽金属㈱（静岡市）化成品事業部 開発部長 小塚 毅 氏

参加者：11社12名 ※募集人員50名

[市内] 企業 6社7名、行政・産業支援機関 1機関1名

[市外] 企業 5社5名、行政・産業支援機関 1機関1名

④第3回勉強会

開催日：平成28年2月19日（金）

会場：JFCC（ファインセラミックスセンター）

内容：講演1「JFCCの活動について」

JFCC 研究企画部 業務グループ長 菊地 直哉 氏

講演2「部材の熱特性評価技術について」

JFCC 材料技術研究所 材料評価・試作グループ

上級技師 小川 光恵 氏

講演3「電子顕微鏡を用いた微構造観察について」

JFCC ナノ構造研究所 微構造・界面解析グループ

上級技師補 横江 大作 氏

研究設備見学、名刺交換

参加者：5社6名 ※募集人員20名

[市外] 企業 5社6名

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成26年度※1	平成27年度※2	平成27年度
①勉強会の立ち上げ	—	1回	立ち上げ
②参加企業数	—	13社	5社以上

※1：平成27年3月末日時点、※2：平成28年3月末日時点

【総括】

平成27年度はファインセラミックス関連の製造企業7社を訪問し、各企業の業務内容や事業化研究会に対する期待等をヒアリング調査した上で、事業化研究会の前進となる勉強会を立ち上げた。その後、3回の勉強会を開催し、成形・焼結プロセス等の基礎知識の習得と最近の動向を情報共有したが、事業化研究会へのステップアップへは至らなかった。

それらの活動により、浜松地域にとってファインセラミック事業化研究会の設立は時期尚早と判断したため、本事業化検討会は平成27年度をもって終了する。

(2) 【新規】 【金属機能材】 新素材・新成形技術事業化研究会

【目的】

金属機能材には、金属ガラス、アモルファス合金、ナノ結晶合金、高機能磁性合金等があり、応用分野として環境エネルギー、エレクトロニクス、生体・医療等で注目され、研究が進められている。この最新の動向について情報提供を行い、浜松地域での事業化の可能性を探る。

【実施内容】

①講演会「世の中を変える材料 ～金属機能材・複合材～今後の輸送機器には欠かせない」

開催日：平成 27 年 11 月 25 日（水）

会 場：呉竹荘

内 容：講演 1「機能材料としての金属材料の可能性 ―形状記憶合金、熱電材料を中心に―

物質・材料研究機構（茨城県つくば市）

元素戦略材料センター長 土谷 浩一 氏

講演 2「成長市場に向けた樹脂・焼結金属・磁性材料の複合化技術と商品紹介」

NTN(株)（磐田市）新商品戦略本部 商品化戦略部

部長 沖 芳郎 氏

講演 3「航空機材料に関する話題―複合材の適用状況と課題―」

三菱重工業(株)（愛知県名古屋市） 執行役員

名古屋航空宇宙システム製作所長 巽 重文 氏

参加者：22 社 32 名 ※募集定員 50 名

[市内] 企業 17 社 20 名、行政・産業支援機関 1 機関 1 名

[市外] 企業 5 社 12 名

②講演会「浜松地域の企業紹介『お互いを知りたい会』」

開催日：平成 28 年 2 月 23 日（火）

会 場：ホテルクラウンパレス浜松

内 容：[企業紹介①] (株)アドビック（磐田市） 代表取締役 池谷 之孝 氏

[企業紹介②](株)ウッドベル(浜松市東区) 代表取締役 鈴木 稔晃 氏

[企業紹介③] オーム電機(株)(浜松市北区) 開発部部長 宮田 景介 氏

[企業紹介④] 信友工業(株)（浜松市東区）

代表取締役会長 山内 正男 氏

[企業紹介⑤] (株)ソミック石川（浜松市南区）

研究開発部室長 佐藤 靖博 氏

[企業紹介⑥] (株)テクノモーターエンジニアリング（磐田市）

代表取締役 臼井 秀和 氏

[企業紹介⑦] 橋本螺子(株)（浜松市東区）

代表取締役社長 橋本 秀比呂 氏

[企業紹介⑧] 羽立化工(株)（湖西市） 常務取締役 高橋 勇 氏

[企業紹介⑨] (株)ブローチ研削工業所（浜松市東区）

専務取締役 小粥 隆太郎 氏

[企業紹介⑩] ㈱ミダック (浜松市東区)

代表取締役社長 矢板橋 一志 氏

[企業紹介⑪] ㈱モアソソジャパン (浜松市中区)

代表取締役社長 森川 恭徳 氏

[名刺交換会]

参加者数：50社 57名 ※募集定員 100名

[市内] 企業 32社 37名、行政・産業支援機関 2機関 3名

[市外] 企業 13社 13名、行政・産業支援機関 3機関 4名

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 26 年度 ※1	平成 27 年度 ※2	平成 27 年度
①講演会開催	—	1 回	1 回以上
②参加企業満足度	—	82 %	80%以上

※1：平成 27 年 3 月末日時点、※2：平成 28 年 3 月末日時点

【総括】

平成 27 年度は地域企業を対象に講演会を開催し、機能材料としての金属材料の可能性や成長市場に向けた樹脂・焼結金属・磁性材料の複合化技術について情報提供を行うと共に、地域企業のマッチング会を開催するなど事業化の可能性を探る事業展開ができ、概ね今年度の目的は達成したと考える。

また、講演会については、受講者アンケートにて好評価を得ており、新材料の応用に関する講演を望む声が多かったため、平成 28 年度は新素材・新技術講座にて講座として継続させていく。

(3) 浜松地域パワーエレクトロニクス事業化研究会 (会員企業：42社)

決算額 2,028,390 円 (予算額 3,000 千円) <浜松市>

【目的】

サービスロボットやパーソナルモビリティなどの分野においてパワエレの役割は益々重要になっている。本研究会では、これまで技術の普及及び人材育成活動を行い、地域企業のニーズに答えてきた。平成 27 年度は、参加企業主体で「ものづくり」を通じた基幹技術の開発プロジェクトを推進し、かつ事業の立ち上げを図る。

【実施内容】

①講演会・総会

ア 総会、公開講演会

開催日：平成 27 年 8 月 6 日 (木)

会 場：呉竹荘

内 容：<総会>

平成 26 年度研究会事業報告と平成 27 年度活動方針報告

静岡理科大学 (袋井市) 教授 高橋久氏他

会員向け技術セミナー「パワーアシスト制御について」

静岡理科大学教授 高橋久氏

<公開講演会>

講演 1 「モビリティシェアから見るサービスとしての事業創出」

(株)ドコモ・バイクシェア (東京都墨田区)

代表取締役社長 坪谷 寿一氏

講演 2「人とロボットの心豊かな共生を目指す大和ハウスのロボット事業と実用化が進むロボット介護機器」
大和ハウス工業(株) (東京都千代田区)
営業本部ヒューマン・ケア事業推進部
ロボット事業推進室課長 山本 泰弘 氏

参加者：＜総会＞10社10名
[市内] 企業 6社6名
[市外] 企業 4社4名、行政・産業支援機関 2機関2名
＜公開講演会＞52社82名 ※募集人員100名
[市内] 企業 30社49名
[市外] 企業 22社33名、行政・産業支援機関 1機関1名

イ ユニバーサルデザイン+ in はままつ 2015

開催日：平成27年8月21日（金）～22日（土）

内 容：＜シンポジウム＞平成27年8月21日（金）

会場：浜松市地域情報センター

「外出を楽しむ、移動とコミュニケーションのUD支援」

WHILL (株) (神奈川県横浜市) CEO 杉江理氏他

来場者数：110名(※主催者公式発表値)

＜展示体験会＞平成27年8月22日（土）

会場：浜松市ギャラリーモール「ソラモ」

来場者数：約4,800名

主 催：UDプラス in はままつ 2015 実行委員会、静岡県、浜松市、公立大学法人静岡文化芸術大学

共 催：公益財団法人浜松地域イノベーション推進機構

②分科会・プロジェクト

ア パワーアシスト型台車プロジェクト

平成26年度は会員企業が浜松市新産業創出事業費補助金を活用し、パワーアシスト型台車の試作品を完成した。

平成27年度上半期は、試作した台車のデータ解析を進め、評価実験項目と完成度を高めるための課題抽出を行った。その中で、より滑らかな動きを実現するための制御アルゴリズムの最適化(MATLAB/Simulinkの活用)、より重い重量物に対応するためのモータ性能の向上、最適なタイヤの選定、シャーシ構造の設計変更など、多くの課題を抽出することができた。

イ 介護ロボット事業化プロジェクト

事業化プロジェクト(テーマ)を見出すべく定期的に勉強会や意見交換会を開催した。

＜勉強会＞

開催日：平成27年9月30日（水）

会 場：橋本螺子(株)メディカル事業部（南区）

内 容：「大和ハウス工業(株)のロボット事業について～実用化が進むロボット介護機器～」

大和ハウス工業(株) (東京都千代田区)

ロボット事業推進 山本泰弘氏

参加者：12社13名

[市内] 企業 11社12名

[市外] 企業 1社1名

ウ 未来モビリティ分科会

平成27年度は、パーソナルモビリティ市場の調査を依頼した(株)グラディエ（東京都世田谷区）と静岡文化芸術大学の谷川憲司教授らを中心に分科会として活動すべく準備会を開催した。そこでは、超高齢化社会において高齢者の健康寿命延伸やQOL維持は重要な課題となっており、高齢者の免許返納後における自由な移動を確保する手段の一つとして、低速のパーソナルモビリティの市場が広がる可能性があることが分かった。

また、企業ニーズの把握と事業化への課題調査のため、地域企業との座談会（意見交換会）や(株)本田技術研究所（埼玉県和光市）の矢口忠博氏を講師として招いて勉強会を開催した。

<座談会>

開催日：平成27年12月21日（月）

会場：（公財）浜松地域イノベーション推進機構 セミナー室

内容：「未来モビリティ分科会について～浜松地域で考えるパーソナルモビリティ～」

静岡文化芸術大学（浜松市中区）教授 谷川憲司氏

参加者：9社9名

[市内] 企業 7社7名

[市外] 企業 2社2名

<勉強会>

開催日：平成28年3月7日（月）

会場：グランドホテル浜松

内容：「パーソナルモビリティの可能性と課題～熊本における実証実験、Honda WANDER WALKERの解発 ～その先に目指すもの～」

(株)本田技術研究所（埼玉県和光市） 矢口忠博氏

静岡文化芸術大学 教授 谷川憲司氏

参加者：48社69名（募集定員50名）

[市内] 企業 32社49名 行政・産業支援機関 2機関2名

[市外] 企業 16社20名 行政・産業支援機関 3機関6名

エ 制御ソフトウェア分科会

平成26年度、開催されなかった“リアルタイムOSの基礎”の講習会を復活した。年々、ソフトウェアの規模は拡大の一途であり、開発効率を向上するにはOSの導入は避けられない状況である。このようなことから、“モータ制御の基礎”及び“リアルタイムOSの基礎”の講習会を開催したところ、共に募集定員を超える応募があった。

<制御ソフトウェア技術講習会>

開催日：平成28年3月10日（木）、11日（金）

会場：ポリテクカレッジ浜松

内容：「モータ制御の基礎、講義と実習」

静岡理工科大学（袋井市）教授 高橋久氏

静岡理科大学（袋井市）講師 山本建司氏
ルネサスエレクトロニクス㈱（東京江東区）佐藤正幸氏
参加者：12社15名（募集定員15名）
〔市内〕企業6社7名 〔市外〕企業6社8名

<制御ソフトウェア技術講習会>

開催日：平成28年3月24日（木）、25日（金）

会場：ポリテクカレッジ浜松

内容：「リアルタイムOSの基礎、講義と実習」

ルネサスエレクトロニクス㈱（東京江東区）平井雅子氏

静岡理科大学（袋井市）教授 高橋久氏

静岡理科大学（袋井市）講師 山本建司氏

参加者：13社15名（募集定員15名）

〔市内〕企業7社8名 〔市外〕企業6社7名

オ 新規プロジェクト

モビリティ関連、サービスロボット関連で、平成28年度以降に補助金の獲得を目指している企業の支援を開始した。

<マルチマテリアルモビリティ・プロジェクト>

容易に折り畳みが可能で、超軽量、福祉機器のイメージを払拭した斬新なデザインによるパーソナルモビリティについて、新しい市場開拓を目指すプロジェクトを計画し、2020年までの開発スケジュールを策定した。プロジェクトメンバーは、協同組社HAMINGの4社であり、これに参画を希望する電子関連企業の探索も行った。更に、HAMINGを中心にビジネスモデルや詳細仕様の検討も行ったが、短期開発への対応や人的及び資金的リソースの不足など、解決すべき課題が多く本年度のプロジェクト化を断念した。

<クローラロボット・プロジェクト>

管内や狭路の走行には、回転方向が一方向である従来のキャタピラー（クローラ）より、二方向の回転が可能なクローラの方が適している。このクローラロボットは、単体で前後左右の動作が可能であり、狭小な配管内の検査への活用などが考えられる。静岡理科大学と㈱ユニバンス（湖西市）、ASTI㈱（浜松市南区）をプロジェクトメンバーとして立ち上げを検討するも、人的リソースの問題等で本年度の立ち上げを断念した。

③新製品・新技術調査

ア 平成27年度上半期は、介護ロボットプロジェクト参加企業や協同組合HAMING他5社にヒアリングを行った。その結果、販売会社などユーザーに近い企業との連携を望む声が多くあった。この結果を踏まえ、㈱ドコモ・バイクシェア（東京都墨田区）や大和ハウス工業㈱ロボット推進室（東京都千代田区）に、情報提供及び連携を依頼し了解を得た。この一環で両社には“新しいビジネスモデルで市場を切り拓く”といった内容で講演をしていただいた（平成27年8月6日実施）。

イ 浜松商工会議所が主催するSAT研（新産業創出会議宇宙航空技術利活用研究会）や講演会、展示会への参加を通して、小型航空機の市場動向や技術動向に

ついて情報収集した。

④役員会

ア 第1回幹事会

開催日：平成27年9月10日（木）

会 場：静岡理科大学

内 容：平成27年度下半期に向けて以下の活動内容を確認した。

- ・パワーアシスト型台車プロジェクトは、アシスト技術や MATLAB / Simulink の習得、製造ライン向け台車として完成を目指すこと
- ・介護ロボットプロジェクトは、当面、勉強会を中心に活動すること
- ・未来モビリティ分科会は、けんきゃくん（㈱協栄製作所：浜松市南区）、電動三輪バイク（㈱日本ロック：浜松市浜北区）など、未来モビリティを手がける企業を中心に調査を開始すること

出席者：静岡理科大学、㈱モアソンジャパン（浜松市中区）、㈱ユニバンス（湖西市）、オーム電機㈱（浜松市北区）、㈱アドビック（磐田市）

イ 第2回幹事会

開催日：平成28年3月1日（火）

会 場：静岡理科大学

内 容：来年度のワエレ研究会の活動方針について

出席者：静岡理科大学、㈱ユニバンス（湖西市）、オーム電機㈱（浜松市北区）、㈱アドビック（磐田市）

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成26年度※1	平成27年度※2	平成27年度
①アシスト型台車 （プロトタイプを試作・評価）	補助金獲得 プロトタイプ 試作完了。	制御アルゴリズムの最適化、 モータ性能向上などの課題 抽出。	評価完了、課題抽出、製品 化計画立案。
②会員企業満足度	—	90%	90%以上
③新規プロジェクト立ち上げ	—	0 件	1 件

※1：平成27年3月末日時点、※2：平成28年3月末日時点

【総括】

平成27年度は、平成26年度と同様に、技術講習会、基礎技術講座ともに地域企業からのニーズが多いモーター分野に焦点を当て、新製品開発を見据えた研究会活動を推進した。そして、地域企業に対してワエレに関するヒアリング調査を実施し、新市場・新製品に対する現状を把握するとともに、新規プロジェクトの計画を立て、未来モビリティ分科会にて地域企業との座談会や専門家を招いた勉強会などを開催した。また、浜松地域におけるパーソナルモビリティ事業の可能性を模索しながら新規プロジェクトの立ち上げを1件計画したが、中期的な事業戦略が不透明であり、新市場創出の可能性が低いことからプロジェクトの立ち上げには至らなかった。

平成28年度は、更に幅広い分野の調査を行い、その中から浜松地域に適したサービスロボットやパーソナルモビリティを模索しながらパワーエレクトロニクス事業

化研究会の自立化を目指していく。

1 1 新産業創成事業

決算額 4,322,530 円（予算額 5,000 千円）＜浜松市＞

(1) 事業化可能性調査費補助金

【目的】

浜松市において戦略的に支援すべき産業分野として位置付けている成長 6 分野 ※1 において、浜松市内の中小企業者が新たな技術や製品を事業化するために実施する事業化可能性調査（原理実証試験、技術調査、市場調査、類似製品・特許調査等）に対して、補助金を交付する。これにより、中小企業者の独創的な新技術開発や新製品開発を促進する。

※1…次世代輸送用機器、健康・医療、新農業、光・電子、環境・エネルギー、デジタルネットワーク・コンテンツ

【実施内容】

①事業化可能性調査補助金

公募期間：平成 27 年 6 月 8 日（月）～7 月 10 日（金）

概要：補助率 1/2、上限 50 万円、補助対象経費（材料費・外注費・調査委託料・専門家への相談費など）

申請件数：8 件

採択件数：6 社

事業期間：平成 27 年 8 月 24 日（月）～平成 28 年 2 月 29 日（月）

交付確定額：2,770,117 円

No	企業名	研究開発事業	確定額
1	アカテリアル(株) (浜松市中区)	「スマートグリッドシステム開発の事業化調査」 [内容] スマートグリッドの制御システムを開発するにあたっての可能性調査と課題についての評価実験。米国動向、実証実験例の調査及び電力供給のダイナミック制御に関する調査に基づき、スマートメータ部のテストプログラムとコントロール部のテストプログラムの作成、事前評価を行った。 [成果と今後] 調査の結果を基に、国内の産業構造への適用、日本の生活様式に合った方式への展開が可能であることが分かった。今後は、リソースの種類とその特質についての調査とダイナミック制御に関する考察に基づいたシミュレーションを行い、事業化時には建物ごと、エリアごとのエネルギー	500,000

		一利用の最適化とエネルギー供給のマネージメントを行うようにしていく。	
2	(株)アモーガイメージング (浜松市中区)	<p>「測量用光スキャナーの測定ノイズ除去に関する新技術の原理検証と事業化可能性の調査」</p> <p>[内容] 測量用の光スキャナーとして、写真測量データと測量用光スキャナーによるデータをハイブリッドに組み合わせて、三次元点群を自動的に評定しノイズを除去するシステムについての、適用確認のための試作と原理検証実施。</p> <p>[成果と今後] 試作において、ペンタプリズムを取り入れることで、光軸ずれに対してキャリブレーションが不要な簡易光スキャナーが完成できた。展示会にも出展し、試作したドローン向けの光スキャナーの市場性、将来性があることが確認できた。</p> <p>今後は、事業化に向けて、ものづくり補助金を活用しながら、研究開発を進めていく。また、この試作技術に関して、特許出願を行う方向で検討する。</p>	500,000
3	(株)サインクリエイト (浜松市南区)	<p>「スーパー防犯・防災灯の新機能を搭載した新型機の試作開発」</p> <p>[内容] スーパー防犯灯として必要な最新の通信技術や監視カメラ装置、映像録画機器、蓄電池、太陽光パネル、LEDなどを調査・検証し、市場競争力のある最新の機能仕様(耐久性、信頼性、精度の改良)を検討し、最新技術を取り込み、広く市販できる品質と性能に仕上げる。</p> <p>[成果と今後] 常時接続でき安定した動作(24時間連続運転)、試作機の品質性能評価を行って、常時商用電源として24時間の監視体制に対応(停電時はバッテリー駆動)、5日～7日間の録画機能、連続7日間</p>	500,000

		<p>の安定した通信等の可能なレベルの内容に仕上がった。</p> <p>今後、製品化に向けた完成製品にするための仕様・設計・性能評価・品質評価・動作確認を経て新型機の製造、販売、設置、保守を行う。当面の販売先として、NPO法人静岡県CC緑化協会、静岡県警を予定している。</p>	
4	<p>(株)浜松ファーマリサーチ (浜松市北区)</p>	<p>「カニクイザルを用いた滲出型加齢黄斑変性モデルの立ち上げ」</p> <p>[内容]</p> <p>加齢黄斑変性は、日本でも急速な高齢化と生活の欧米化によって患者数は急増しており、その原因解明と予防・治療法の開発が急がれている。そのためには、臨床予測性の高い疾患モデル動物の開発が必要である。</p> <p>しかし、黄斑は高い解像度の視力を獲得した霊長類でのみ発達し、マウスやラットなどのげっ歯類には存在しない。そこで、カニクイザルを用いた滲出型の加齢黄斑変性モデルを立ち上げ、原因解明のための研究を実施する。</p> <p>[成果と今後]</p> <p>レーザー照射2週間後に VEGF 阻害剤を投与した結果、効果が確認された。今回の疾患モデルは臨床に極めて近い動物モデルであることが分かった。すでに国内大手製薬企業より受注を獲得し収益化に繋がっている。今後は、論文・学会発表、展示会出展を進め、国外製薬企業も含めて、受注拡大を目指していく。</p>	500,000
5	<p>(株)希望光学システム (浜松市中区)</p>	<p>「複数台カメラによる食品全周同時検査装置の開発」</p> <p>[内容]</p> <p>非常に高価であった食品検査専用装置を1台のPCと5台のUSBカメラに置き換えることによって導入しやすい低価格な食品検査システムを実現する。1台のPCで5台のカメラ同</p>	270,117

		<p>時制御、毎秒1個の検査が可能であるかどうかを検証する。</p> <p>[成果と今後]</p> <p>USB3.0カメラの動作速度なら1台のPCで5台のカメラを同時制御することは可能であった。食品の欠けや汚れ検査の場合、カラーカメラのRGB値から色距離を算出して、欠けや汚れの検出が出来ることが確認できた。1台のPCで5台のUSBカメラを制御しつつ全数検査を行うことが出来るシステムは食品だけでなく、他の工業製品の外観検査等でも応用可能であることが分かった。今後は明るさ設定の自動化、システム安定化の開発と展示会へ出展し販路拡大を進めていく。</p>	
6	<p>(株)分光応用技術研究所 (浜松市中区)</p>	<p>「近赤外分光イメージング装置の事業化可能性調査」</p> <p>[内容]</p> <p>近赤外分光イメージング機器群の市場に参入して、潜在顧客のニーズ、機器の効率・低コスト化を図るため、展示会へ出展し、最終製品仕様の試作品を完成させるための調査を行った。</p> <p>[成果と今後]</p> <p>調査結果を、最終製品の試料駆動型装置「近赤外分光イメージングユニット」の試作に結びつけることができた。また、最終製品形態について調査を行ったところ、「顕微鏡」への展開が有効であることが分かったので、顕微鏡ベースの試作を行った。今後は製品化を進めると共に、バイオ・再生医療関連にて、研究ベースで使える物を提供・事業化を行う予定である。</p>	500,000
	計		2,770,117

②補助金獲得入門セミナー・相談会の開催

開催日：平成27年6月23日(火)

会場：グランドホテル浜松

参加者：42社47名

[市内] 企業 40社45名、行政・産業支援機関 6機関19名

[市外] 企業 2社2名

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 26 年度 ※1	平成 27 年度 ※2	平成 27 年度
①提案採択件数	5 件	6 件	6 件

※1：平成 27 年 3 月末日時点、※2：平成 28 年 3 月末日時点

【総括】

平成 27 年度は、平成 26 年度の実施状況や海外ビジネス展開支援事業とのバランスを考慮し、補助額上限を 100 万円から 50 万円に変更した。また、これまで当財団と関わりがなかった企業に対しても補助金情報を広く周知するため、ダイレクトメールや補助金獲得セミナー等による情報発信に注力し、申請件数は前年度より増加した。

採択企業は、試作開発や市場調査により、事業化可否の目途をつけることができた。

平成 28 年度は、採択企業に対して事業化の促進を図るため、技術指導等のフォローアップや販路開拓、専門家や助成金制度等の紹介を含めて支援を行っていく。

(2) 新産業調査**【目的】**

浜松市が戦略的に支援する産業分野として位置づけている成長 6 分野（次世代輸送用機器、健康・医療、新農業、光・電子、環境・エネルギー、デジタルネットワーク・コンテンツ）に関する情報提供や意見交換を通じて、新事業分野の発掘や展開可能性の検討を行うと共に、展開・参入につながる事業化研究会の設置の足がかりとする。

【実施内容】

新価値創出ワークショップとオープンデータ・オープンストリートマップの企画立案に取り組み、オープンストリートマップ全国大会に参画し、日本 Android の会浜松支部に協賛して最新技術のセミナーを開催した。

① 「SotM Japan 2015 in Hamamatsu」

開催日：平成 27 年 10 月 31 日(土)

会 場：アクトシティ浜松 研修交流センター 61・62 交流室

参加者：89 名 ※募集人員 100 名（主催者発表）

主 催：SotM Japan 実行委員会

共 催：（一社）オープンストリートマップ・ファウンデーション・ジャパン、
（公財）浜松地域イノベーション推進機構、オープンストリートマップ
東海

②Eddystone ハンズオンセミナー

開催日：平成 27 年 11 月 14 日（土）

会 場：（公財）浜松地域イノベーション推進機構 セミナー室

内 容：Eddystone の業界動向から基本応用説明及びハンズオン
（株）芳和システムデザイン（東京都品川区）
エンベデットシステム部長 鈴木 直康 氏

参加者：11 社 13 名 [市内] 企業 4 社 6 名 [市外] 企業 7 社 7 名

主 催：日本 Android の会 浜松支部

共 催：（公財）浜松地域イノベーション推進機構、浜松市、
（株）芳和システムデザイン

③「アクティブリンク(株) AW-03の挑戦」

開催日：平成 28 年 2 月 29 日（月）

会 場：ホテルクラウンパレス浜松

内 容：【第 1 部】講演会

ア「パワーアシストスーツ AWN-03 の開発と今後の展開」

アクティブリンク(株) 商材開発室 室長 小西 真 氏

イ AWN-03 に部品採用された浜松地域企業

「CFRTP 製ギヤ、ケースの商品化を実現した軽量高強度化技術」

(株)キャップ 代表取締役 高井 三男 氏

「マグネシウム溶接構造によるフレーム開発」

(株)榛葉鉄工所 代表取締役社長 榛葉 貴博 氏

【第 2 部】AWN-03 の実演と体験

【第 3 部】講師との意見交換、名刺交換

参加者：48 社 82 名(募集定員 100 名)

[市内] 企業 28 社 51 名、行政・産業支援機関 3 機関 3 名

[市外] 企業 20 社 31 名、行政・産業支援機関 3 機関 3 名

【総括】

平成 27 年度は、オープンストリートマップ全国大会と最新技術 Eddystone のセミナーを共催事業として開催し、新価値創出ワークショップ、オープンデータ・オープンストリートマップの企画立案など、新たなテーマでの事業創出に取り組んだ。特に Eddystone については 8 月に発表された最新技術ということもあり、強い興味を示す企業もあったが、現状浜松地域企業においてはビジネスモデルの構築が難しいことから、事業展開や事業化研究会発足までには至らなかった。しかし、首都圏以外では初めてのセミナー開催となったことから、受講者から高い満足度と同水準のセミナー開催への希望の声が寄せられた。平成 28 年度も引き続き、新産業創出に向けて最新情報を発信しつつ、地域企業の新事業分野への事業展開の可能性を探っていく。

1 2 地域イノベーション戦略推進事業（浜松・東三河ライフフォトニクスイノベーション）

決算額 124,121,281 円（予算額 154,074 千円）＜国・事業参加負担金＞

【目的】

「浜松・東三河ライフフォトニクスイノベーション」構想に基づいて、光・電子関連技術を基盤に「輸送機器用次世代技術産業」「健康医療産業」「光エネルギー産業」「新農業」の 4 つの産業の基幹産業化を推進する。

【実施内容】

文部科学省の採択を受けた「地域イノベーション戦略支援プログラム」を推進し、4 つの戦略分野（輸送機器用次世代技術、新農業、健康・医療、光エネルギー）の基幹産業化を図るため、事業ごとに主体企業を中心としたまとまり（ユニット）を形成し、事業化に向けて強力に支援した。

当プログラムの最たる目的は地域の技術・研究シーズの事業化を図り、新産業の創出を進めるものである。このため、プログラムの残り 2 年間で最大限の成果を挙げられるよう、既存の事業化ユニットについて、事業化の実現性や知的クラスター創成事業の技術シーズの活用、他用途への応用の可能性など、地域経済への波及効果等により優先順位付けを行い、地域連携コーディネーター（以下、「地域連携 CD」という。）

による人的支援と予算を重点的に投入した。

また、重点化に当たっては、プログラム後の持続的な事業化を見据え、当地域の強みである先端光技術の応用や招へい研究者の成果の活用を推進する。このほか、知的クラスター創成事業の成果など地域大学や企業の持つ優れた技術シーズを活用した製品化、事業化も積極的に推進した。

更に、世界市場への出口戦略を構築するため、「国際技術動向調査ユニット」により、地元技術の海外での評価や市場動向に関する調査を行った。

今後も、主体的に実施する以下の活動と密接に連動させ、地域において持続可能な活動が展開されることを目指していく。

(1) 異分野・他分野融合の場「知のプラットフォーム」

アリーナ事業として、地域の産学官金が結集し、事業化ユニットの課題及び解決策を議論し、事業化を推進した。

①イノベーションアリーナ運営会議等の開催

浜松・東三河ライフフォトニクスイノベーションの主要戦略である「大学等の知のネットワーク構築」を推進するため、イノベーションアリーナ運営会議を4回、支援チーム会議を4回、4大学連絡会議を3回開催し、アリーナ活動の全体管理・調整を行った。

②文部科学省フォローアップ委員との意見交換会

浜松・東三河ライフフォトニクスイノベーション事業を促進するため、文部科学省フォローアップ委員との意見交換会を開催し、事業推進に有用なアドバイスを得た。

ア 第1回

開催日：平成27年7月17日（金）

会 場：静岡大学浜松キャンパス内

出席者：文部科学省フォローアップ委員、文部科学省職員ほか関係者 33名

内 容：「大学等の知のネットワーク構築」の取組等を報告し、今後の取組の進め方について意見交換した。

イ 第2回

開催日：平成27年12月7日（月）

会 場：東京国際フォーラム

出席者：文部科学省フォローアップ委員、文部科学省職員ほか関係者 23名

内 容：「地域イノベーション戦略の中核を担う研究者の集積」「地域イノベーション戦略実現のための人材育成プログラムの開発及び実施」「地域の大学等研究機関での研究設備・機器等の共用化」の取組等を報告し、今後の取組の進め方について意見交換した。

ウ 第3回

開催日：平成28年2月9日（月）

会 場：オークラアクトシティホテル浜松

出席者：文部科学省フォローアップ委員、文部科学省職員ほか関係者 21名

内 容：「浜松・東三河ライフフォトニクスイノベーション」事業報告会に出席いただいた後、今後の取組の進め方について意見交換した。

③外部評価委員会

浜松・東三河ライフフォトニクスイノベーション事業を促進するため、外部評価

委員会を開催し、事業推進について意見や助言を得た。

開催日：平成 28 年 3 月 11 日（金）

会 場：オークラアクトシティホテル浜松

出席者：外部評価委委員ほか関係者 9 名

内 容：「大学等の知のネットワーク構築」を中心に報告し、今後の事業推進や中間評価における指摘事項への対応について意見交換した。

④事業化検討セミナー等の開催

地域企業を対象とするセミナーを第 1 四半期に 1 回、第 2 四半期に 4 回、第 3 四半期に 7 回、第 4 四半期に 4 回、計 16 回開催した。

No	開催日	テーマ	参加者
1	6 月 25 日（木）	医用電気機器の安全設計と EMC 設計（入門編）	32 名
2	7 月 24 日（金）	第 9 回電子回路設計者向け技術セミナー in 浜松 基礎から学ぶマイコン/ARM Cortex-M プロセッサファミリー	43 名
3	9 月 10 日（木）	第 10 回電子回路設計者向け技術セミナー in 浜松 IoT 時代に向けたセンサー活用術／センサー応用システムのアナログ回路設計技術	59 名
4	9 月 15 日（火）	薬機法セミナー入門編 薬機法の概要	48 名
5	9 月 25 日（金）	医療機器分野参入セミナー 医療機器開発の進め方・ノウハウについて	35 名
6	10 月 21 日（水）	医療機器分野参入セミナー 医療機器開発の進め方・ノウハウについて	12 名
7	11 月 18 日（水）	薬機法セミナー 実践編 製造業登録、製造販売業許可の取得と QMS 調査対応について	33 名
8	11 月 25 日（水）	医療福祉機器産業参入検討会 入門編セミナー 薬機法の概要（豊橋市内で開催）	7 名
9	12 月 1 日（火）	医療機器の生物学的評価セミナー	24 名
10	12 月 9 日（水）	医工連携知財セミナー 知財／特許とは ～医療用器具、医療用機器を中心として～	30 名
11	12 月 16 日（水）	医療機器分野参入セミナー 医療機器ソフトウェア入門 －IEC62304－	39 名
12	12 月 21 日（月）	医療福祉機器産業参入検討会 実践編セミナー 製造業登録、製造販売業許可の取得と QMS 調査対応について（豊橋市内で開催）	7 名
13	1 月 15 日（金）	医工連携知財セミナー 特許調査の方法 ～無料でできる特許調査～	34 名
14	2 月 18 日（木）	薬機法セミナー実践編 製造販売承認申請、認証申請、製造販売届出に	23 名

		ついて	
15	2月24日(木)	医療福祉機器産業参入検討会 実践編セミナー 2 製造販売承認申請、認証申請、製造販売届出について(豊橋市内で開催)	8名
16	3月11日(金)	第11回電子回路設計者向け技術セミナーin 浜松 低コストFPGAでここまでできる! &DC/ DC周辺部品の選択方法とPCBレイアウト (第1部)	45名
		第11回電子回路設計者向け技術セミナーin 浜松 低コストFPGAでここまでできる! &DC/ DC周辺部品の選択方法とPCBレイアウト (第2部)	48名
	合計		527名

⑤展示会への出展等

支援成果である製品や試作品の販路開拓を図るため、展示会等への出展支援等を第2四半期に2回、第3四半期に5回、第4四半期に3回行った。

No	開催日	名称	会場	備考
1	7月22日(水) ～24日(金)	第39回プラントメンテナンスショー	東京ビックサイト	支援先企業(トヨコー)の販路拡大支援ほか
2	9月26日(月) ～27日(火)	日本色彩学会第46回 全国大会2015	山形大学 米沢キャンパス	支援先企業(ノブオ電子)の販路拡大支援ほか
3	10月14日(水) ～16日(金)	農業ワールド2015	幕張メッセ	支援先企業(再生計画社)の販路拡大支援ほか
4	11月18日(水) ～20日(金)	InterBEE 国際放送機器展	幕張メッセ	支援先企業(ノブオ電子)の販路拡大支援ほか
5	11月30日(月) ～12月2日(水)	第5回世界工学会議 (WECC2015)技術展示会	京都国際展示場	支援先企業(ノブオ電子、パイフォトニクス)の販路拡大支援ほか
6	12月4日(金) ～5日(土)	New 湖西テクノフェア2015	湖西市アメニティプラザ	支援先企業(トヨコー、アステック開発)の販路拡大支援ほか
7	12月9日(水) ～11日(金)	IDW15 ディスプレイ 国際ワークショップ	大津プリンスホテル	支援先企業(ノブオ電子、パイフォトニクス)の販路拡大支援ほか
8	1月12日(火) ～1月15日(金)	第45回インターネブ コンジャパン	東京ビッグサイト	支援先企業(パパラボ)の販路拡大支援ほか
9	1月28日(木) ～1月29日(金)	新機能性材料展2016	東京ビッグサイト	支援先企業(パパラボ)の販路拡大支援ほか
10	3月10日(木)	LED NEXT STAGE	東京ビッグサ	支援先企業(パイフォト

	～3月11日 (金)	2016	イト	ニクス)の販路拡大支援 ほか
--	---------------	------	----	-------------------

(2) コーディネーター人材の充実

地域のコーディネーターの質の向上と人材育成の取り組みを充実させるため、特に研究成果の実用化・事業化を統括的にマネジメントできるプロデュース能力を持った人材を育成することを目的にCES (Coordinator Eco-System) 活動を推進した。

①平成27年度 CES 研修会 (コーディネーター育成のための講習会)

東海iNETとの共催等により、地域のコーディネーターを対象とする研修会を開催した。

No	開催日	テーマ
1	11月25日(水)	セミナー「自分を守る著作権の知識 ～対外発表と著作権～」
2	2月2日(火)	セミナー「大学における利益相反とマネジメント」
3	3月8日(火)	ワークショップ「地域の課題解決と変革のために今求められる活動とは？」
4	3月29日(火)	勉強会「プロデュース実践力を養う」VIPSを学ぶ

②コーディネーター名簿の更新と公開

平成27年度版として浜松地域44名、東三河地域14名、合計58名の名簿データの更新を完了し、4月28日に当機構HPにて公開した。

(3) グローバル展開の強化

4月にドイツからの訪問団を迎え、財団との情報交換、浜松ホトニクス中央研究所及び光創起イノベーション研究拠点の見学を実施した。訪問メンバーは、ベルリン・ブランデンブルグ地域の光・電子産業に関わる事業・技術支援組織であるベルリン・パートナー社、及び同地域における光産業とマイクロシステム技術のイノベーションクラスターであるオプテックBB社、フラウンホーファー協会(FHG)の2研究所(ベルリンのHHI、ドレスデンのIPMS)等の7名。

また、ジェットロによる地域間交流支援(RIT)事前調査事業の採択を受け、平成27年3月末に浜松地域の光関連企業6社、浜松市、ジェットロ浜松及び当財団による研究会を立ち上げ、上期には打ち合わせを3回実施した。その中で、光技術の情報交換と応用製品の市場調査をドイツで行うことを決定し、9月に調査内容の仕様書をジェットロに提出した。

11月には、浜松地域の企業、光産業創成大学院大学及びジェットロ浜松のメンバーと共にドイツへの光技術の情報交換と応用製品の市場調査のための視察を実施した。

この他、浜松市の協力を得て、海外展示会(MD&M WEST、Photonics WEST)において浜松・東三河ライフフォトニクスイノベーションのPRを行った。

(4) 長期的教育システムの研究

本地域出身者が、将来の地域産業を支え、また、世界を舞台に研究開発分野で活躍できるように卓越した人材を育成する、長期的かつ先進的な教育システムの導入について検討している。

①長期的教育システム研究チームの開催

産学官の関係者からなる「長期的教育システム研究チーム（座長：静岡大学理事（研究・社会産学連携担当）／副学長・イノベーション社会連携推進機構長 木村雅和氏）」において3月末日までに9回の会議を開催し、具体的な教育システムのあり方や実現方策について検討した。

②「MATH やらまいか」の開催

小学生が算数の競技を通して、よく見る力・よく聞く力・よく考える力（着眼・推理・分析・思考力）を養うことができる大会として、インターネットによる算数ゲーム「MATH やらまいか」を開催した。

【予選】

期 間：平成27年10月1日（木）～10月31日（土）

参加方法：インターネットによるWeb参加（参加費無料）

対 象：浜松市内の小学校に通う小学生

参加者：956名

【本選（決勝）】

開催日：平成27年12月5日（土）

会 場：浜松科学館ホール（浜松市中区北寺島町）

対 象：予選ランキングのうち、当日参加可能な小学生30名（ただし、浜松市外の小学生については、予選ランキング30位以内、かつ、最大10名までを対象。）

参加者：123名

③教育シンポジウムの開催

長期的教育システム研究チームの活動を地域の方々に理解していただくため、「教育シンポジウム」を開催した。

開催日：平成28年2月6日（土）

会 場：静岡大学 浜松キャンパス S-Port（浜松市中区城北三丁目）

出席者：浜松市内小中学生の保護者、浜松市内小中学校教職員・教育関係者

内 容：①トップガン賞授与式、②トップガン賞受賞者発表会、
③基調講演「才能を伸ばす」（講師：清宮克幸氏 ヤマハ発動機 ジュビ
ロラグビー部監督）、④パネルディスカッション

参加者：191名

④ダヴィンチキッズプロジェクト（サイエンスダヴィンチ）

理系に優れた素養を持つ小・中学生（小学生7人、中学生4人）を対象に、さまざまな実験や工作等を体験しながら未来の理数系人材の育成を目指し、基本概念習得（講座6回）及び発表会（3回）を実施した。

⑤ダヴィンチキッズプロジェクト（ものづくりダヴィンチ）

静岡大学工学部内において、親子で一緒に手を動かして本格的な工作を行いながら、回路や電気についてなど、ものづくりの基礎を学ぶ講座（11回）を開催した。講座は材料加工から組み立てまで自力で作るプロセスの実体験を重視し、企業での実務経験者の指導のもと、後々まで使うことのできるものづくりを目指した。

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 26 年度 ※1	平成 27 年度 ※2	平成 27 年度
①特許等出願数	121 件	228 件	172 件
②査読論文数	1,265 件	1,625 件	1,397 件
③参画企業数	116 社	272 社	50 社
④新規雇用者数	5 名	282 名	45 名
⑤事業化数	57 件	150 件	50 件

※1：平成 27 年 3 月末日時点、※2：平成 28 年 3 月末日時点の暫定数値

【総括】

平成 24 年 6 月に文部科学省に採択された地域イノベーション戦略支援プログラム「浜松・東三河ライフフォトニクスイノベーション・支援プログラム（補助事業）」の 4 年目を迎え、平成 27 年度はイノベーションアリーナ活動の充実や地域の各機関・大学に配置されている既存のコーディネーターによる組織（コーディネーターエコシステム）との積極的な連携による体制強化を更に進め、4 つの戦略推進計画に基づき、関係機関との情報共有を図りながら、企業を巻き込んだ事業検討グループ（ユニット）の形成に向けた取組の強化を図った。

事業化ユニットは、輸送機器用次世代技術、新農業、健康・医療、光エネルギーの 4 戦略分野において、事業化の可能性の高い案件を中心に、これまでに 41 件を構築している。また、事業化ユニットは、その目標、開発ステージ、規模によって国、県、市の研究開発補助金を活用しており、平成 27 年度末までに、28 件応募し、18 件採択された。このほか、事業化を推進するため、平成 27 年度末現在で、企業との秘密保持契約を 28 件締結している。

知的クラスター創成事業の研究成果の応用については、競争的資金の獲得を支援しながら、試作品開発や応用製品の開発を進めている。

国際連携活動としては、浜松地域企業も参加してドイツへの視察を実施した。今回は、従来から交流のあるイエナ、ベルリンだけでなく、シュツットガルト、アーヘン等の研究機関、光関連企業を訪問し、ドイツの光関連情報を収集するとともにネットワークを広げることができた。

セミナーは合計 16 回開催した。そのうち、医療関係セミナーでは、医療分野への新規参入を計画している地域企業の参加もあり、新たな事業化ユニットとしてもポテンシャルを発掘することができた。

平成 27 年 7 月、12 月及び平成 28 年 2 月に、「浜松・東三河ライフフォトニクスイノベーション」における「大学等の知のネットワーク構築」「地域イノベーション戦略の中核を担う研究者の集積」「地域イノベーション戦略実現のための人材育成プログラムの開発及び実施」「地域の大学等研究機関での研究設備・機器等の共用化」の取組を文部科学省及び同省フォローアップ委員に報告し、浜松地域における革新的イノベーションの創出についての意見交換会を開催し、事業の進め方について助言を頂いた。

平成 28 年 3 月には、外部評価委員会を開催し、「大学等の知のネットワーク構築」の取組を中心に報告するとともに、今後の事業推進や中間評価における指摘事項への対応について意見や助言を頂いた。

今後は、プログラムの最終年度を迎えることから、的確な終了評価報告書の作成・提出に努めるとともに、プログラムの大きな柱である「本地域の特性を活かした持続

可能な発展」ができる仕組みづくりを念頭に置き、関係機関との連携を重視した着実な事業推進に取り組む。

1.3 国等の研究開発事業化支援事業

決算額 129,144,976 円（予算額 116,062 千円）〈国委託〉〈国補助〉

【目的】

浜松地域の中小企業及び大学・公設試験研究機関が共同で行う「戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン事業）」の事業管理機関として、研究開発の運営・管理を行い、開発を計画どおり推進する。

【実施内容】

経済産業省等が行う研究開発補助（委託）事業の事業管理機関として、「中小企業ものづくり高度化法」の認定を受けた中小企業の基盤技術の高度化を目的とする産学官による研究開発事業を支援する。事業の進捗管理を行い、各種情報の収集や他の研究機関等への橋渡しを通じて研究成果の事業化を推進した。

(1) 新規提案の申請支援

サポイン提案に3件の相談があり、うち1件が申請し、採択された。

①アルミ難加工材・テーパ管の一体成形加工技術の開発（1年目）

研究機関：鈴覚(株)（浜松市南区）、静岡大学

実施期間：平成27年度～29年度

(2) 継続事業の事業管理

①3Dプリント成形加工技術に基づく医療用モデルの試作開発と販路開拓（3年目）

研究機関：(株)アールテック（浜松市北区）、東北大学、千葉大学

実施期間：平成25年度～27年度

②柔らかいフィルターを使った低コスト・高性能な熱伝導シートの開発（3年目）

研究機関：(株)大豊化成（磐田市）、大阪市立工業研究所、エス・ジー・ケイ(有)

実施期間：平成25年度～27年度

③異種積層材向けPCD（多結晶ダイヤモンド）微細複合工具成形技術の開発（2年目）

研究機関：(株)内山刃物（浜松市中区）、光産業創成大学院大学、東京電機大学、浜松工業技術支援センター

実施期間：平成26年度～27年度

④次世代自動車用、超薄肉ステンレス製「箱型 電池ケース」の開発と事業化（2年目）

研究機関：国本工業(株)（浜松市東区）、静岡大学

実施期間：平成26年度～28年度

⑤同時5軸制御 Additive Manufacturing（加法的製造）による Light Weight Structure（軽量構造）の実現（2年目）

研究機関：榎本工業(株)（浜松市北区）、(株)C&G システムズ、静岡文化芸術大学

実施期間：平成26年度～27年度

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 26 年度 ※1	平成 27 年度 ※2	平成 27 年度
①サポイン提案支援件数	3 件	1 件	3 件
②サポイン提案採択件数	3 件	1 件	1 件
③サポイン継続テーマ事業管理機関	2 件	5 件	5 件

※1：平成 27 年 3 月末日時点、※2：平成 28 年 3 月末日時点

【総括】

新規提案の申請支援を実施したが、申請は、企業側の事業計画等の都合により 1 件に留まった。サポイン事業は、地域企業の研究開発や事業化促進のための最も有効な支援制度の一つであるため、競争的資金等獲得支援事業においてセミナーや情報発信を実施し、研究開発や事業化に一步を踏み出せない企業の後押しと獲得支援に取り組んだ。

また、平成 27 年 12 月の会計実地検査を受け、より正確な事務処理となるよう研究実施機関と連携を強化した中で各事業に取り組み 4 件を完結させた。平成 28 年度以降も事業管理機関としての役割、位置付けを再認識した上で、効率的かつ効果的な事業支援を継続していく。

1 4 【新規】競争的資金等獲得支援事業

決算額 809,984 円（予算額 1,000 千円）＜浜松市＞

【目的】

戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン）等の国の競争的資金を浜松地域の中小企業が積極的に活用できるよう、国の支援情報の収集、情報提供、提案の相談、提案書の作成支援等を行い、地域中小企業の研究開発やイノベーションを後押しする。

【実施内容】

浜松地域の中小企業が効果的な補助金を積極的に活用し、新産業の創出に繋げるため「補助金獲得入門セミナー」や「サポインチャレンジ・セミナー」及び個別相談会を同時開催した。

(1) 補助金獲得入門セミナー

開催日：平成 27 年 6 月 23 日（火）

会 場：グランドホテル浜松

講 師：(株)オオサワ・ビジネス・コンサルティング（浜松市中区）

代表取締役 大沢 政久 氏

内 容：①財団所管の補助金紹介

②「補助金獲得入門セミナー」 大沢 政久 氏

③個別相談（多くは財団が公募中の補助金に関する相談：11 社）

参加者：42 社 47 名

[市内] 企業 40 社 45 名、行政・産業支援機関 6 機関 19 名

[市外] 企業 2 社 2 名

(2) サポインチャレンジ・セミナー

開催日：平成 27 年 12 月 2 日（水）

会 場：グランドホテル浜松

内 容：①「サポイン制度の説明」 関東経済産業局 製造産業課 上野 直人 氏
 ②「今後の経営環境と求められる戦略」 東京大学 教授 後藤 芳一 氏
 ③「個別相談」 地域企業 5 社 ※次年度以降のサポイン申請について

参加者：26 社 33 名

[市内] 企業 16 社 21 名、行政・産業支援機関 4 機関 6 名

[市外] 企業 10 社 12 名

(3) サポインチャレンジ・セミナー

開催日：平成 28 年 2 月 19 日（金）

会 場：グラントホテル浜松

内 容：①「サポイン制度の説明」 関東経済産業局 製造産業課 上野 直人 氏
 ②「浜松のものづくりを 3D プリンティングで元気にしよう」
 (有)オフィス・エムアンドケイ(静岡市駿河区) 代表取締役 大木 誠 氏
 ③「個別相談」 地域企業 2 社 ※次年度以降のサポイン申請について

参加者：25 社 33 名

[市内] 企業 15 社 19 名、行政・産業支援機関 3 機関 8 名

[市外] 企業 10 社 14 名

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 26 年度 ※1	平成 27 年度 ※2	平成 27 年度
①チャレンジセミナー等参加企業数	49 社	93 社	60 社
②補助金採択支援企業数	— 件	4 件	5 件

※1：平成 27 年 3 月末日時点、※2：平成 28 年 3 月末日時点

【総括】

この取り組みはサポイン制度等の周知と啓発をはじめ、中小企業にとって効果的な各種補助金の獲得支援に有効であり、継続的に開催することで中小企業の競争力強化や新技術開発に繋げている。情報の収集方法、提案書の書き方などについて詳しく説明した「入門セミナー」及びサポイン事業の概要、認定申請、提案に関するポイントを説明した「チャレンジセミナー」の開催により、浜松地域の中小企業における競争的資金獲得へ向けたマインド醸成、意識改革を推進した。

なお、補助金獲得入門セミナーでは、講師の大沢氏がものづくり補助金を中心に、情報の収集方法、提案書の書き方などについて詳しく説明し、参加者の一部からは競争的資金獲得に挑戦したいとの声が上がった。チャレンジ・セミナーでは上野氏から戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン事業）の概要、認定申請、提案に関するポイントの説明があった。東京大学後藤教授は、中小企業庁技術課長就任時に、サポイン事業の基となる「中小企業ものづくり高度化法」の恒久法としての制定に尽力されたことを話された。今後の中小企業は、単なるものづくりから脱却して、環境、健康医療、農業分野などに視点を広げると共に、サービスなどを含めた新事業展開が必要だと説かれた。(有)オフィス・エムアンドケイ代表取締役大木誠様から、当地域で 3D 勉強会を始めた理由や 5 軸同時制御 AMM (Adaptive Manufacturing Machine) がサポインプロジェクトに至った経緯の説明があった。ものだけの技術開発ではなく事業化を視野に入れた事業開発の重要性、連携の必要性、行動力が決め手になることなどを話された。

個別相談では、企業から次年度以降の提案のための要件、技術分野や共同体の構成などについて具体的な質問があった。

競争的資金等獲得支援として、経済産業省の戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン）及び新事業展開実現可能性調査事業、静岡県産学官連携研究開発助成事業、静岡県中小企業研究開発助成事業（2件）への提案5件を支援し、その内4件が採択された。また、チャレンジセミナー参加企業から次年度にサポイン申請を希望する企業を発掘することができた。

15 はままつ次世代光・健康医療産業創出事業

決算額 500,540 円（予算額 500 千円）＜自主財源＞

【目的】

各地域の産学官連携推進機関との広域的な連携を図ると共に、地域企業における同等の各種研究開発事業による成果の発信や国内外の市場に向けた事業展開を支援する。

【実施内容】

「はままつ次世代光・健康医療産業創出事業（はままつ医工連携拠点事業）」の活動計画を実現するため、具体的には拠点長及び事業総括として2名を浜松医科大学内に事務局を置く「拠点」に派遣し、提案機関の一つとして活動を支援した。

【総括】

平成27年度早々に当年度計画を策定し、実施時期の変更はあるが、ほぼ計画どおり事業化支援の取り組みが実施できている。

なお、はままつ医工連携拠点自体の具体的な活動成果及び次年度の計画等については、本事業の主母体である拠点の事業運営委員会にて報告されるものである。

16 次世代技術調査事業

決算額 1,900,965 円（予算額 1,000 千円）＜自主財源＞

【目的】

高度技術振興基金を活用し、地域企業への技術の高度化や研究開発支援を行う。次世代技術として注目を集める各種の技術動向等について調査し、勉強会やセミナーの開催を通じて地域企業に発信し、情報共有の機会と場を提供する。

【実施内容】

オープンデータに関して、地元のコミュニティであるオープンデータ浜名湖の活動と協調しながら方向性を探り、オープンデータ浜名湖の活動を浜松市に連動するためのミーティングを企画・実施した。

①地域産業からの要望による共催事業

- ・しずおかオープンデータ推進協議会との共催セミナー

開催日：平成27年5月22日（金）

会場：浜松市市民協働センター

テーマ：自治体ICT活用セミナー

「地方におけるオープンデータ活用の仕組みから実践まで」

内容：基調講演「徳島県におけるオープンデータ推進の取組」

徳島県政策創造部統計戦略課 吉川 満 氏

講演1 オープンソースCMS「シラサギ」とオープンデータプラグイン

ンのご紹介

(株)ウェブチップス(徳島県徳島市) 代表取締役 野原 直一 氏

講演 2 「OpenStreetMap、オープンデータを使った地域情報プラットフォーム「LINK」について」

(株)シーポイント(浜松市中区) 金田 聡 氏

講演 3 民産(学)官で地域課題解決を目指すオープンデータ浜名湖について

オープンデータ浜名湖 代表 杉本 等 氏

参加者：36名

【総括】

平成 27 年度は、平成 26 年度と同様に、地域企業に次世代製品について考える機会を設ける方向性を踏襲しながら、オープンイノベーションによるオープンデータの活性化、地域間交流技術調査、視察、オープンイノベーションによる地域共催事業などを通じて、注目を集める各種次世代技術の動向等に関する勉強会やセミナーを開催し、地域産業界に情報共有の機会と場を提供した。

しずおかオープンデータ推進協議会との共催セミナーを開催し満席となるほど好評であった。そして、オープンデータの活用促進のため、現在活動を進めているオープンデータ浜名湖を浜松市企画調整部公聴広報課、都市整備部土地政策課、産業部観光・シティプロモーション課に紹介すると共に、国土交通省の社会実験実施地域に採択された「浜名湖サイクリングロードの管理と活用に関する道路空間の再配分社会実験」に参加できる支援を行った。

また、地域企業からの要請により、HAMAMATSU FREE Wi-Fi 協議会へ加入し、技術的な分科会に参加した活動を通して、当財団の無線 LAN を平成 28 年 4 月より FREE Wi-Fi 対応する準備に着手した。

平成 28 年度は、地域企業が手軽に 3D プリンターを試せるミニファブラボのような場を提供できる体制を関連団体と連携して調整して行く。

1 7 地域産業活性化事業

決算額 2,127,545 円(予算額 3,000 千円) <自主財源>

(1) 地域産業活性化補助金交付事業

【目的】

技術革新の進展に即応した技術を製品開発又は生産等に利用し事業化を図る中小企業者に対して、その必要経費の一部を補助し、地域産業の活性化に寄与する。

【実施内容】

平成 27 年度は、浜松地域の製品開発などによる地域産業の活性化を目的に、過年度の補助金交付企業に対するフォローアップ支援及び調査を実施した。

①平成 26 年度補助金交付企業：補助金交付確定額 5,036,400 円

No	企業名	研究開発事業
1	(有)勝美 (浜松市北区)	「うなぎコラーゲン・セラミドパウダーの消臭・血中から肌への効果試験研究及び残渣である脂質の有効成分抽出技術開発」 [内容]

		<p>うなぎコラーゲン・セラミドパウダー特有の臭いを除去するための脱臭加工試験。血中から肌への効果試験研究及び残渣である脂質の有効成分の抽出技術試験研究。</p> <p>[成果と今後] 緑茶カテキンに含まれる茶ポリフェノールの濃度が高いほど脱臭効果が高いことが判明。実機で行うパウダー製造過程において脱臭効果が得られ製品化されれば、健康食品業界及び化粧品業界への販路拡大の可能性あり。「機能性関与成分」の科学的根拠が実証でき、特許性があることが判明。今後は特許を出願し、パウダーの製品化を目指していく。</p> <p>[現状] (株)須部商店と共に「コラーゲン豆腐」を開発。現在、遠鉄ストアー全店にて販売している。今後は、夏に向けて東京蒲焼商組合と共に「コラーゲン・セラミド入りアイスクリーム」の商品を開発する。また、中小企業基盤整備機構の「販路開拓コーディネート事業」も活用中である。</p>											
		<table border="1"> <tr> <td rowspan="2">交付確定額</td> <td colspan="3">売上金額</td> </tr> <tr> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> </tr> <tr> <td>1,200千円</td> <td>—</td> <td>397千円</td> <td></td> </tr> </table>	交付確定額	売上金額			26年度	27年度	28年度	1,200千円	—	397千円	
交付確定額	売上金額												
	26年度	27年度	28年度										
1,200千円	—	397千円											
2	(株)ホト・アグリ (浜松市北区)	<p>「害虫防除機能付き照明の防水機能とコスト低減を目的とした製品開発」</p> <p>[内容] 害虫防除機能付き LED 照明「虫ナイト」に防水機能を持たせるための形状変更、使用材料の見直し、基板設計。量産時のコスト低減を視野にいたした製品開発。</p> <p>[成果と今後] コスト面、機能面の問題を、部品減少や筐体部品の選定などにより、量産計画、LED 実装時の専用治具であるコレットを使用するなどして、コスト低減ができた。今後は、形状が異なる照明の商品開発や高デザイン化、ラインナップを増やしていく。</p> <p>[現状] 御殿場のアウトレットカフェ・レストランの窓ガラスへの設置や、浜松市内トイレ2カ所へ設置し試験中である。また、倉庫業者の駐車場、敷地内通路等の設置や市内食品加工業者、アパート・マンション20カ所への設置も行った。現在、中国武漢から、3,000本の注文の話がきており、海外への販路拡大を目指していく。</p>											
		<table border="1"> <tr> <td rowspan="2">交付確定額</td> <td colspan="3">売上金額</td> </tr> <tr> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> </tr> <tr> <td>1,200千円</td> <td>—</td> <td>3,630千円</td> <td></td> </tr> </table>	交付確定額	売上金額			26年度	27年度	28年度	1,200千円	—	3,630千円	
交付確定額	売上金額												
	26年度	27年度	28年度										
1,200千円	—	3,630千円											
3	(株)松田屋 (浜松市東区)	<p>「遠州食材を活用した健康志向加工みその商品開発」</p> <p>[内容] 脱酸素剤技術と低温殺菌技術を組み合わせ、遠州地区の食材を活用し健康志向ニーズにも応えた調味加工味噌の商品開</p>											

		<p>発。</p> <p>[成果と今後] 充填機と蓋締機によって商品の初発菌数を制御することで、リスク軽減を図ると同時に保存性を高める技術を獲得。また、温度設定可能な殺菌庫を使い、食感、味わいや外観と殺菌能力の相関関係を把握した。今後は、脱酸素剤に頼らない衛生管理技術による初発菌数の減少と、低温加熱技術の向上により、調味加工味噌の商品開発を進める。</p> <p>[現状] 低温加熱技術を転用しジュレを開発した。セルリー和風ジュレは当初味噌製品として開発していたがセルリーの食感と風味の二大特徴を生かすため温度と時間を厳密に規定し、ジュレとして製品化。また、浜松産トマトを使用し、トマト味噌も開発。現在は浜松産みかんを原料にしたジャムを開発中である。</p>											
		<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">交付確定額</th> <th colspan="3">売上金額</th> </tr> <tr> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> <tr> <td>1,200千円</td> <td>—</td> <td>1,357千円</td> <td></td> </tr> </table>	交付確定額	売上金額			26年度	27年度	28年度	1,200千円	—	1,357千円	
交付確定額	売上金額												
	26年度	27年度	28年度										
1,200千円	—	1,357千円											
4	(株)ブルックマンテクノロジー (浜松市中区)	<p>「超高感度 CMOS イメージセンサの販路開拓」</p> <p>[内容] 超高感度 CMOS イメージセンサの本格量産化に向けた改良試作と海外を中心とした販路開拓。</p> <p>[成果と今後] 新たな海外顧客獲得のためドイツで開催された「EOSA M 2014」に参加し、製品紹介及び技術プレゼンテーションを実施。監視向け以外の新たなアプリケーション開拓のため分析計測器を導入し、センサの正確な分光度測定、白キズ低減(歩留まり向上)に向けた改良試作の性能評価を実施。今後は製造工程委託先への品質管理の徹底と超高感度 CMOS イメージセンサの後継機種(フルハイビジョン化)の製品開発に取り組んでいく。</p> <p>[現状] 超高感度センサの新しい用途向け(紫外線検出用)に新たに50個以上の販売を達成した。 一方で、新規開発したフルハイビジョン版超高感度センサでは設計不具合が発覚した。今後は不具合を修正し、H28年度中のサンプル出荷及び量産立ち上げを行う。</p>											
		<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">交付確定額</th> <th colspan="3">売上金額</th> </tr> <tr> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> <tr> <td>1,436千円</td> <td>—</td> <td>35,414千円</td> <td></td> </tr> </table>	交付確定額	売上金額			26年度	27年度	28年度	1,436千円	—	35,414千円	
交付確定額	売上金額												
	26年度	27年度	28年度										
1,436千円	—	35,414千円											

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 26 年度 ※1	平成 27 年度 ※2	平成 27 年度
①売上金額	0 円	40,798 千円	— 円

※1：平成 27 年 3 月末日時点、※2：平成 28 年 3 月末日時点

【総括】

平成 27 年度から、過年度の補助金交付企業に対するフォローアップ調査を実施。フォローアップ調査の結果、本補助金を活用して事業化した製品の売上げも着実に伸びてきている。現在も新製品開発、改良試作、量産化などの技術開発や研究開発を進展させている。

平成 28 年度についても、事業進捗や課題などを把握するため、引き続き企業訪問を行いながらフォローアップを実施していく。また、必要に応じて専門家派遣制度などの財団支援メニューを活用し、技術開発や研究開発をバックアップするとともに、販路開拓を含めた事業化を総合的に支援して行く。

(2) 浜松地域技術商談会**【目的】**

浜松地域の優れた技術を持つ企業とその技術を求める企業とのマッチング会を開催し取引拡大を図る。

【実施内容】

天方産業㈱（浜松市中区）協力のもと、技術マッチング商談会を開催した。

開催日：平成 27 年 7 月 22（水）～23 日（木）

会 場：アクトシティ浜松

内 容：天方産業㈱との協議の結果、申込件数 20 社のうち 19 社との面談を 2 日 2 回に分けて実施した（22 日 10 社、23 日 9 社）。その後、絞り込みが行われ 2 社と具体的な新規提案に向けた検討を開始した。

【総括】

浜松地域には、技術力が高く、取引拡大を課題とする中小企業は多く存在している。今回の浜松地域技術商談会の開催後に企業訪問などを実施し、積極的にフォローアップを行った結果、新規取引へとつながる案件も生まれ、技術マッチング商談会として一定の成果が出た。平成 28 年度以降も、大手・中堅企業とのマッチングが開催できるように、常日頃からアンテナを高くし、地元企業のビジネスチャンスの場を増やしていく。

(3) 地域企業視察会**【目的】**

優れた「ものづくり」精神をもつ企業または現場改善に寄与する展示会への視察を行い、浜松地域企業の現場力向上を支援する。

【実施内容】

現場力向上を目指す浜松地域の中小企業に対して、からくり改善に関する視察会を企画・実施した。

①「からくり改善くふう展視察会」

開催日：平成 27 年 10 月 2 日（金）

会 場：ポートメッセなごや

参加者：40名

②「トクラス㈱ものづくり見学会」

開催日：平成27年10月14日（水）

会 場：トクラス㈱（浜松市西区）

参加者：25名

【総括】

（公社）日本プラントメンテナンス協会と連携して「からくり改善くふう展視察会」の視察会を実施し、参加者の現場改善意識の高揚につながったと思われる。

また、地元企業のトクラス㈱の見学会を開催したことにより、現場改善をより身近に感じることができ、改善意欲から実行へ繋がる後押しができた。

平成28年度は、現場力向上人材育成事業に組み入れ、製造業における現場力を高めるための重要な要素として浸透させていきたい。

(4) 地域間交流事業調査検討

【目的】

オープンイノベーションを起こすためには、他地域との交流を通じて、自社の技術を公開し、他社の技術をベンチマークすることが重要である。また、事業継続マネジメント(BCM)の観点からも相互補完関係の構築は必須となっている。こうしたことから、他地域との交流の可能について調査検討する。

【実施内容】

「第19回いたばし産業見本市」に出展し、板橋地域企業へ浜松地域のPRを行った。また、会期中に行われた「産業防災フォーラム」に参加し、中小企業の災害対策・広域連携防災に対する意見交換と他地域企業・団体関係者と相互連携について情報交換を行った。

名 称：第19回いたばし産業見本市

会 場：板橋区立東板橋体育館

開 催 日：平成27年11月12日（木）～13日（金）

出展状況：122社・団体139小間

来 場 者：2,437名

【総括】

自社の技術をオープンにすることに抵抗感を示す企業が多い中、その解決の第一歩として、他地域での展示会に出展することを検討し、広域防災連携に力をいれている板橋地域に着目し、「第19回いたばし産業見本市」へ出展した。また、その会期中に開催された「産業防災フォーラム」へも参加し、他地域の防災連携の取り組みや連携の可能性について意見交換を行った。

平成28年度も積極的に他地域企業と浜松地域企業との連携構築に向け、財団として交流を推進して行く。

7【拓く】販路開拓支援

18 ものづくり販路開拓支援事業

決算額 8,575,745 円（予算額 10,000 千円）〈浜松市〉

【目的】

市内中小企業（製造業）に対し、国内外（県内を除く）で開催される各種展示会への出展を促すと共に、首都圏を中心として市場・販路開拓に向けた支援を行う。

【実施内容】

中小企業の自社製品・技術の販路開拓を目的として、国内及び海外で開催される各種展示商談会へ出展する企業に対し、資金助成や助言等の支援を行った。

助成額は国内で開催される展示商談会に対しては1社当たり上限20万円、海外は上限50万円を助成し、2社以上での共同隣接出展については上限額を5割増しとした。また、コーディネーターによるハンズオンサポートを通じて、出展前後のフォローを行った。

また、近年増加している海外販路開拓の相談に関し、企業が抱える課題や求めに応じた専門家の紹介や関連支援機関が設ける支援メニューの情報提供などを通じてサポートの強化を図った。

公募期間：平成27年4月13日（月）～5月15日（金）

概要：補助率 1/2、上限 20 万円（国内）・50 万円（国外）、
補助対象経費（出展費用、展示装飾費、通信運搬費など）

- ①国内 申請件数：35 件
採択件数：34 件 ※出展体制整わず等で2件辞退（最終32件）
事業期間：平成27年4月1日（水）～平成28年3月31日（木）
交付確定額：5,390 千円（32 件）

〈交付企業一覧〉 (単位:円)

No	企業名	対象展示商談会	交付確定額
1	(株)インテグラ技術研究所 (浜松市中区)	INTERMOLD 2015	200,000
2	パイフォトニクス(株) (浜松市東区)	OPIE'15	200,000
3	(株)NOKIOO (浜松市東区)	第9回 Web&モバイルマーケティング EXPO 春	200,000
4	浜松ヒートテック(株) (浜松市東区)	自動車技術展 人と車のテクノロジー展 2015	83,000
5	浜口ウレタン(株) (浜松市西区)	中部ライフガードテク 2015	200,000
6	(株)ピアックス (浜松市中区)	第10回しんきんビジネスマッチングフェア 2015	53,000
7	(株)アコヤハイテック (浜松市北区)	第10回しんきんビジネスマッチングフェア 2015	57,000
8	第一工業(株) (浜松市東区)	新価値創造展 2015 in 関西	131,000
9	スナオ電気(株) (浜松市東区)	JECA	200,000

10	株スカイロジック (浜松市北区)	画像センシング展	48,000
11	株アオノ (浜松市中区)	オフィス防災 EXPO	200,000
12	株スカイプランニング (浜松市北区)	第 6 回省エネ・節電 EXPO	200,000
13	株アローセブン (浜松市中区)	生産システム見える化展	200,000
14	澤木工房株 (浜松市北区)	Inter Opto 2015	200,000
15	株サツ川製作所 (浜松市南区)	びわ湖環境ビジネスメッセ 2015	200,000
16	株システム・ジェーピー (浜松市東区)	第 53 回日本癌治療学会学術集 会	192,000
17	橋本エンジニアリング株 (浜松市浜北区)	第 42 回国際福祉機器展 HCR 2015	200,000
18	アクトテック株 (浜松市天竜区)	日本木工機械展	172,000
19	株アルファプロジェクト (浜松市東区)	組込み総合技術展	200,000
20	中野ハガネ株都田研究所 (浜松市北区)	新価値創造展 2015 in 東京	88,000
21	有ファームファクトリー (浜松市南区)	新価値創造展 2015 in 東京	200,000
22	株サインクリエイト (浜松市南区)	新価値創造展 2015 in 東京	171,000
23	株ゴトー理研 (浜松市東区)	新価値創造展 2015 in 東京	200,000
24	SAW&SPR-Tech有 (浜松市中区)	新価値創造展 2015 in 東京	104,000
25	創生商事株 (浜松市中区)	IFFT/インテリアライフスタ イルリビング	189,000
26	有雪山シボリ (浜松市東区)	メッセナゴヤ 2015	134,000
27	株オプトメカエンジニア リング (浜松市浜北区)	国際画像機器展 2015	168,000
28	株カタナコーポレーショ ン (浜松市北区)	国際画像機器展 2015	200,000
29	株浅沼技研 (浜松市西区)	第 2 回自動車部品加工 EXPO	200,000
30	オーム電機株 (浜松市北区)	第 45 回インターネプコンジャ パン 2016	200,000
31	株アートクリエイション (浜松市東区)	NIKKEI MESSE 2016	200,000
32	株マストレ (浜松市西区)	NIKKEI MESSE 2016	200,000

- ②海外 申請件数 : 2 件
 採択件数 : 2 件
 事業期間 : 平成 27 年 4 月 1 日 (水) ~ 平成 28 年 3 月 31 日 (木)
 交付確定額 : 1,479 千円 (2 件)

< 交付企業一覧 > (単位: 千円)

No	企業名	対象展示商談会	交付確定額
1	沢根スプリング(株) (浜松市南区)	MD&M WEST2016 (米国)	750,000
2	(株)オノックスエムティー ティー (浜松市浜北区)	MD&M WEST2016 (米国)	729,000

【成果指標】 ※項目②～④は 2 社あたりの平均値

地域	項目	実績		目標
		平成 26 年度 ※1	平成 27 年度 ※2	平成 27 年度
国内	①出展社数 (報告書受)	28 社	32 社	31 社
	②ブース来場者数	285 名	292 名	170 名
	③名刺交換数	61 名	82 名	70 名
	④商談件数	7 件	10 件	10 件
	⑤商談成立件数	25 件	37 件	10 件
海外	①出展社数 (報告書受)	3 社	2 社	3 社
	②ブース来場者数	453 名	290 名	300 名
	③名刺交換数	56 名	95 名	100 名
	④商談件数	6 件	17 件	10 件
	⑤商談成立件数	4 件	1 件	3 件

※1 : 平成 27 年 3 月末日時点、※2 : 平成 28 年 3 月末日時点

※項目②～④は 1 社当たりの平均値

【総括】

展示会補助金については、平成 26 年度にヒアリングした中小企業からの声 (①「首都圏へ出ていく資金体力がない」、②「対象分野の縛りがあるので補助金を十分に活用できない」、③「首都圏等の展示会では自社が埋もれてしまう」等の意見) を反映し、平成 27 年度は、制度を改定 (①補助率や補助額の変更、②対象分野・展示会枠の拡充等) して公募を行った。その結果、37 社からの申請を受け、審査の結果 36 社を採択し、34 社交付確定した。

また、平成 28 年度に向けて現行制度を再検証し、出展企業の成果を測るため、平成 25 年度から平成 26 年度の出展成果調査と展示会補助金事業に関するアンケート調査を実施した。主な調査結果としては、「自社の技術力や製品力の PR につながった」が最も多く、次いで「新規顧客や他企業とのネットワーク構築ができた」となっている。全体的には、助成に対する一定の成果が得られた結果が出ており、展示会補助金に関与した成果は下記のとおりとなった。

- ・平成 25 年度助成企業 35 社 売上成果 31,103 千円 (回答企業数 22 社)
- ・平成 26 年度助成企業 31 社 売上成果 11,718 千円 (回答企業数 21 社)

今回のアンケート調査の結果を踏まえ、平成 28 年度についても、地域の中小企業の成果によりつながる制度として実施していく。

なお、補助金交付企業 2 社が出展した MD&M WEST2016 (米・アナハイム) ※3

については、財団スタッフがJETROとの調整・連携役を担い、出展企業への出展ノウハウの提供や出展同行支援を通じて海外販路開拓を支援した。

※3: 浜松市が海外展開支援の一環として、平成25～26年度の2か年にわたり、JETROのジャパンパビリオンを活用した地域企業共同出展を実施していた展示会であり、平成27年度からは当財団が役割を引き継いだ。JETROによる出展募集（10月中旬～10月末）に対して補助金交付企業2社が応募し、11月24日に出展が正式決定。

19 浜松地域販路開拓・マッチング支援事業

決算額 0 円（予算額 2,000 千円）＜自主財源＞

【目的】

輸送用機器や医療機器等の大手メーカーをターゲットにした個別商談会を開催し、地域企業の販路開拓やマッチングを支援する。

【実施内容】

輸送用機器大手メーカーとの個別商談会の開催実現に向けて、浜松商工会議所主導で相手先複数社と調整を行ってきた。

しかし、第1候補として交渉を進めてきた自動車関連メーカーI社から正式な回答が得られず、また、次候補として同時併行で調整を進めてきた自動車関連メーカーT社やD社についても良好な感触を得たものの、平成27年度中の開催は難しいとの結論に至った。

こうしたことから、平成27年度の開催は断念し、平成28年度以降の開催に向けてT社及びD社との調整を進めている。

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成26年度※1	平成27年度※2	平成27年度
①出展社数	48社	—社	50社
②商談件数（取引成立）	5件	—件	5件

※1：平成27年3月末日時点、※2：平成28年3月末日時点

【総括】

平成26年度に実施した㈱本田技術研究所（栃木県芳賀郡芳賀町）との商談会では、5件の取引成立と9件の見積依頼の成果をあげたほか、出展者アンケートの回答39社中18社から「何らかの成果が得られた」との高い満足度を得ており、地域企業のニーズは大きいものと捉えている。

平成27年度は大手メーカーとの折り合いがつかず開催を断念せざるを得ないが、今後も引き続き魅力と期待を感じさせるマッチメイキングに取り組み、中小企業が有する一般的なルートでは得難いコネクションづくりの機会と場の提供に努めた。

平成28年度については、輸送用機器大手メーカーT社との商談会が平成28年11月に決定している。前回同様、浜松商工会議所と連携しながら地域企業のマッチングの場を創出していく。また、先述の浜松地域技術商談会（天方産業㈱協力）と両輪を組み、地域内外の2本柱で販路開拓・マッチング支援の充実を図る。

20 【新規】海外ビジネス展開支援事業

決算額 2,979,553 円（予算額 3,000 千円）＜浜松市＞

【目的】

海外市場をターゲットに事業拡大を目指す中小企業の事業化可能性調査を支援することにより、中小企業のグローバル展開の可能性を広げると共に、新事業分野への参入を促進する。

【実施内容】

浜松市内の中小企業者が、技術や製品の強みを核にアジア地域などへの海外進出を目指して実施する事業化可能性調査（Feasibility Study：新規事業への参入や新商品の販売などの検討に当たっての当事業などの実現可能性や投資採算性などの多角的な調査）に対して補助金を交付した。

①海外展開に向けた事業化可能性調査費補助金

公募期間：[1次]平成27年6月8日（月）～7月10日（金）

[2次]平成27年8月24日（月）～9月4日（金）

概要：補助率 1/2、上限 50 万円、補助対象経費（国内外において実施する調査委託費用・専門家への相談費用など）

申請件数：[1次]4件 [2次]2件

採択件数：[1次]4件 [2次]2件

事業期間：平成27年7月17日（金）～平成28年2月29日（月）

交付確定額：2,977 千円

（単位：円）

	採択企業名	研究開発事業	交付額
1 次 募 集	(株)ブングボックス (浜松市中区)	万年筆とオリジナルインクの海外販路開拓に向けた市場調査	500,000
	(有)アラン (浜松市中区)	国産「美濃手漉き和紙」のインテリア素材としての海外販路開拓に向けた市場調査	500,000
	テラワキ(株) (浜松市東区)	オリジナルデザインのペット用品の海外販路開拓に向けた市場調査	477,605
	(株)ブルーニングハーツ (浜松市浜北区)	ハンドメイド生産のルアーをはじめとする釣り用品の海外販路開拓に向けた市場調査	500,000
2 次 募 集	ISK デザイン(株) (浜松市中区)	金型製造の海外販路開拓に向けた市場調査	500,000
	(株)ウチゲン (浜松市中区)	日系自動車メーカーとの取引開始に伴いメキシコ現地法人設立に向けた事業化可能性調査	500,000
	計		2,977,605

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成26年度※1	平成27年度※2	平成27年度
①提案採択件数	－ 件	6 件	6 件

※1：平成27年3月末日時点、※2：平成28年3月末日時点

【総括】

平成 27 年度は、平成 26 年度に浜松市で実施した当事業の採択実績を踏まえ、補助制度の検討・制定を行った。本補助金の活用促進に向けて、コーディネーターの口利きを中心とした制度案内や財団 HP、メルマガによる情報配信など、積極的に情報発信したことにより申請 6 件、採択 6 件に繋げると共に、全ての企業の効果的な海外展開を支援することができた。

平成 28 年度は、コーディネーターからの情報及び地域ニーズの報告を受け、補助金枠 2 件を拡大することで、更なる海外展開支援に繋げていく。

2 1 地場産業振興事業

決算額 11,381,157 円（予算額 11,599 千円）＜自主財源＞

【目的】

本地域の地場産業の振興を目的として、(財) 静岡県西部地域地場産業振興センターから委譲された資金を活用して、遠州地域を産地とする繊維、楽器、オートバイ等、地場産業の販路開拓やその魅力、文化の発信等に係る支援を行う。

【実施内容】

(1) 繊維製品の普及拡大

本地域の代表的な地場産業である綿織物の振興に向けて、繊維製品の展示商談会への出展支援など、静岡県、浜松市等と連携した支援を行った。

① ハママツ・コレクション事業

ア 高機能素材ワールド

開催日：平成 27 年 4 月 8 日（水）～10 日（金）

会 場：東京国際フォーラム

内 容：高機能繊維（CFRP 等）の用途開発を推進するため首都圏開催の展示商談会に出展した。

イ プレミアムテキスタイルジャパン

開催日：平成 27 年 5 月 27 日（水）～28 日（木）2016 Spring/Summer 2 企業

平成 27 年 11 月 25 日（水）～26 日（木）2016 Autumn/Winter 1 企業

（ジャパントリエーション 2016 併催）1 企業

会 場：東京国際フォーラム

内 容：浜松テキスタイルを国内外の繊維関係者に PR するため首都圏開催の展示商談会に出展した。

ウ ギフトショー

開催日：平成 27 年 9 月 2 日（水）～4 日（金） 1 組合

会 場：東京ビッグサイト

内 容：1 組合（3 企業）が出展し、テキスタイル及び二次製品を展示した。

開催日：平成 28 年 2 月 3 日（水）～5 日（金） 1 組合

内 容：1 組合（4 企業）が出展し、テキスタイル及び二次製品を展示した。

エ 遠州織物コレクション

開催日：平成 28 年 2 月 18 日（木）～19 日（金）

会 場：文化ファッションインキュベーション

来場者：172 名（サンプル依頼：426 件）

内 容：遠州産地の情報発信を推進するため、産地単独展である遠州織物

コレクションに8社4団体が出展した。新企画商品を展示することで、産地のイメージ向上、新規市場及び販路拡大を図った。

②ゆかた振興事業

「注染・ゆかた・和装展」の開催

開催日：平成27年7月11日（土）～12日（日）

会場：ギャラリーモールソラモ

来場者：1,000名

内容：注染・ゆかた・和装製品の展示・発表、浜松注染の実演・体験、浜松工業技術支援センター成果発表を実施し、多くの来場者で賑わうと共に、広く市民にゆかた、繊維産業の魅力を感じてもらうことができた。また、平成27年7月23日には、東海文化専門学校にて高校生ゆかた教室（40名参加）を実施し、ゆかたへの理解を深めた。

③新製品展示紹介事業

ア 福岡ギフトショー

開催日：平成27年6月8日（月）～10日（水） 1組合（4企業）

会場：マリンメッセ福岡

内容：高付加価値製品や機能加工製品の展示・商談を行い、新規需要の拡大を図った。

イ 綿の産地フェア

開催日：平成27年10月31日（土）

会場：浜松市総合産業展示館 1組合（14企業）

来場者：1,700名

内容：地産地消のモデル事業として、地域住民を対象とした、遠州産地の新製品・特化製品の展示・販売・アンケート調査を行った。また、体験コーナーとして手織り機、製紐機、福田地区の特化技術である剪毛の体験コーナーを設け、多くの来場者に体験してもらい、遠州織物への関心と理解を深めた。

④マーケティング支援事業

ア TN展

開催日：平成27年11月5日（木）～6日（金）

会場：東京渋谷文化ファッションインキュベーション

内容：1社がシャツ地（武者のシャツ等）を出展した。

イ ギフトショー

開催日：平成27年9月2日（水）～4日（金） 1組合

会場：東京ビッグサイト

内容：1社が県商工会連合会ブースに遠州ガーゼを中心にインテリア小物、ホームウェア等を出展した。

協会傘下の遠州織物（協）及び8企業が独自の製品開発を行い展示会及び求評会に出展し、高い評価を受け、販路拡大を図ることができた。

（各展示会での総サンプル依頼：113件）

⑤浜松シティファッションコンペ事業

1次審査：平成27年9月14日（月）

最終審査：平成27年12月20日（日）

会場：えんてつホール

内 容：浜松地域の綿関連素材を用いた作品づくりを通じて、次世代を担うクリエイターと繊維業界との有機的な関係を構築すると共に、綿織物産地「浜松」の情報を広く発信し繊維産業の振興を図った。
全国からデザイン画 4,240 点の応募が寄せられ、そのうちデザイナー等による第一次審査を通過したデザイン画 30 点を衣装化し、プロのモデルによるファッションショー形式で審査を行った。素材については、産地企業 26 社の協力があり綿素材の産地浜松をアピールした。

⑥浜松市総合産業展示館北館展示コーナーへの繊維製品の展示

内 容：当地域唯一の繊維産地8組合の製品展示場所である浜松市総合産業展示館北館2階の常設展示コーナーについて、各組合の協力のもと、注染の型紙、マンガ加工の型、コール天の各種道具等の貴重な資料を展示・整備することで、地場産業の振興を図った。

(2)「バイクのふるさと浜松 2015」実行委員会事務局運営事業

オートバイクの魅力や文化の発信等を目的とする「バイクのふるさと浜松」の事務局運営を担い、イベント開催に向け関係機関との調整や実行委員会を開催した。

①「バイクのふるさと浜松 2015」

開催日：平成 27 年 8 月 22 日（土）～23 日（日）

会 場：浜松市総合産業展示館

内 容：交通安全宣言パレードラン、最新モデルの展示、バイク販売店コーナー、親子バイクスクール、ステージイベント、トライアルデモンストラーション等を実施した。

来場者：22,000 名

②「バイクのふるさと浜松 in 静岡文化芸術大学（碧風祭）」

開催日：平成 27 年 11 月 7 日（土）～8 日（日）

会 場：静岡文化芸術大学

内 容：大学生など新規の二輪利用者に対して、バイクの魅力の発信と交通安全の啓発を行うため、学園祭に出展した。3 メーカーによる車両展示 11 台及び二輪ライディングシミュレータ体験を実施した。

来場者：980 名

③「二輪車交通安全講習会 in 静岡大学」

開催日：平成 27 年 12 月 10 日（木）

会 場：静岡大学浜松キャンパス

内 容：大学生のバイク通学者に車両点検・点検指導・アドバイスを行うことで、より安全・快適にバイク乗車いただくため、大学に出向き交通安全講習を実施した。

点検車両数 45 台

交通安全講習会参加者 110 名

④「大阪モーターサイクルショー2016」

開催日：平成 28 年 3 月 19 日（土）～21 日（月）

会 場：インテックス大阪 1 号館、2 号館

内 容：バイクのふるさと浜松 2016 のチラシ配布、往年の名車(ライラック)及びバイク部品メーカー製造の新素材車イスを展示すると共に、バイクの街・浜松を PR した。

来場者：62,512 名

(3) 楽器関連産業の振興・発信

本地域に集積する楽器関連産業の振興に向けて、浜松市等と連携して「浜松楽器メイカーズフェスティバル」を開催した。

①「浜松楽器メイカーズフェスティバル」

開催日：平成 27 年 12 月 5 日（土）～6 日（日）

会 場：アクトシティ浜松展示イベントホール

内 容：「音楽の都・浜松」を発信するため、職人やエンジニア、デザイナー等「音の匠」の技術力披露や楽器作り、コンサート等を実施した。

来場者：7,799 名

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 26 年度 ※1	平成 27 年度 ※2	平成 27 年度
①ハマツ・コレクション事業取引依頼件数 ※3, ※4	3,204 件	945 件	1,500 件
②マーケティング支援事業取引依頼件数 ※4	343 件	113 件	100 件
③バイクのふるさと来場者数	21,000 名	22,000 名	22,000 名

※1：平成 27 年 3 月末日時点、※2：平成 28 年 3 月末日時点

※3：プレミアムテキスタイルジャパンとギフトショー、遠州織物コレクションの数値合計

※4：平成 27 年度から①②の指標をサンプル依頼件数から取引依頼件数に変更

【総括】

プレミアムテキスタイルジャパンは、過去最高の来場者数に加え、サンプル依頼も前回比 2 割増の成果を上げ、浜松テキスタイルの国内外へのアピールにつながった。また、東京・福岡ギフトショーや産地単独展示会である遠州織物コレクションも年々来場者が増えており、継続出展支援を通じてリピーターや商談成立の増加など繊維産業の振興・発展につながっている。

「バイクのふるさと浜松 2015」については、イベント内容のリニューアルによって、幅広い客層が楽しめる内容となり、来場者 22,000 名に対してバイク産業を様々な観点から PR することができたと考えている。また、市内の大学に出向き、交通安全講習や車両点検・指導を行うことで、二輪車の普及啓発に努めた。

楽器関連産業の振興については、浜松市と連携して「浜松楽器メイカーズフェスティバル」を開催し、音楽の都・浜松を PR した。

参 考 资 料

財 団 の 運 営

1 基本財産及び基金

(単位 千円)

基本財産・ 基金 出 捐 者	基本財産	債務保証 基 金	高度技術 振興基金	地域産業 活性化基金	合 計
静 岡 県 (うち国庫支出額)	60,000	113,000	180,000 (147,790)	660,000 (330,000)	1,013,000 (477,790)
浜 松 市	430,000	113,000			543,000
(旧浜松市)	(430,000)	(63,070)			(493,070)
(旧浜北市)		(20,440)			(20,440)
(旧天竜市)		(11,080)			(11,080)
(旧細江町)		(9,430)			(9,430)
(旧引佐町)		(8,980)			(8,980)
民間企業 (社 数)	115,700 (33)	134,000 (31)			249,700
合 計	605,700	360,000	180,000	660,000	1,805,700

平成 28 年 3 月 31 日現在

2 役員及び委員

(1) 理事・監事 (定款第 22 条)

平成 28 年 3 月 31 日

(氏名 50 音順)

	氏 名	所 属	役 職
理 事 長	岡部比呂男	ヤマハ (株)	顧問
副理事長	山崎 勝康	天方産業 (株)	常任アドバイザー
理 事	木村 隆昭	ヤマハ発動機 (株)	代表取締役副社長執行役員
〃	木村 雅和	静岡大学	理事・副学長・イノベーション 社会連携推進機構機構長
〃	佐野 良夫	(株) 河合楽器製作所	取締役副会長執行役員
〃	鈴木 和博	浜松信用金庫	専務理事
〃	鈴木敬太郎	中部ガス (株)	常務取締役企画・管理部門担当 兼 経営管理部長 兼 浜松支社長
〃	原 勉	浜松ホトニクス (株)	常務取締役中央研究所長
〃	古橋 敏明	(一社) 静岡県繊維協会	会長
〃	山本 清二	浜松医科大学	光先端医学教育研究センター産 学官連携推進部長・学長特別補佐
専務理事	増田 洋介	(公財)浜松地域イノベーション推進機構	事業推進部長
理 事	三井 啓義	(公財)浜松地域イノベーション推進機構	事務局長・総務企画部長
監 事	山内 致雄	(株) 電興社	代表取締役社長
〃	中野 純	中野純公認会計士・税理士事務所	所長

(2) 評議員（定款第 12 条）

平成 28 年 3 月 31 日

（氏名 50 音順）

	氏 名	所 属	役 職
評 議 員	石川 晃三	(株) ソミック石川	代表取締役会長
〃	井上 光輝	豊橋技術科学大学	理事・副学長
〃	加藤 義章	光産業創成大学院大学	学長
〃	佐藤 洋一	浜松市	産業部長
〃	白井 卓也	中部電力 (株)	静岡支店 浜松営業所長
〃	杉田 光秀	(株) 静岡銀行	常務執行役員西部カンパニー長
〃	野口 博	静岡理工科大学	学長
〃	服部 貴應	(株) エヌエスティー	代表取締役社長
〃	松本 好司	天方産業 (株)	代表取締役社長
〃	守田 泰男	遠州信用金庫	理事長
〃	渡辺 吉章	静岡県	経済産業部商工業局長

3 会 議

(1) 理 事 会

① 平成 27 年度 第 1 回理事会

議決方法	書面決議
議 決 日	平成 27 年 6 月 2 日 (火)
審議事項	第 1 号議案 平成 26 年度事業報告承認の件 第 2 号議案 平成 26 年度 収支決算(貸借対照表、正味財産増減計算書 及び財産目録)承認の件 第 3 号議案 定時評議員会の日時及び場所並びに目的である事項等の件

② 平成 27 年度 第 2 回理事会

開催日時	平成 27 年 6 月 16 日 (火) 15:00～
開催場所	浜松地域イノベーション推進機構 8 階セミナー室
出席者	8 名
審議事項	報告第 1 号 平成 26 年度事業報告承認の件 報告第 2 号 平成 26 年度収支決算(貸借対照表、正味財産増減計算書及び財産 目録)承認の件 報告第 3 号 評議員の候補者について 報告第 4 号 理事の辞任及び候補者の選任について

③ 平成 27 年度 第 3 回理事会

議決方法	書面決議
議 決 日	平成 27 年 6 月 17 日 (水)
審議事項	第 1 号議案 代表理事(理事長)1 名選定の件 第 2 号議案 副理事長 1 名選定の件

④ 平成 27 年度 第 4 回理事会

議決方法	書面決議
議 決 日	平成 27 年 10 月 7 日 (水)
審議事項	第 1 号議案 平成 27 年度事業計画変更の件 第 2 号議案 平成 27 年度収支補正予算承認の件 第 3 号議案 事務局運営規程改定の件

⑤ 平成 27 年度 第 5 回理事会

開催日時	平成 27 年 10 月 28 日 (水) 10:00～
開催場所	浜松地域イノベーション推進機構 8 階セミナー室
出席者	10 名
審議事項	報告第 1 号 第 4 回理事会書面決議の報告及び地場産業振興事業の 経緯について 第 1 号議案 平成 27 年度事業計画変更の件 第 2 号議案 平成 27 年度収支補正予算の件 第 3 号議案 借入限度枠設定の件 第 4 号議案 テクノビジネスゲート棟の処分の件 報告第 2 号 平成 27 年度上半期の職務執行の状況について 報告第 3 号 評議員の候補者について

第5号議案 第3回評議員会の日時及び場所並びに目的である事項等の件

⑥ 平成27年度 第6回理事会

開催日時	平成28年2月29日(月) 15:00～
開催場所	浜松地域イノベーション推進機構 8階セミナー室
出席者	9名
審議事項	第1号議案 高度技術振興基金及び地域産業活性化基金の終了について 第2号議案 特定資産(減価償却引当資産)の取崩しについて 第3号議案 平成28年度 事業計画について 第4号議案 平成28年度 収支予算について 第5号議案 規程の改定及び廃止について 報告第1号 評議員の辞任及び後任候補者の選任について

(2) 評議員会

① 平成 27 年度 第 1 回評議員会

開催日時	平成 27 年 6 月 17 日 (水) 13 : 30～
開催場所	浜松地域イノベーション推進機構 8 階セミナー室
出席者	7 名 (報告第 1 号から 8 名)
審議事項	第 1 号議案 評議員の選任の件 報告第 1 号 平成 26 年度事業報告について 第 2 号議案 平成 26 年度収支決算 (貸借対照表、正味財産増減計算書 及び財産目録) 承認の件 報告第 2 号 理事の辞任について 第 3 号議案 理事の選任の件 報告第 3 号 理事長及び副理事長の選定について

② 平成 27 年度 第 2 回評議員会

議決方法	書面決議
議決日	平成 27 年 10 月 7 日 (水)
審議事項	第 1 号議案 平成 27 年度事業計画変更の件 第 2 号議案 平成 27 年度収支補正予算承認の件

③ 平成 27 年度 第 3 回評議員会

開催日時	平成 27 年 11 月 4 日 (水) 15:00～
開催場所	浜松地域イノベーション推進機構 8 階セミナー室
出席者	7 名 (報告第 1 号から 9 名)
審議事項	第 1 号議案 評議員の選任の件 報告第 1 号 第 4 回理事会・第 2 回評議員会書面決議の報告及び 地場産業振興事業の経緯について 第 2 号議案 平成 27 年度事業計画変更の件 第 3 号議案 平成 27 年度収支補正予算の件 第 4 号議案 借入限度枠設定の件 第 5 号議案 テクノビジネスゲート棟の処分の件 報告第 2 号 平成 27 年度上半期の職務執行の状況について

④ 平成 27 年度 第 4 回評議員会

開催日時	平成 28 年 3 月 4 日 (金) 15:00～
開催場所	浜松地域イノベーション推進機構 8 階セミナー室
出席者	8 名
審議事項	第 1 号議案 評議員の選任について 第 2 号議案 高度技術振興基金及び地域産業活性化基金の終了について 第 3 号議案 平成 28 年度事業計画の承認について 第 4 号議案 平成 28 年度収支予算の承認について

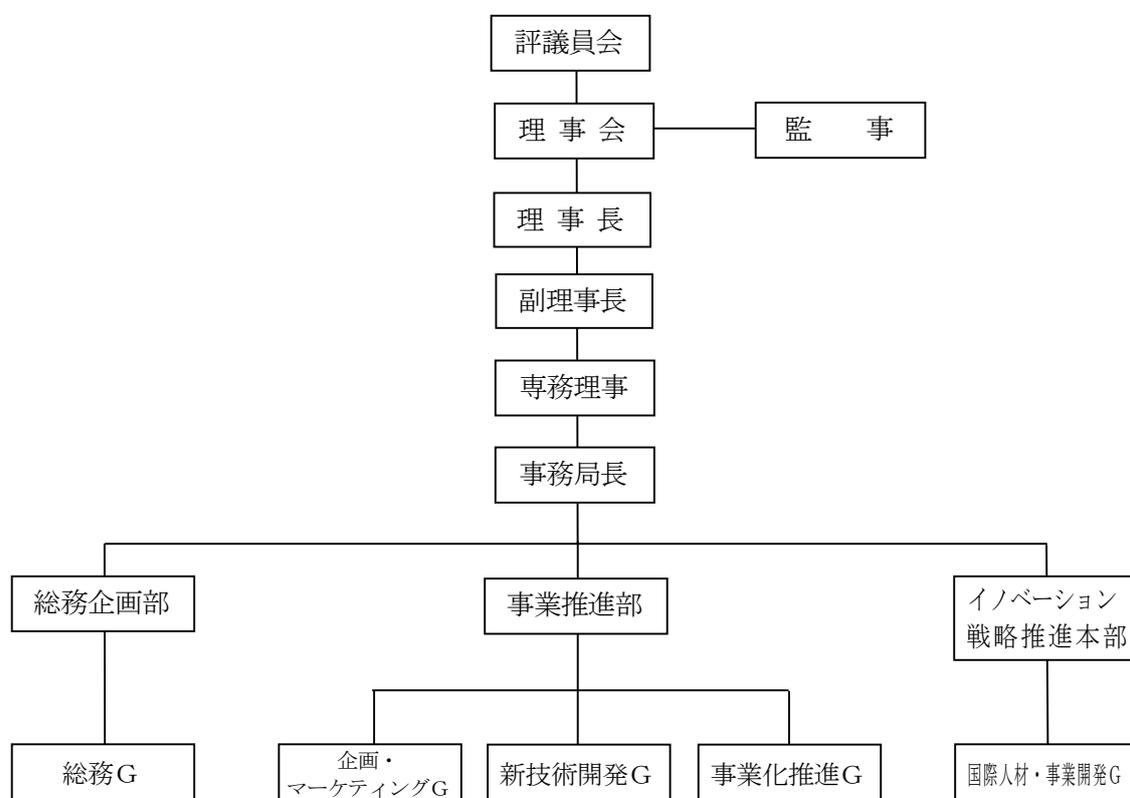
4 賛助会員

平成 28 年 3 月 31 日

1	日星電気 (株)	代表取締役会長	河野 勝男	浜松市西区大久保町 1509
2	(株) 呉竹荘	代表取締役社長	山下 智司	浜松市中区東伊場 1-1-26
3	グランドホテル浜松	総支配人	繁本 武雄	浜松市中区東伊場 1-3-1
4	(協) テクノランド細江	理事長	山本 純夫	浜松市北区細江町中川 7000-1
5	(株) 平安コーポレーション	代表取締役	鈴木 通友	浜松市北区新都田 1-5-2
6	パルステック工業 (株)	代表取締役社長	鈴木 幸博	浜松市北区細江町中川 7000-35
7	(株) 高井製作所	代表取締役社長	高井 理恵	浜松市東区有玉南町 1168
8	エンシュウ (株)	代表取締役社長	土屋 隆史	浜松市南区高塚町 4888
9	(株) エヌエスティー	代表取締役社長	服部 貴應	浜松市北区新都田 4-3-1
10	中野純公認会計士事務所	所長	中野 純	磐田市今之浦 4-17-10
11	(株) 遠鉄トラベル	代表取締役社長	宮田 洋	浜松市中区旭町 12-1
12	(株) ユニバンス	代表取締役社長	村松 道泰	湖西市鷺津 2418
13	やまと興業 (株)	代表取締役社長	小杉 昌弘	浜松市浜北区横須賀 1136
14	(株) 電興社	代表取締役社長	山内 致雄	浜松市南区御本町 98
15	東海電子印刷 (株)	代表取締役会長	伊藤 均	浜松市南区若林町 888-122
16	丸紅 (株)	浜松支店長	余部 俊也	浜松市中区砂山町 353-8

5 事務局体制
〔組織図〕

平成28年3月31日



評議員	11
理事	12
監事	2

総務企画部	
部長	1
グループ長	1
主幹	1
派遣職員	1

事業推進部	
部長	1
グループ長	3
コーディネーター	10
主幹	1
主任	2
職員	1
嘱託職員	3

イノベーション戦略推進本部	
本部長	1
プロジェクトディレクター	1
本部長次	1
事務長	1
事務次長	1
コーディネーター	10
事務員	3



公益財団法人
浜松地域イノベーション推進機構
Hamamatsu Agency for Innovation